

令和元年度第1回献血推進調査会の審議結果について

- ・ 令和元年度第1回献血推進調査会の審議結果について（概要）・・・・・・・・・・ 1

【献血推進調査会 当日資料】

- ・ 資料1 献血推進調査会設置要綱（改正案）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

- ・ 資料2-1 平成30年度供給・献血実績等について（日本赤十字社提出資料）・・ 4

- ・ 資料2-2 献血推進の施策について（厚生労働省の取組）・・・・・・・・・・ 25

- ・ 資料2-3 平成30年度の献血実績の評価について・・・・・・・・・・・・ 27

- ・ 参考資料1 献血の現状（日本赤十字社提出資料）・・・・・・・・・・・・ 29

- ・ 参考資料2 若年層の献血者について（日本赤十字社提出資料）・・・・・・・・ 41

- ・ 参考資料3 令和元年度第1回青少年意見募集事業結果・・・・・・・・・・・・ 48

令和元年度第1回献血推進調査会の審議結果について（概要）

1 開催日時・場所

令和元年8月8日（木）10:00～11:30 新橋会議室8E会議室

2 出席者

○出席委員（15名） ※五十音順、敬称略

石田明、衛藤隆、海老名英治、大平勝美、喜多村祐里、柑本美和、佐々木司、
武田飛呂城、田中純子、長島公之、根岸久美子、花井十伍、松本大樹、松本剛史、
村井伸子（欠席：田中里沙）

○日本赤十字社（2名）

血液事業本部 瀧川経営企画部次長、小室経営企画部献血推進課長

3 議事概要

○議題1 座長の選出及び座長代理の指名

座長に衛藤隆委員、座長代理に田中純子委員が選出された。

○議題2 献血推進調査会設置要綱の改正について

原案通り了承された。

○議題3 平成30年度の献血実績の評価について

令和2年度献血推進計画の策定にあたり、重点事項として、若年層に対する複数回献血を定着させる取組等を記載することとされた。

（委員からの主なご意見）

- ・ 広報関係について、若年層が献血に関心を持てるよう、テレビ・SNS・ポスターなどの各広報媒体を連動させるなど効果的に活用するとともに、費用対効果を十分に検証すること。
- ・ 日本赤十字社が実施したアンケートについて、献血未経験者に対して実施することを含め、今後も継続的にアンケートを行い、PDCAサイクルを通じて効果的な施策を実施すること。
- ・ 若年層対策として、学校において献血の重要性を伝える教育を充実させること。また、アンケートにおいて平日に献血しやすい時間帯として、若年層の一定数が夜間（18～21時）を選択した結果を踏まえ、各地域の実情に合わせて、献血ルームにおける受付時間の延長を実施すること。

献血推進調査会設置要綱（改正案）

（目的）

第1条 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和31年法律第160号）において、血液製剤の安定供給の確保が求められていることを踏まえ、献血推進方策に係る諸事項を調査審議することを目的として、薬事分科会規程第4条に基づき、血液事業部会の下に「献血推進調査会」（以下「調査会」という。）を設置する。

（調査会の審議事項）

第2条 調査会は、以下に掲げる事項を検討する。

- 一 献血推進に関する中長期目標の設定及びその達成状況の評価
- 二 普及啓発活動に関する検討及び効果の検証
- 三 「献血推進計画」案の策定
- 四 その他の献血推進に関する事項

（調査会の組織）

第3条 調査会は、委員、臨時委員及び専門委員（以下「委員等」という。）の中から分科会長が指名する15名程度の調査員をもって構成する。

2 調査審議にあたっては、議題の内容等に応じて、部会長の判断により他の委員等、日本赤十字社の役職員又は参考人に出席を求めることができる。

（座長の選任）

第4条 調査会に座長を置き、調査会に属する調査員の互選により選任する。

- 2 座長は、調査会の事務を掌理する。
- 3 座長に事故があるときは、調査会に属する調査員のうちから座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

（調査会の開催）

第5条 調査会は、年2回程度の開催とする。

（事務局）

第6条 調査会の事務は、医薬・生活衛生局血液対策課が行う。

（雑則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、調査会の運営に関して重要な事項は、座長が定める。

献血推進調査会設置要綱（改正案） 新旧対照表

改正案	現 行
<p><u>(目的)</u> <u>第1条 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律(昭和31年法律第160号)において、血液製剤の安定供給の確保が求められていることを踏まえ、献血推進方策に係る諸事項を調査審議することを目的として、薬事分科会規程第4条に基づき、血液事業部会の下に「献血推進調査会」(以下「調査会」という。)を設置する。</u></p> <p><u>(調査会の審議事項)</u> <u>第2条 調査会は、以下に掲げる事項を検討する。</u> <u>一 献血推進に関する中長期目標の設定及びその達成状況の評価</u> <u>二 普及啓発活動に関する検討及び効果の検証</u> <u>三 「献血推進計画」案の策定</u> <u>四 その他の献血推進に関する事項</u></p> <p><u>(調査会の組織)</u> <u>第3条 調査会は、委員、臨時委員及び専門委員(以下「委員等」という。)の中から分科会長が指名する15名程度の調査員をもって構成する。</u> <u>2 調査審議にあたっては、議題の内容等に応じて、部会長の判断により他の委員等、日本赤十字社の役職員又は参考人に出席を求めることができる。</u> <u>(削る)</u></p> <p><u>(座長の選任)</u> <u>第4条 調査会に座長を置き、調査会に属する調査員の互選により選任する。</u> <u>2 座長は、調査会の事務を掌理する。</u> <u>3 座長に事故があるときは、調査会に属する調査員のうちから座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。</u></p> <p><u>(調査会の開催)</u> <u>第5条 調査会は、年2回程度の開催とする。</u></p> <p><u>(事務局)</u> <u>第6条 調査会の事務は、医薬・生活衛生局血液対策課が行う。</u></p> <p><u>(雑則)</u> <u>第7条 この要綱に定めるもののほか、調査会の運営に関して重要な事項は、座長が定める。</u></p>	<p>1. 目的 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律(昭和31年法律第160号)において、血液製剤の安定供給が求められている。 そのためには、将来にわたって安定的に献血者を確保することが必要不可欠であることから、献血推進方策に係る諸事項を調査審議することを目的として、薬事分科会規程第4条に基づき、血液事業部会の下に「献血推進調査会」を設置する。</p> <p>2. 調査会の審議事項 (1) 献血推進に関する中長期目標の設定及びその達成状況の評価 (2) 普及啓発活動に関する検討及び効果の検証 (3) 「献血推進計画」案の策定 (4) その他の献血推進に関する事項</p> <p>3. 調査会の組織 (1) 調査会は、委員、臨時委員及び専門委員の中から分科会長が指名する15名程度の委員等をもって構成する。 (2) 調査審議にあたっては、議題の内容等に応じて、部会長の判断により他の委員等、日本赤十字社の役職員又は参考人に出席を求めることができる。 (3) 調査会における審議結果については、必要に応じ血液事業部会へ報告することとする。</p> <p>4. 座長の選任 (1) 調査会に座長を置き、調査会に属する委員の互選により選任する。 (2) 座長は、調査会の事務を掌理する。 (3) 座長に事故があるときは、調査会に属する委員等のうちから座長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。</p> <p>5. 調査会のスケジュール 年2回程度の開催とする。</p> <p>6. 事務局 調査会の事務は、医薬・生活衛生局血液対策課が行う。</p> <p>7. その他 この要綱に定めるもののほか、調査会の運営に関して重要な事項は座長が定める。</p>

平成30年度供給・献血実績等について



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和元年8月8日（木）
薬事・食品衛生審議会
血液事業部会献血推進調査会

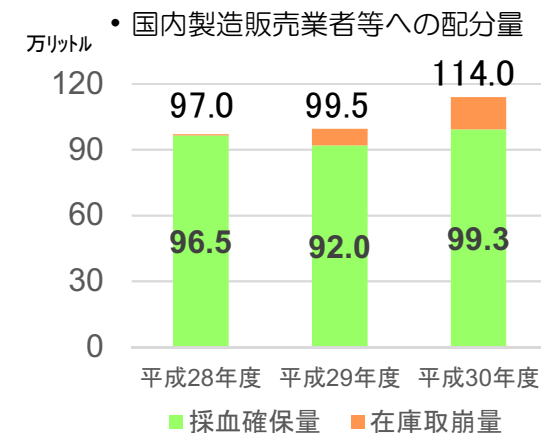
1. 製造実績
2. 供給実績
3. 献血血液確保に係る取組について
4. 献血実績
5. アンケート調査について
6. まとめ

1. 製造実績

種別	献血推進計画における製造見込量	製造量(実績)
赤血球製剤	51万リットル	51.1万リットル
血漿製剤	26万リットル	25.8万リットル
血小板製剤	17万リットル	16.8万リットル

・原料血漿

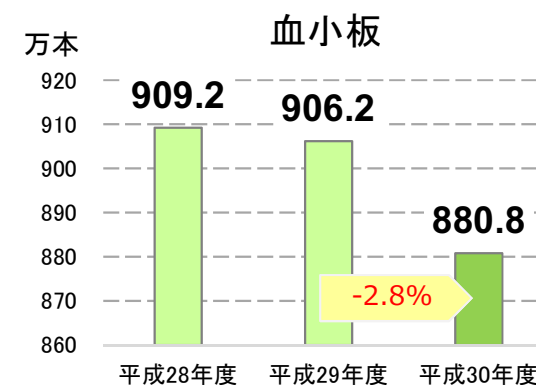
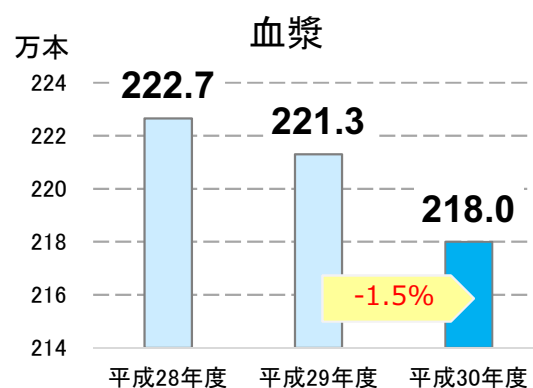
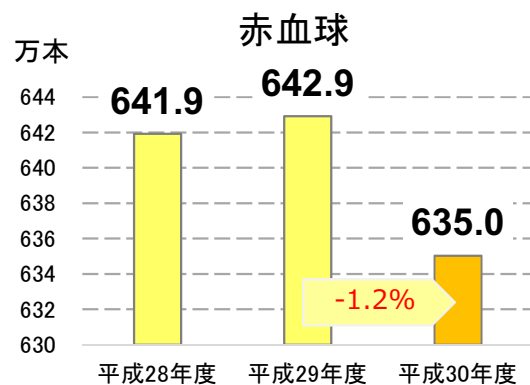
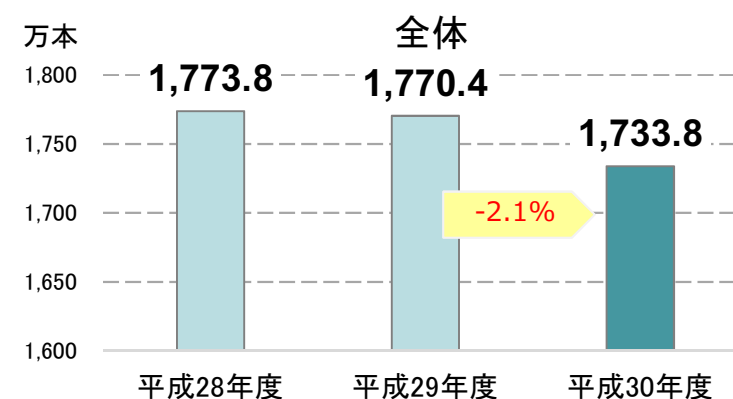
需給計画における確保目標量	確保量(実績)
99.0万リットル	99.3万リットル



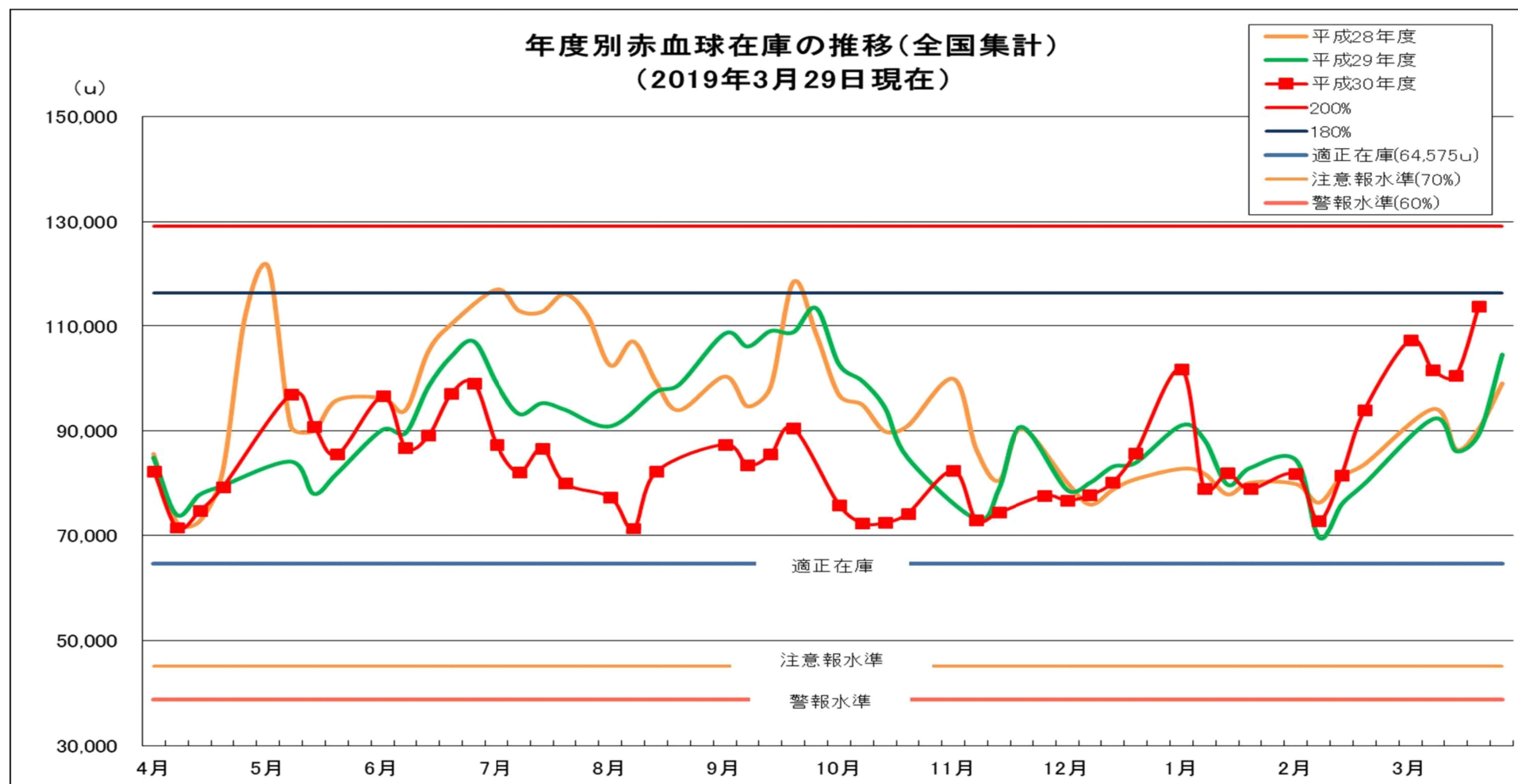
2. 供給実績

- 全体は前年に対し、**2.1%減**の1,733.8万本
- 赤血球製剤は**1.2%減**の635.0万本
- 血漿製剤は**1.5%減**の217.9万本
- 血小板製剤は**2.8%減**の880.8万本

※本数は200mL献血由来を1本とした換算数



赤血球製剤の在庫推移



年間を通じて安定供給が確実に行えている

3. 献血血液確保に係る取組について

(1) 広報資材の作成

- ①血液事業をわかりやすく理解していただくパンフレット「愛のかたち献血（小・中学生用及び一般用）」作成
 - ・平成30年度(29年度)：小・中学生用95,100部(76,000部)、一般用105,700部(95,000部)
- ②高校生や大学生をはじめ若年層に受け入れられやすい内容の情報誌「献血Walker」を作成
 - ・平成30年度：630,000部（平成29年度600,000部）
- ③献血啓発用ポスターや「はたちの献血」キャンペーンポスター等を作成
 - ・愛の血液助け合い運動月間 平成30年度：27,665部（平成29年度 28,000部）
 - ・世界献血者デー 平成30年度： 3,830部（平成29年度 5,000部）
 - ・はたちの献血キャンペーン 平成30年度：20,080部（平成29年度 19,000部）



(2) 映像素材の作成

- ①テレビ、ラジオCM「はたちの献血」キャンペーン用
- ②献血をわかりやすく視覚で訴えるインフォグラフィック動画「What's KENKETSU?（1分版、3分版）」を更新
- ③YouTuber「東海オンエア」とのコラボ動画 237万回視聴（Twitter上での視聴含む）
- ④鉄拳 献血啓発パラパラ漫画「けんけつ」 76万回視聴
⇒ 各血液センターのSNS等からの情報発信やYouTube等で動画配信



(3) 若年層に対する働きかけ

- ①年代別献血目標人数の設定（10～30代）
平成29年度より、行政との連携により都道府県別に目標人数を設定
 - ・週単位での進捗管理（全国の血液センターで情報を共有）
 - ・各ブロック、各血液センターにおいて若年層強化対策を実施

- ②学校での献血機会を拡大し若年層献血者の確保を図るため、学校献血を強化した
 - ・高等学校：実施校数1校減少 30年度1,306校（前年度1,307校）
 - ・大学、専門学校等：実施校数7校増加 30年度844校（前年度837校）

（参考資料2 1ページ）

- ③献血セミナーの実施（参考資料1 11ページ）

3. 献血血液確保に係る取組について

④「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」

文部科学省及び厚生労働省の協力を得、命の尊さや献血の大切さを考える機会創出のため「赤十字・いのちと献血俳句コンテスト」を実施
・平成30年度応募数：136,524句（募集ポスター9,000部、チラシ300,000部）
（平成29年度応募数：233,492句）

⑤若者に人気のアニメ“はたらく細胞”とのタイアップによる献血推進

タイアップ第一弾 アニメ第一話先行配信、第二弾 卓上カレンダー15,000部配付

(4) その他の普及啓発 『LOVE in Actionプロジェクト』（献血推進プロジェクト） ⇒特に10代と20代前半の献血者を増加させることを目的に展開

①LINEによる情報発信 （約372万件友達追加、オリジナルスタンプダウンロード⇒約272万件）

②若者に人気のアニメ“ラブライブ！サンシャイン!!”とのタイアップによる献血推進

オリジナルクリアファイル30,000枚配付

③LOVE in Action Meeting(LIVE)や全国各地で「ご当地大作戦」及び献血セミナー「いのちの授業」を実施

(MC：“レモンさんこと” 山本シュウ氏、小林麻耶氏)

※「ご当地大作戦」…全国で3か所実施（福井県、大分県、大阪府）

※「いのちの授業」…全国で2校実施（愛知県：愛知産業大学工業高等学校 大分県：大分東明高等学校）

④受血者である友寄蓮氏による献血セミナー「ありがとうの手紙 From 献血で救われたいのち」を実施

※全国で4校実施（群馬県：新島学園高等学校 長野県：長野県小諸高等学校 等）

3. 献血血液確保に係る取組について

各種広報資材

(はたちの献血)

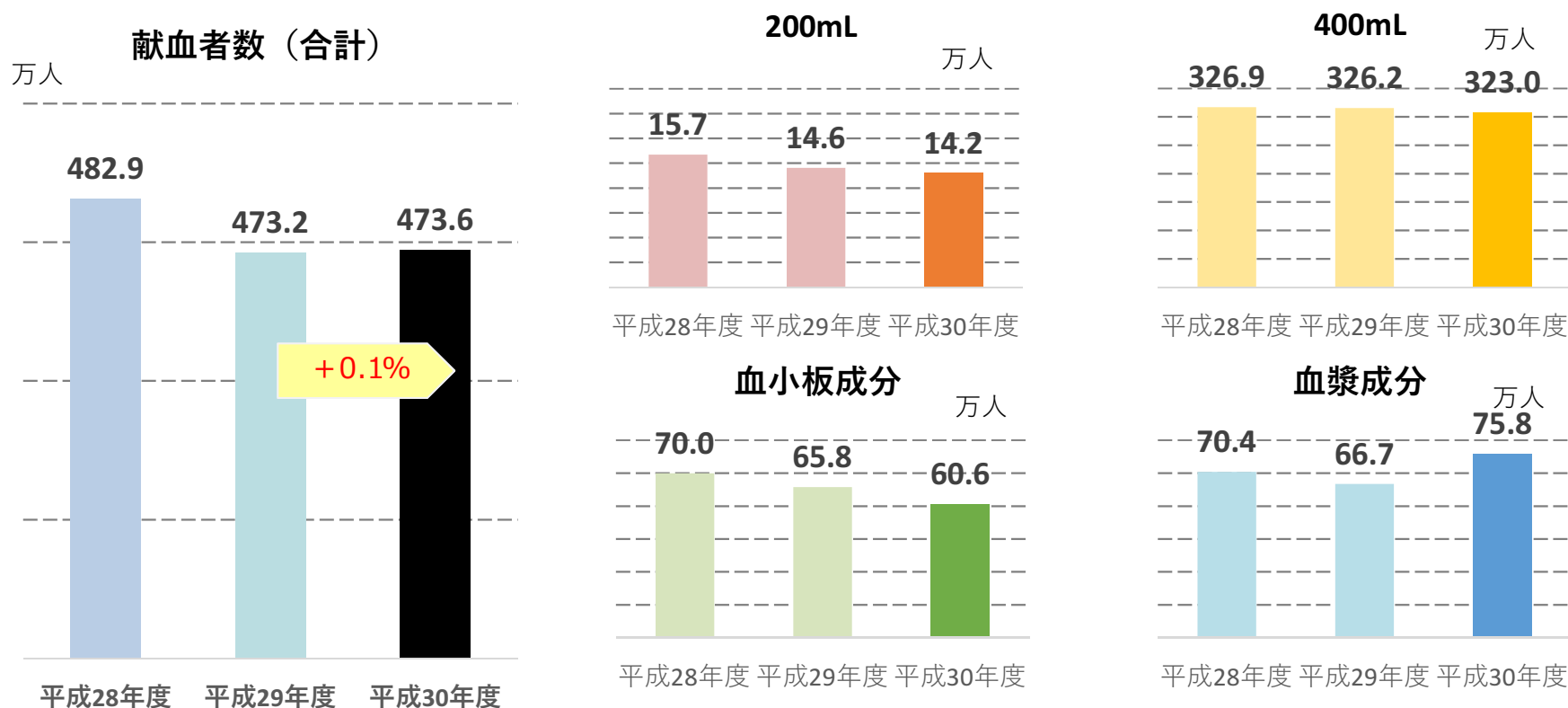


(アニメとのコラボ)



4. 献血実績

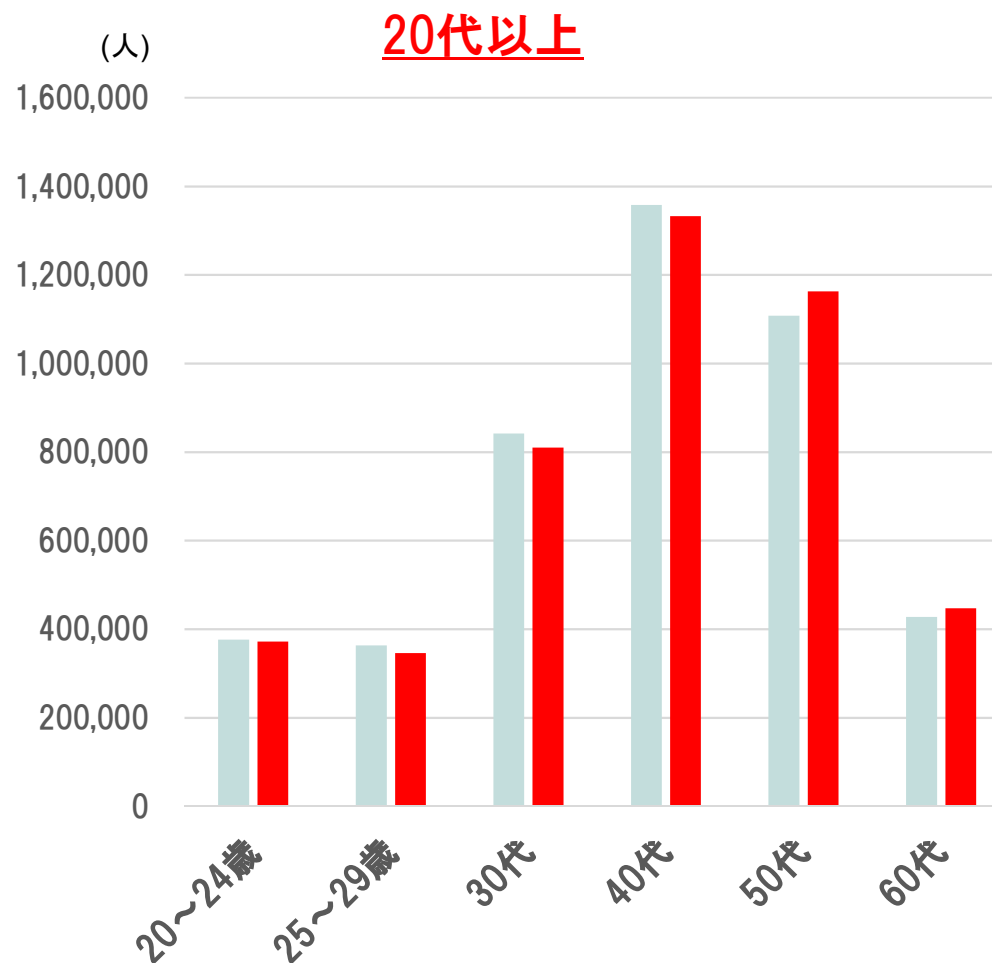
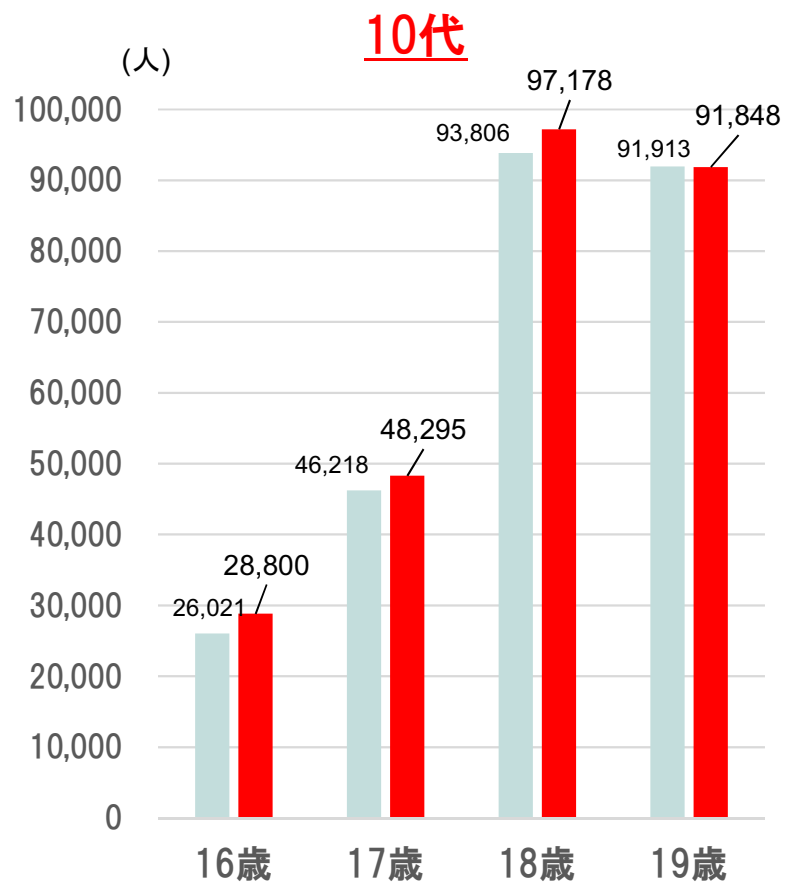
総献血者数は、平成29年度比で3,803人増（0.1%増）の473万6千人



・ 献血推進計画における確保目標量に対する実績

種別	目標量	採血量(実績)
全血採血	133万リットル	132万リットル
血漿成分採血	37万リットル	38万リットル
血小板成分採血	29万リットル	29万リットル

年代別献血状況（対前年度）

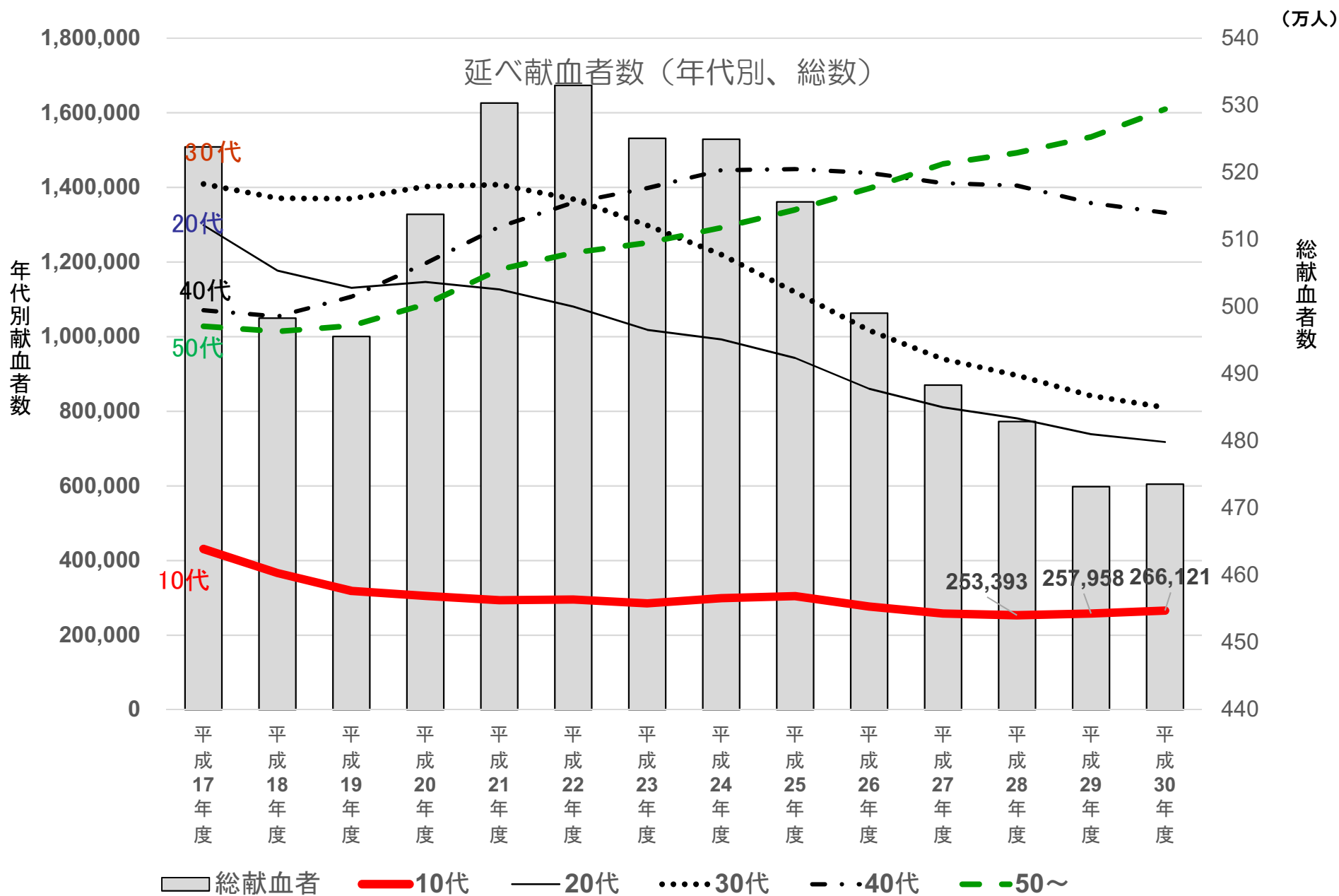


■ 29年度 ■ 30年度

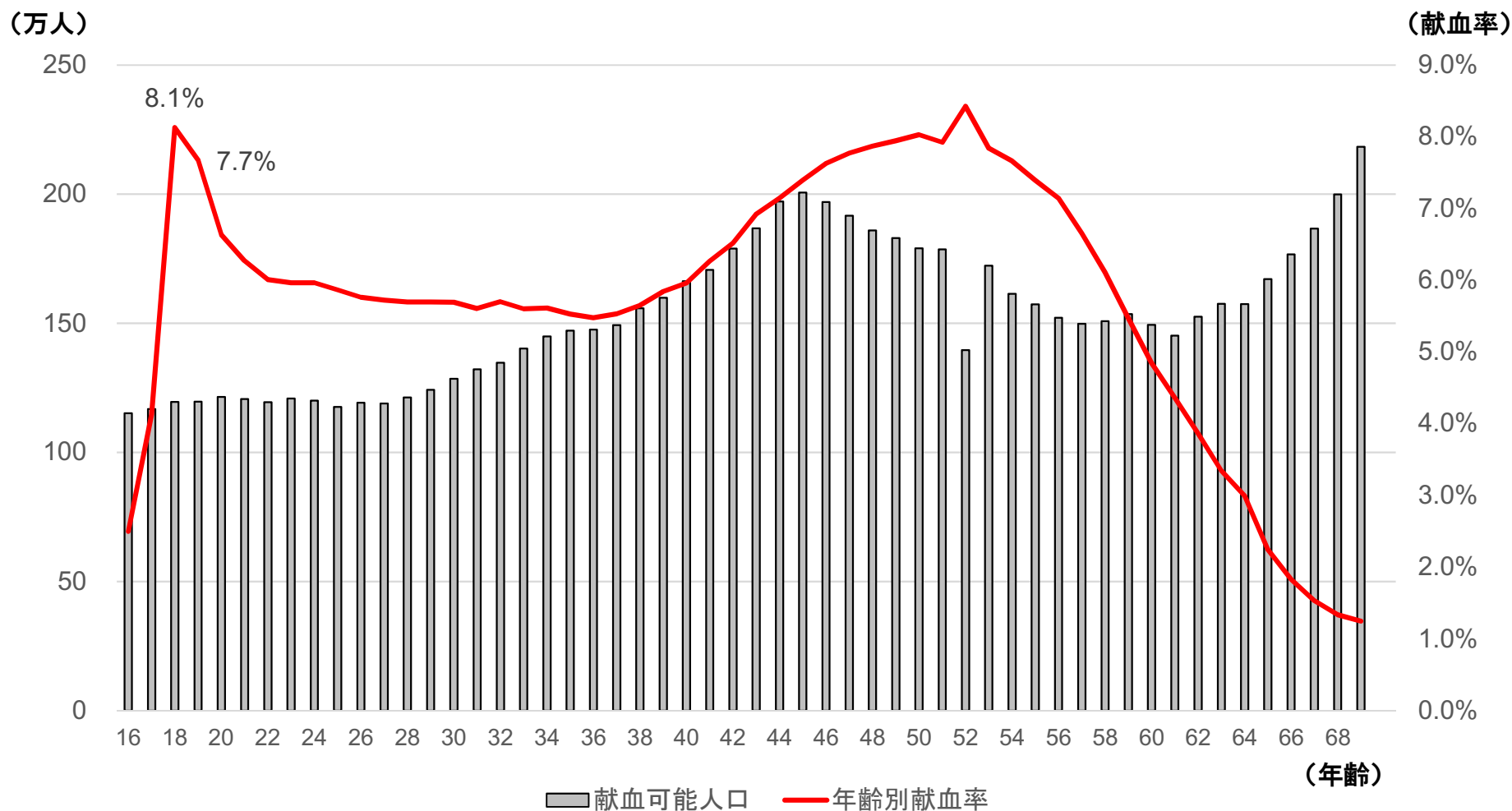
■ 29年度 ■ 30年度

10代の献血者は、8,163人（3.2%増）前年度を上回った。

4. 献血実績

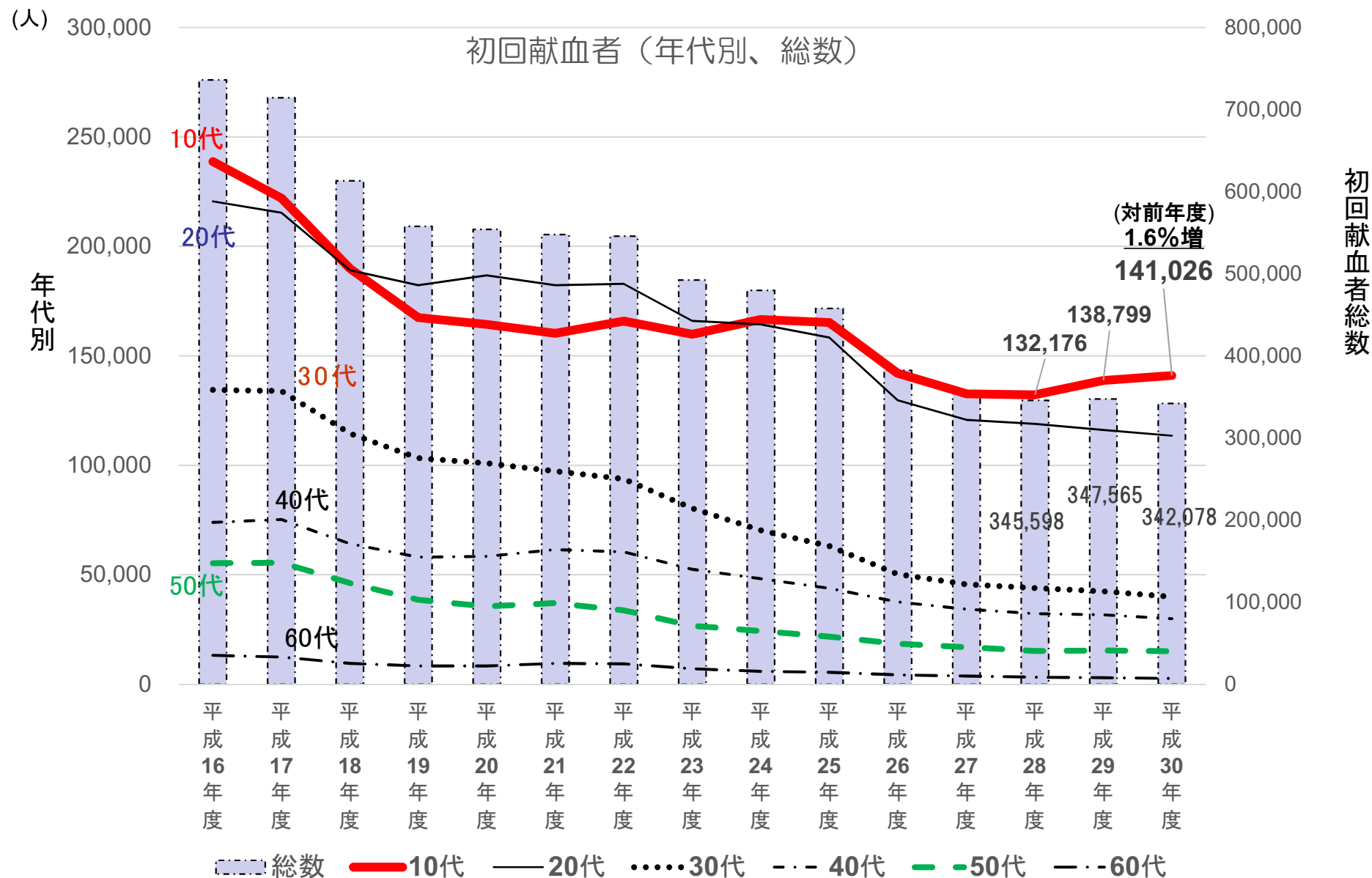


年齢別献血可能人口と献血率



年齢別献血率では、18歳(8.1%)、19歳(7.7%)をピークに35歳までは減少する傾向がある。

4. 献血実績



10代の初回献血者は、2,227人（1.6%増）前年度を上回った。

4. 献血実績

都道府県別10代献血者

年代	10代					年代	10代				
	16歳～19歳						16歳～19歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	14,322	15,370	15,141	107.3%	101.5%	滋賀県	2,300	2,514	2,378	109.3%	105.7%
北海道ブロック	14,322	15,370	15,141	107.3%	101.5%	京都府	4,870	4,960	4,836	101.8%	102.6%
青森県	3,600	3,996	3,707	111.0%	107.8%	大阪府	17,410	17,371	17,296	99.8%	100.4%
岩手県	2,650	1,973	2,327	74.5%	84.8%	兵庫県	10,383	10,903	10,424	105.0%	104.6%
宮城県	5,952	6,246	6,096	104.9%	102.5%	奈良県	1,900	1,930	1,942	101.6%	99.4%
秋田県	2,202	1,898	1,883	86.2%	100.8%	和歌山県	2,310	2,486	2,230	107.6%	111.5%
山形県	2,098	2,182	2,280	104.0%	95.7%	近畿ブロック	39,173	40,164	39,106	102.5%	102.7%
福島県	3,200	3,346	3,445	104.6%	97.1%	鳥取県	870	883	917	101.5%	96.3%
東北ブロック	19,702	19,641	19,738	99.7%	99.5%	島根県	800	1,045	846	130.6%	123.5%
茨城県	6,420	6,642	6,085	103.5%	109.2%	岡山県	4,474	4,449	4,518	99.4%	98.5%
栃木県	8,071	8,806	8,397	109.1%	104.9%	広島県	6,332	6,216	6,478	98.2%	96.0%
群馬県	5,650	6,027	5,665	106.7%	106.4%	山口県	1,690	2,051	2,007	121.4%	102.2%
埼玉県	15,615	14,510	14,658	92.9%	99.0%	徳島県	1,089	1,062	980	97.5%	108.4%
千葉県	12,355	12,122	11,854	98.1%	102.3%	香川県	1,794	1,887	1,840	105.2%	102.6%
東京都	29,720	28,774	27,591	96.8%	104.3%	愛媛県	2,962	3,388	2,850	114.4%	118.9%
神奈川県	15,186	15,379	14,879	101.3%	103.4%	高知県	1,315	1,305	1,426	99.2%	91.5%
新潟県	5,275	5,447	4,797	103.3%	113.6%	中四国ブロック	21,326	22,286	21,862	104.5%	101.9%
山梨県	3,668	3,398	3,368	92.6%	100.9%	福岡県	11,320	12,330	11,530	108.9%	106.9%
長野県	2,305	2,735	2,591	118.7%	105.6%	佐賀県	1,260	1,273	1,184	101.0%	107.5%
関東甲信越ブロック	104,265	103,840	99,885	99.6%	104.0%	長崎県	2,918	2,863	2,732	98.1%	104.8%
富山県	1,997	2,259	1,862	113.1%	121.3%	熊本県	4,743	4,880	4,727	102.9%	103.2%
石川県	1,930	2,520	2,133	130.6%	118.1%	大分県	1,954	1,840	1,909	94.2%	96.4%
福井県	1,080	1,213	1,078	112.3%	112.5%	宮崎県	2,270	1,797	2,100	79.2%	85.6%
岐阜県	3,231	3,355	3,371	103.8%	99.5%	鹿児島県	2,855	2,945	3,088	103.2%	95.4%
静岡県	7,244	7,403	7,365	102.2%	100.5%	沖縄県	4,061	3,783	3,929	93.2%	96.3%
愛知県	12,665	14,264	13,213	112.6%	108.0%	九州ブロック	31,381	31,711	31,199	101.1%	101.6%
三重県	1,962	2,095	2,005	106.8%	104.5%	合計	260,278	266,121	257,958	102.2%	103.2%
東海北陸ブロック	30,109	33,109	31,027	110.0%	106.7%	差異 (H30-H29)	+8,163				

4. 献血実績

都道府県別20代献血者

年代	20代					年代	20代				
	20～29歳						20～29歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	37,139	36,910	37,423	99.4%	98.6%	滋賀県	6,440	5,885	6,215	91.4%	94.7%
北海道ブロック	37,139	36,910	37,423	99.4%	98.6%	京都府	17,500	17,015	17,194	97.2%	99.0%
青森県	7,500	6,434	6,395	85.8%	100.6%	大阪府	65,478	59,592	60,970	91.0%	97.7%
岩手県	7,570	6,501	6,836	85.9%	95.1%	兵庫県	32,518	29,434	29,867	90.5%	98.6%
宮城県	16,160	15,991	16,371	99.0%	97.7%	奈良県	6,940	5,922	6,525	85.3%	90.8%
秋田県	7,712	5,968	5,843	77.4%	102.1%	和歌山県	5,080	5,038	4,672	99.2%	107.8%
山形県	6,255	5,745	6,029	91.8%	95.3%	近畿ブロック	133,956	122,886	125,443	91.7%	98.0%
福島県	11,781	10,513	11,272	89.2%	93.3%	鳥取県	3,550	3,185	3,323	89.7%	95.8%
東北ブロック	56,978	51,152	52,746	89.8%	97.0%	島根県	2,931	2,858	2,727	97.5%	104.8%
茨城県	14,331	12,825	13,048	89.5%	98.3%	岡山県	12,032	11,424	11,799	94.9%	96.8%
栃木県	11,752	11,089	10,935	94.4%	101.4%	広島県	21,440	18,435	19,127	86.0%	96.4%
群馬県	12,454	11,148	11,601	89.5%	96.1%	山口県	5,398	6,073	5,997	112.5%	101.3%
埼玉県	34,706	31,114	32,946	89.7%	94.4%	徳島県	4,267	3,757	3,857	88.0%	97.4%
千葉県	36,107	33,679	34,771	93.3%	96.9%	香川県	5,121	4,352	4,646	85.0%	93.7%
東京都	123,215	103,910	109,201	84.3%	95.2%	愛媛県	8,095	7,678	7,258	94.8%	105.8%
神奈川県	45,208	42,250	42,620	93.5%	99.1%	高知県	4,522	4,029	4,245	89.1%	94.9%
新潟県	15,923	14,208	14,027	89.2%	101.3%	中四国ブロック	67,356	61,791	62,979	91.7%	98.1%
山梨県	5,035	4,580	4,894	91.0%	93.6%	福岡県	32,170	29,292	28,981	91.1%	101.1%
長野県	11,127	9,682	9,986	87.0%	97.0%	佐賀県	4,580	3,864	4,253	84.4%	90.9%
関東甲信越ブロック	309,858	274,485	284,029	88.6%	96.6%	長崎県	8,376	7,148	7,312	85.3%	97.8%
富山県	5,991	5,539	5,562	92.5%	99.6%	熊本県	10,419	9,662	10,098	92.7%	95.7%
石川県	6,503	6,103	6,392	93.8%	95.5%	大分県	6,297	6,345	6,401	100.8%	99.1%
福井県	4,298	3,818	3,907	88.8%	97.7%	宮崎県	6,500	5,517	6,186	84.9%	89.2%
岐阜県	9,329	7,803	8,658	83.6%	90.1%	鹿児島県	9,826	9,363	9,615	95.3%	97.4%
静岡県	17,632	15,556	16,256	88.2%	95.7%	沖縄県	9,547	8,206	8,460	86.0%	97.0%
愛知県	48,853	45,404	47,360	92.9%	95.9%	九州ブロック	87,715	79,397	81,306	90.5%	97.7%
三重県	7,187	6,729	6,876	93.6%	97.9%	合計	792,795	717,573	738,937	90.5%	97.1%
東海北陸ブロック	99,793	90,952	95,011	91.1%	95.7%	差異 (H30-H29)			-21,364		

4. 献血実績

都道府県別30代献血者

年代	30代					年代	30代				
	30～39歳						30～39歳				
都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比	都道府県	① 計画数	② 献血者数	③ 献血者数 (29年度)	④ 達成率	⑤ 前年度比
北海道	39,809	39,296	40,379	98.7%	97.3%	滋賀県	8,741	8,176	8,215	93.5%	99.5%
北海道ブロック	39,809	39,296	40,379	98.7%	97.3%	京都府	16,100	15,859	16,143	98.5%	98.2%
青森県	9,500	7,828	8,139	82.4%	96.2%	大阪府	66,224	59,442	61,987	89.8%	95.9%
岩手県	9,252	7,741	8,098	83.7%	95.6%	兵庫県	37,715	32,869	33,853	87.2%	97.1%
宮城県	15,650	15,340	15,743	98.0%	97.4%	奈良県	8,260	7,194	7,851	87.1%	91.6%
秋田県	8,751	6,747	6,962	77.1%	96.9%	和歌山県	6,770	6,569	6,275	97.0%	104.7%
山形県	7,498	7,272	7,247	97.0%	100.3%	近畿ブロック	143,810	130,109	134,324	90.5%	96.9%
福島県	13,232	13,821	14,316	104.5%	96.5%	鳥取県	4,850	4,253	4,524	87.7%	94.0%
東北ブロック	63,883	58,749	60,505	92.0%	97.1%	島根県	3,844	3,540	3,509	92.1%	100.9%
茨城県	17,542	15,791	15,600	90.0%	101.2%	岡山県	13,908	13,116	13,324	94.3%	98.4%
栃木県	15,438	14,373	14,553	93.1%	98.8%	広島県	23,377	20,246	20,556	86.6%	98.5%
群馬県	16,166	14,147	15,060	87.5%	93.9%	山口県	7,459	7,758	7,876	104.0%	98.5%
埼玉県	40,722	36,235	38,636	89.0%	93.8%	徳島県	5,732	5,044	5,305	88.0%	95.1%
千葉県	40,476	36,296	38,036	89.7%	95.4%	香川県	7,066	5,980	6,318	84.6%	94.7%
東京都	118,375	102,691	107,805	86.8%	95.3%	愛媛県	10,083	8,676	9,039	86.0%	96.0%
神奈川県	54,446	48,314	49,710	88.7%	97.2%	高知県	5,452	4,722	5,125	86.6%	92.1%
新潟県	17,231	15,534	15,580	90.2%	99.7%	中四国ブロック	81,771	73,335	75,576	89.7%	97.0%
山梨県	5,708	4,933	5,267	86.4%	93.7%	福岡県	37,740	34,306	34,924	90.9%	98.2%
長野県	13,798	12,413	12,959	90.0%	95.8%	佐賀県	6,040	5,472	5,816	90.6%	94.1%
関東甲信越ブロック	339,902	300,727	313,206	88.5%	96.0%	長崎県	10,907	9,625	10,112	88.2%	95.2%
富山県	7,247	6,279	6,726	86.6%	93.4%	熊本県	13,581	12,581	13,068	92.6%	96.3%
石川県	7,699	7,218	7,324	93.8%	98.6%	大分県	8,548	8,739	8,898	102.2%	98.2%
福井県	5,328	4,710	4,690	88.4%	100.4%	宮崎県	7,500	6,980	7,767	93.1%	89.9%
岐阜県	12,202	9,766	11,416	80.0%	85.5%	鹿児島県	12,387	11,598	11,549	93.6%	100.4%
静岡県	25,097	21,744	23,047	86.6%	94.3%	沖縄県	13,691	11,932	12,310	87.2%	96.9%
愛知県	54,179	47,467	50,454	87.6%	94.1%	九州ブロック	110,394	101,233	104,444	91.7%	96.9%
三重県	10,285	9,489	9,778	92.3%	97.0%	合計	901,606	810,122	841,869	89.9%	96.2%
東海北陸ブロック	122,037	106,673	113,435	87.4%	94.0%	差異 (H30-H29)			-31,747		

5. アンケート調査について

1 調査目的

献血者へのアンケートを通して献血に関するサービス等の評価分析を行い、より充実した献血推進を図る。

2 調査期間および調査方法

期間 令和元年7月9日（火）～同15日（月）

方法 ラブラッドWebサイトでのアンケート実施

※令和元年7月9日～同10日に献血したラブラッド会員や10代のラブラッド会員にアンケートの案内メールおよびLINEを配信

3 有効回答数

11,081名

（10代2,015名、20代1,138名、30代1,620名、40代～60代6,308名）

4 調査結果の概要

	Q1 どのくらいの頻度で献血にご協力いただいていますか。(前回初めて献血にご協力いただいた方は「初めて」を選択してください。)						Q2 よく献血する会場をお教えてください。			
	総計	①毎月1回以上	②2か月～6か月に1回程度	③6か月～1年に1回程度	④数年に1回程度	⑤初めて(献血回数1回)	総計	①献血バス(職場や学校での献血含む)	②献血ルーム(血液センター含む)	③献血ルーム・献血バスの両方
10代	2,015	11.3%	42.7%	14.2%	1.9%	29.9%	2,015	23.3%	67.3%	9.4%
20代	1,138	23.6%	41.7%	16.7%	8.0%	9.9%	1,138	14.1%	78.2%	7.7%
30代	1,620	30.9%	40.7%	15.1%	10.5%	2.9%	1,620	10.4%	82.6%	7.0%
40代～60代	6,308	35.1%	42.1%	15.1%	6.4%	1.3%	6,308	13.0%	79.2%	7.7%
総計	11,081	29.0%	41.9%	15.1%	6.4%	7.6%	11,081	14.6%	77.4%	7.9%

	Q3 平日に献血しやすい時間帯を教えてください。								Q4 土日祝日に献血しやすい時間帯を教えてください。							
	総計	①早朝(7-9時)	②午前(9時-12時)	③午後(12時-15時)	④夕方(15時-18時)	⑤夜間(18時-21時)	⑥深夜(21時以降)	⑦平日は献血できない	総計	①早朝(7-9時)	②午前(9時-12時)	③午後(12時-15時)	④夕方(15時-18時)	⑤夜間(18時-21時)	⑥深夜(21時以降)	⑦土日祝日は献血できない
10代	2,015	0.8%	5.2%	15.0%	45.7%	10.6%	1.5%	21.2%	2,015	2.0%	22.7%	41.9%	25.3%	3.7%	0.5%	3.8%
20代	1,138	1.0%	17.8%	23.6%	21.6%	11.4%	4.4%	20.2%	1,138	2.1%	27.2%	38.2%	22.7%	2.5%	1.1%	6.2%
30代	1,620	2.0%	29.1%	20.9%	10.1%	10.6%	3.9%	23.5%	1,620	3.4%	39.9%	30.9%	11.2%	2.0%	1.0%	11.6%
40代～60代	6,308	1.9%	35.1%	20.0%	10.9%	8.9%	2.6%	20.5%	6,308	4.7%	45.2%	27.5%	9.7%	1.7%	0.5%	10.6%
総計	11,081	1.6%	27.0%	19.6%	18.2%	9.7%	2.8%	21.1%	11,081	3.8%	38.5%	31.7%	14.1%	2.2%	0.6%	9.1%

献血しやすい時間帯は、平日、土日祝日ともに「午前」が最も支持されている。平日夜間については、20代・30代において1割を超える支持となっている。こうした結果を踏まえ、受付時間の延長を視野に入れて検討を進める。

Q5 初めて献血に行ったきっかけを教えてください。

	総計	①社会貢献をしたい(人の役に立ちたい)から	②周りに輸血を受けた人がいたから	③周りの人が献血をしていたから	④献血会場が近くにあるから	⑤職場又は学校に献血バスが来たから	⑥街頭での呼びかけを聞いて	⑦自己の健康管理として(血液検査の結果をもらえるから)	⑧献血のキャンペーンに参加するため(みんなの献血、はたちの献血など)	⑨献血セミナーを受講して	⑩学校の授業で献血について学んで	⑪イベントへの参加や、記念品などの特典が欲しいから	⑫無料の漫画・雑誌が読めたり、飲み物・お菓子がもらえるから	⑬空き時間の活用	⑭その他
10代	2,015	29.5%	2.1%	13.9%	3.8%	19.8%	3.9%	3.2%	1.7%	0.5%	2.5%	2.5%	4.0%	5.3%	7.3%
20代	1,138	23.3%	3.1%	13.3%	3.3%	24.3%	5.6%	6.6%	1.3%	0.2%	1.3%	1.4%	3.1%	7.0%	6.2%
30代	1,620	25.6%	3.3%	13.0%	3.1%	26.7%	5.2%	6.4%	0.8%	0.0%	1.1%	1.7%	2.9%	3.9%	6.4%
40代~60代	6,308	30.4%	4.2%	7.3%	2.6%	29.5%	5.9%	7.8%	0.9%	0.0%	0.5%	0.9%	1.3%	2.9%	5.8%
総計	11,081	28.8%	3.6%	10.0%	3.0%	26.8%	5.4%	6.6%	1.1%	0.1%	1.0%	1.4%	2.2%	3.9%	6.2%

Q6 献血を続ける理由を教えてください。(複数回答可)

	総計	①社会貢献をしたい(人の役に立ちたい)から	②周りに輸血を受けた人がいたから	③周りの人が献血をしているから	④献血会場が近くにあるから	⑤定期的に職場・学校に献血バスが来るから	⑥街頭での呼びかけをしているから	⑦献血の依頼メール・ハガキが来るから	⑧自己の健康管理として(血液検査の結果をもらえるから)	⑨献血のキャンペーンに参加したいから	⑩イベントへの参加や、記念品などの特典が欲しいから	⑪無料の漫画・雑誌が読めたり、飲み物・お菓子がもらえるから	⑫表彰・顕彰を受けたいから(有功章・ガラス器等)	⑬空き時間の活用	⑭今後献血を続けるつもりはない	⑮その他
10代	2,015	71.2%	3.7%	8.6%	18.8%	11.9%	7.2%	5.7%	27.4%	10.4%	17.3%	26.0%	8.1%	22.6%	0.1%	4.4%
20代	1,138	67.2%	7.2%	6.6%	17.1%	9.1%	6.8%	8.6%	43.1%	10.5%	16.6%	25.8%	9.4%	30.3%	0.2%	4.5%
30代	1,620	70.5%	8.2%	4.9%	15.2%	5.4%	6.5%	9.1%	50.3%	9.9%	17.4%	21.9%	8.8%	28.6%	0.1%	5.2%
40代~60代	6,308	77.4%	9.3%	2.2%	10.1%	6.2%	3.7%	9.3%	56.4%	6.2%	9.0%	10.7%	5.1%	14.9%	0.0%	3.5%
総計	11,081	74.2%	7.9%	4.2%	13.2%	7.4%	5.0%	8.5%	48.9%	8.0%	12.5%	16.7%	6.6%	19.9%	0.1%	4.0%

初めての献血のきっかけは、「社会貢献をしたい」が28.8%で最も高い。次いで「職場又は学校に献血バスが来たから」が26.8%である。一方、続ける理由としては、「社会貢献をしたい」が74.2%で最も高く、次いで「自己の健康管理として」が48.9%である。このことから、社会貢献を訴えていくこと、検査サービスの結果は献血者にとって重要な動機であることと、初めての献血のきっかけとして献血バスが有効であることが伺える。

Q7 献血の広報に効果的だと思うものを教えてください。

	総計	①テレビCM	②YouTube等のインターネット動画	③ラジオCM	④街頭広告	⑤ポスター	⑥LINE	⑦Facebook	⑧Twitter	⑨Instagram	⑩献血の依頼メール(ラブラッド)	⑪献血の依頼ハガキ	⑫献血の依頼電話	⑬街頭での献血の呼びかけ	⑭その他
10代	2,015	30.7%	27.1%	0.9%	3.0%	3.5%	3.9%	0.0%	11.2%	6.8%	2.0%	1.6%	0.2%	6.1%	2.8%
20代	1,138	29.1%	26.0%	1.6%	3.3%	2.7%	6.9%	0.8%	9.6%	5.5%	3.4%	2.5%	0.3%	5.4%	2.8%
30代	1,620	32.2%	20.1%	2.4%	2.4%	2.5%	6.9%	1.4%	6.2%	4.8%	5.9%	1.9%	0.4%	8.4%	4.3%
40代~60代	6,308	41.5%	13.1%	2.1%	3.4%	2.9%	5.8%	1.6%	3.2%	2.0%	9.0%	3.0%	0.5%	8.7%	3.3%
総計	11,081	36.9%	18.0%	1.9%	3.1%	2.9%	5.7%	1.2%	5.7%	3.6%	6.7%	2.6%	0.4%	7.8%	3.3%

Q8 知っている献血のキャンペーン・広報媒体を教えてください。(複数回答可)

Q9 Q8で回答いただいたものうち、献血への興味につながったものを選択してください。(複数回答可)

	総計	①みんなの献血	②はたちの献血	③愛の血液助け合い運動	④LOVE in Action	⑤赤十字・いのちと献血俳句コンテスト	⑥献血セミナー	⑦学校で配布された教材(HOP STEP JUMP)	⑧献血アイドル(KKT21)のアニメ動画	⑨鉄拳 献血啓発バラ漫画「けんけつ」	⑩東海オンエアとのコラボ動画	⑪知っているものはない	総計	①みんなの献血	②はたちの献血	③愛の血液助け合い運動	④LOVE in Action	⑤赤十字・いのちと献血俳句コンテスト	⑥献血セミナー	⑦学校で配布された教材(HOP STEP JUMP)	⑧献血アイドル(KKT21)のアニメ動画	⑨知っているものはない・興味につながったものはない	⑩鉄拳 献血啓発バラ漫画「けんけつ」	⑪東海オンエアとのコラボ動画
10代	2,015	50.1%	58.2%	6.4%	31.0%	16.0%	14.1%	15.3%	3.5%	8.1%	10.8%	17.7%	2,015	25.1%	27.4%	2.8%	16.1%	3.4%	5.5%	7.1%	1.3%	37.4%	4.5%	8.5%
20代	1,138	49.7%	69.8%	9.1%	46.6%	17.1%	10.9%	4.5%	3.9%	8.3%	6.7%	14.3%	1,138	24.3%	31.5%	3.5%	24.0%	2.5%	3.5%	1.8%	1.2%	39.1%	3.3%	4.5%
30代	1,620	51.8%	76.6%	12.5%	53.0%	19.3%	9.1%	2.0%	2.8%	7.4%	1.6%	12.4%	1,620	27.8%	23.1%	4.5%	26.9%	3.1%	2.5%	0.8%	0.9%	40.7%	3.0%	0.3%
40代~60代	6,308	39.4%	81.6%	18.0%	43.9%	18.7%	7.3%	1.4%	2.0%	6.6%	0.7%	9.4%	6,308	25.7%	30.5%	10.6%	25.3%	3.1%	2.9%	0.8%	1.0%	30.6%	3.3%	0.5%
総計	11,081	44.2%	75.4%	14.1%	43.1%	18.1%	9.2%	4.3%	2.6%	7.2%	3.3%	11.8%	11,081	25.8%	29.0%	7.6%	23.7%	3.1%	3.4%	2.0%	1.1%	34.2%	3.5%	2.3%

献血の広報手法において、「テレビCM」が36.9%で最も有効であることが伺える。ただし、10代および20代では「YouTube等のインターネット動画」もテレビCMに近い支持を得ており、若年層にはYouTube等が十分に有効であると思料される。令和元年6月に始まったばかりの「みんなの献血」は、LOVE in Actionより高い認知度となっている。特に、10代においてその傾向が顕著である。今後は、認知を高めていくと共に、献血への興味喚起、そして献血協力への行動までつなげていくことが献血血液確保の上で重要となってくる。

Q10 あなたは複数回献血クラブがラブラッドに変わったことをご存じですか。					Q11 あなたがラブラッド(複数回献血クラブ)に登録した理由は次のうちどれですか。								Q12 ラブラッドのサービスのうち、献血のきっかけになったものはありますか。							
総計	①知っていた	②知らなかった	③ラブラッドに変わってから登録した	総計	①献血会場でスタッフにすすめられて	②家族や友人にすすめられて	③検査結果を確認したいから	④ポイントを貯めたいから	⑤献血の予約ができるから	⑥登録キャンペーンをやっていたから	⑦その他	総計	①献血予約	②献血記録	③ポイント	④献血の依頼メール	⑤献血可能日のお知らせメール	⑥ラブラッドな声	⑦特にきっかけになったサービスはない	
10代	2,015	30.4%	23.7%	46.0%	2015	59.9%	2.1%	15.9%	6.1%	6.4%	7.4%	2.1%	2,015	7.6%	24.7%	12.0%	6.2%	9.2%	1.5%	38.8%
20代	1,138	51.9%	23.3%	24.8%	1,138	51.8%	1.6%	20.9%	6.2%	13.4%	4.2%	1.8%	1,138	17.0%	27.6%	12.3%	5.1%	8.2%	0.9%	28.9%
30代	1,620	60.2%	22.0%	17.8%	1,620	43.5%	0.9%	21.2%	8.5%	18.9%	4.3%	2.8%	1,620	24.8%	27.1%	12.5%	6.4%	6.5%	0.5%	22.3%
40代~60代	6,308	63.2%	25.6%	11.2%	6,308	37.2%	1.0%	27.5%	4.4%	20.8%	5.9%	3.2%	6,308	21.7%	34.2%	7.2%	8.6%	7.2%	0.3%	20.7%
総計	11,081	55.6%	24.5%	19.9%	11,081	43.8%	1.2%	23.8%	5.5%	17.1%	5.8%	2.8%	11,081	19.1%	30.8%	9.4%	7.5%	7.5%	0.6%	25.1%

※「ラブラッドな声」は、献血者と受血者両方の声を掲載しているコンテンツである。

Q13 ラブラッドの献血予約機能を利用したことはありますか。				Q14 Q13で「いいえ」と回答された方にお伺いします。献血予約をしない理由についてお聞かせください。							Q15 ラブラッドのサービス内容に満足されていますか。					
総計	①はい	②いいえ	総計	①予約をするメリットを感じないから	②予約が面倒だから	③予約の方法がわからないから	④予約をしても待ち時間なく献血ができないから	⑤希望の日にちや時間に予約ができない(予約が空いていない)から	⑥特に理由はない	総計	①大変満足	②やや満足	③どちらでもない	④やや不満	⑤大変不満	
10代	2,015	13.3%	86.7%	1,736	3.7%	3.6%	6.4%	26.7%	7.8%	51.8%	2,015	41.0%	35.4%	23.2%	0.3%	0.0%
20代	1,138	34.3%	65.7%	751	3.9%	7.1%	2.8%	25.2%	10.7%	50.5%	1,138	28.9%	45.8%	24.5%	0.6%	0.2%
30代	1,620	47.1%	52.9%	871	5.2%	6.9%	3.4%	21.5%	13.0%	50.1%	1,620	22.9%	47.0%	27.3%	2.3%	0.5%
40代~60代	6,308	46.8%	53.2%	3,334	5.2%	4.4%	4.7%	24.4%	14.5%	46.8%	6,308	22.7%	46.0%	28.9%	2.0%	0.4%
総計	11,081	39.5%	60.5%	6,692	4.7%	4.8%	4.8%	24.7%	12.1%	48.9%	11,081	26.7%	44.2%	27.2%	1.6%	0.3%

ラブラッドのサービスのうち、献血のきっかけとなったのは「献血記録」(検査サービス)が30.8%と最も高い。若年層においても十分に支持されており、全世代に対して訴求していくべきサービスであると考えられる。

予約機能の利用については今後促進の余地が大きく、献血会場で献血者に入会を案内する際等に献血者へ訴求する。

ラブラッドに対する満足度は、「大変満足」および「やや満足」合計で70.9%である。不満を押さえつつ、更なる満足度向上を目指し、機能拡充等の検討を進める。

6. まとめ

- 総献血者数は3,803人増（0.1%増）の約473万6千人であり、輸血用血液製剤及び原料血漿については、滞りなく安定供給が行えた。
- 輸血用血液製剤の総供給本数は2.1%減の1,733.8万本、原料血漿の確保量は7.9%増の99.3万リットルであった。
- 10代については、前年度と比較し献血者数で延べ8,163人（3.2%増）、初回者で2,227人（1.6%増）増加した。
- 10代については、献血Web会員サービス「ラブラッド」、YouTube、SNS等の効果的な施策を展開しながら初回献血を推進し、献血への理解を促す策を講じることで、2回目以降の献血に繋がるよう積極的に取り組む。
- 20代、30代については、18歳、19歳をピークに30代半ばまで減少する傾向がある。献血ルームの受付時間の延長等、利便性を高めることで献血に協力いただける機会を増やす取組を検討する。
- 需要予測に適応する中長期戦略へ取り組むにあたり、複数回献血率の高い40代以降の協力を維持しつつ、ラブラッド等を活用し特に若年層については献血者満足度の向上に努め複数回献血に誘導することによる底上げを図る。
- 小学生から大学生への啓発（献血セミナー等）については、厚生労働省をはじめ、国・行政との連携を一層高めながら積極的な展開を図る。

献血推進の施策について（厚生労働省の取組）

1. 普及啓発

（1）若年層に対する普及啓発

①中学生への普及啓発

献血への理解を促すことを目的としたポスターを全国の中学校に配布

- ・平成28年度：11,347校に3.4万枚を配布
- ・平成29年度：11,255校に3.4万枚を配布
- ・平成30年度：11,269校に3.4万枚を配布

②高校生への普及啓発

ア 献血に関する副読本（けんけつ HOP STEP JUMP）を全国の高校に配布

- ・平成28年度：6,381校に生徒用117万部、教員用6.4万部を配布
- ・平成29年度：6,384校に生徒用118万部、教員用6.4万部を配布
- ・平成30年度：6,383校に生徒用117万部、教員用6.4万部を配布

イ 高等学校等における献血に触れあう機会の受入れの推進

平成23年度から毎年度、文部科学省の協力を得て、高等学校等における献血に触れ合う機会の一環として、日本赤十字社が実施している学校献血や献血セミナーを積極的に受けいれてもらえるよう、高等学校等関係者に協力を依頼している。

③大学生等への普及啓発

平成30年度に新たな取組として、大学、短期大学、専門学校等に献血の啓発ポスターを配布

- ・平成30年度：5,452校に2.4万部を配布

④主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

ア 「はたちの献血」キャンペーン（毎年1～2月）の広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・平成28年度：4.2万枚を配布
- ・平成29年度：4.3万枚を配布
- ・平成30年度：4.3万枚を配布

イ 平成30年度に新たな取組として、若年層向けの献血啓発映像を作成

（2）その他の普及啓発

①「愛の血液助け合い運動」（毎年7月）の実施

ア 広報用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布

- ・平成28年度：3.9万枚を配布
- ・平成29年度：4.0万枚を配布

- ・平成30年度：3.9万枚を配布
- ・令和元年度：3.9万枚を配布

イ 献血運動推進全国大会の開催

- ・平成28年度：7月7日 東京都で開催
- ・平成29年度：7月12日 秋田県で開催
- ・平成30年度：豪雨の影響により中止（7月12日 岡山県で開催を予定していた）
- ・令和元年度：7月11日 石川県で開催

②テレビ、ラジオ、新聞等を積極的に活用した普及啓発の実施

- ・平成28年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、
- ・平成29年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook
- ・平成30年度：政府広報オンライン、ラジオ、インターネットテキスト広告、新聞、厚生労働省広報誌「厚生労働」、Twitter、Facebook

2. 若年層の献血者数の増加に向けた取組

将来にわたり安定的に血液を確保するため、平成29年度から、日本赤十字社及び都道府県と協力の上、献血者数が減少傾向にある10代から30代の年代別献血者数の目標値を設定し、若年層の献血者数の増加に向けた取組を実施している。

		10代	20代	30代
平成29年度	実績	257,958人	738,937人	841,869人
平成30年度	目標(計画)	260,278人	792,795人	901,606人
	実績	266,121人	717,573人	810,122人
対29年度実績比		103.2%	97.1%	96.2%
対30年度目標比		102.2%	90.5%	89.9%

(参考) 延べ献血者数に占める割合

	10代	20代	30代	40代	50代・60代	延べ献血者数
昭和60年度	20.3%	30.3%	23.8%	16.2%	9.3%	8,763,037
平成元年度	18.0%	28.5%	22.6%	19.1%	11.8%	7,765,013
平成5年度	16.1%	30.5%	21.2%	19.0%	13.3%	7,138,298
平成10年度	11.0%	32.6%	22.8%	18.7%	15.0%	6,136,449
平成15年度	8.9%	26.1%	26.3%	19.4%	19.2%	5,606,457
平成20年度	5.9%	22.3%	27.3%	23.3%	21.2%	5,137,612
平成25年度	5.9%	18.3%	21.7%	28.1%	26.0%	5,156,325
平成30年度	5.6%	15.2%	17.1%	28.1%	34.0%	4,735,944

平成30年度の献血実績の評価について

1. 平成30年度実績の評価

- 平成30年度においても、多くの方の御協力により、輸血用血液製剤及び原料血漿の安定供給に必要な血液量を確保することができた。

- 平成30年度における延べ献血者数は、対前年度約4千人の増(0.1%増)の473.6万人、献血率は前年度と同様の5.5%となった。
(参考)
 - ・ 輸血用血液製剤の供給本数は、医療機関からの需要量の減少により、対前年度で約2.1%減少
 - ・ 原料血漿の国内製造販売業者等への配分量(在庫取崩量を除く)は、免疫グロブリン製剤等の供給量の増加により、対前年度で約7.9%増加

- 若年層の献血者数及び献血率について、平成30年度においても20代及び30代については減少となったが、10代については、延べ献血者数は対前年度約8千人増(3.2%増)、献血率は対前年度0.1%ポイント増の5.4%となった。
この要因として、学校献血の推進に加え、献血セミナーの実施や高校生向け副読本(けんけつHOP STEP JUMP)の配布など、厚生労働省、都道府県、日本赤十字社による各種普及啓発や、平成29年度から実施している年代別献血者数の目標設定とその進捗管理が影響したと考えられる。

2. 令和2年度献血推進計画策定にあたっての方向性(案)

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血者数及び献血率の増加を図るための各種取組について、引き続き、重点的に推進する必要がある。

- 平成30年度の年齢別献血率によると、18歳では8.1%、19歳では7.7%と10代後半で比較的高い献血率を示しているが、20代から30代半ばにかけて献血率が減少する結果となった。

- これらを踏まえ、令和2年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
 - ① 10代については、献血者数及び献血率が改善傾向にあることを踏まえ、

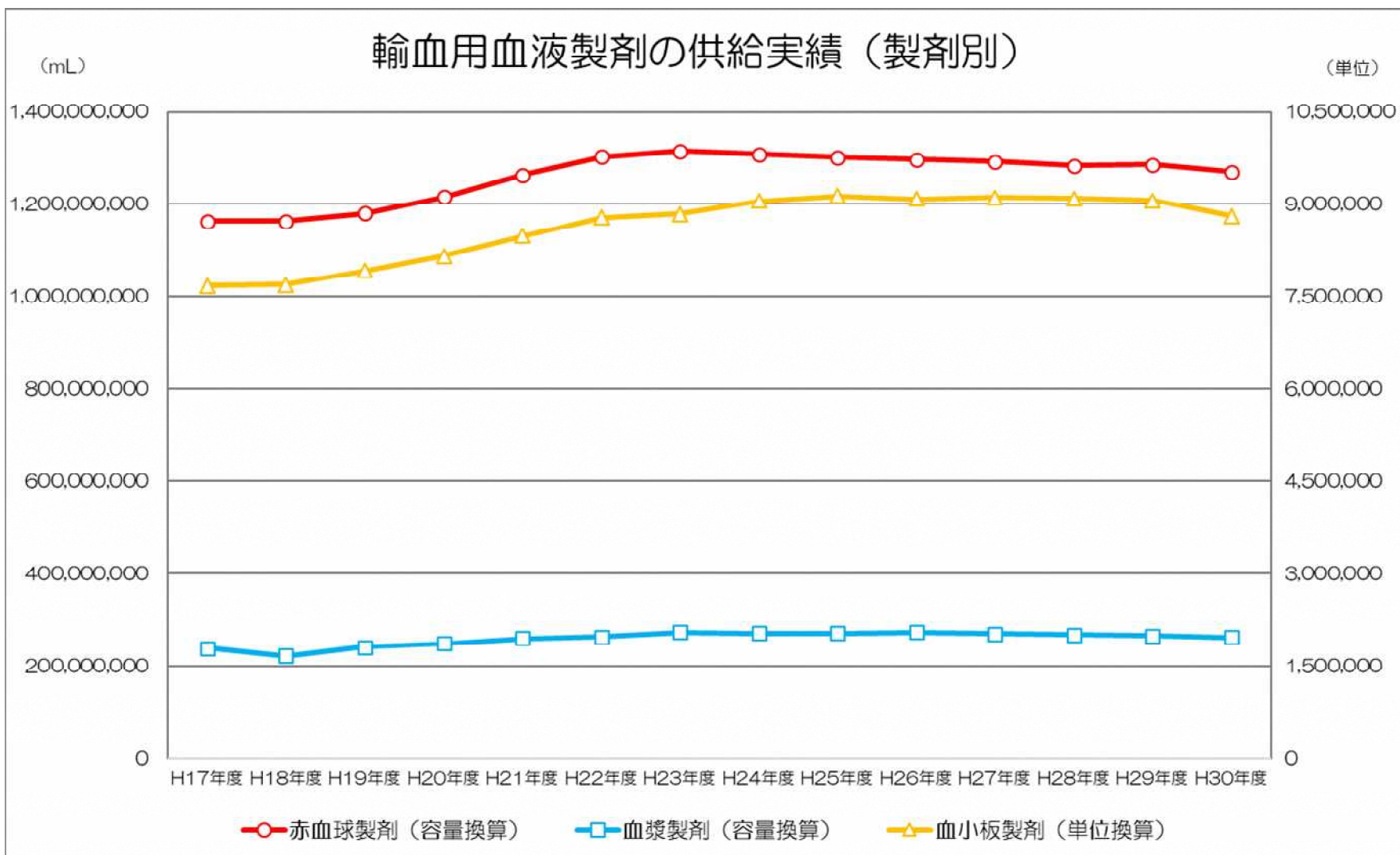
引き続き、学校献血や各種普及啓発の実施を通じて、初回献血者の確保を中心とした取組を行う。また、複数回献血を定着させるため、初回献血日から期間を空けずに再度献血してもらうための取組を検討する。

- ② 20代・30代については、18歳、19歳をピークに30代半ばにかけて減少する傾向が見られることから、仕事や家事等で忙しい方が少しでも献血する機会を確保できるよう、献血ルームの受付時間を延長することを含め、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力いただくための取組を検討する。

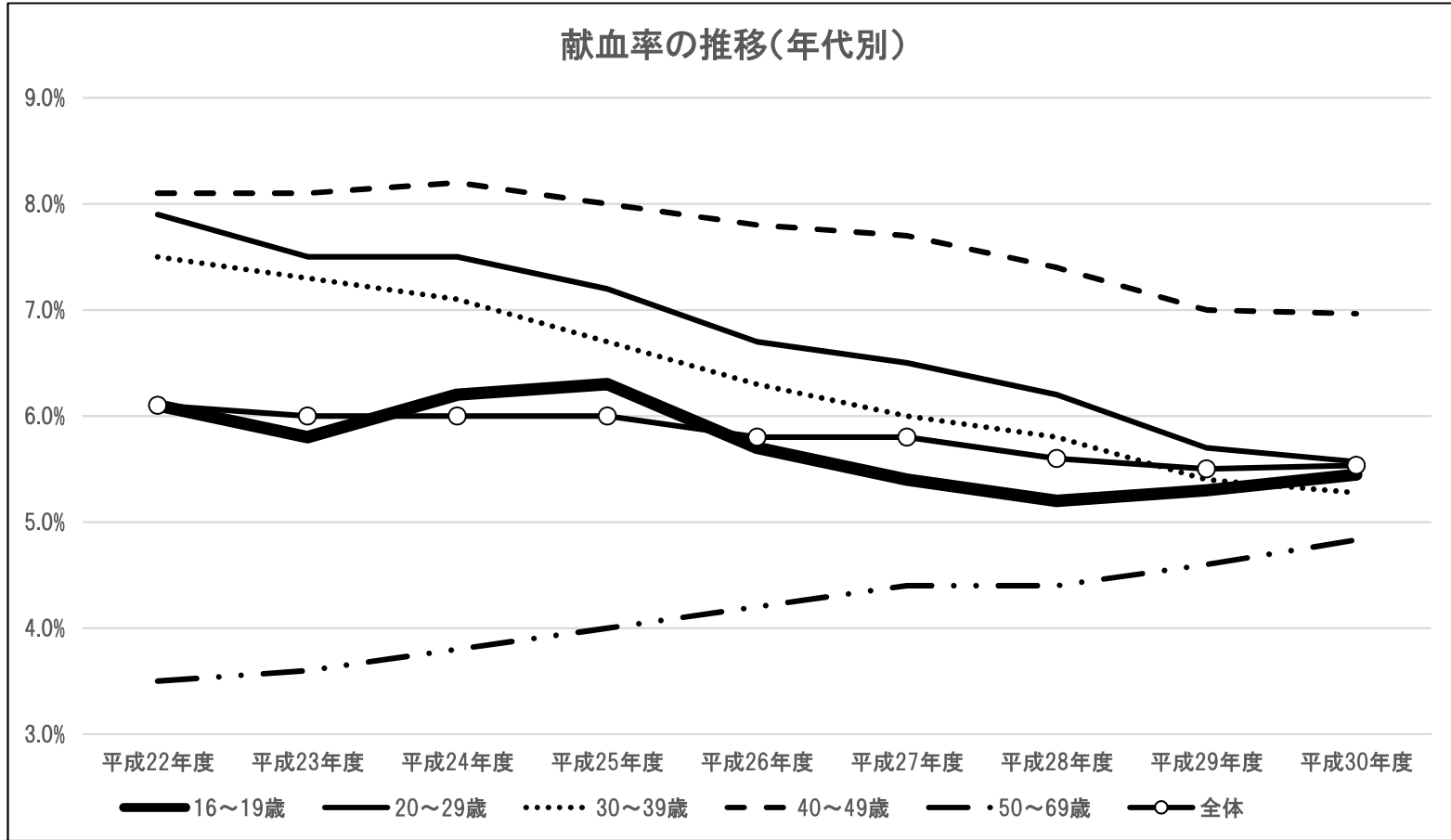
令和元年8月8日
日本赤十字社 血液事業本部

献血の現状

1 輸血用血液製剤の供給実績(製剤別).....	1P
2 献血率の推移(年代別).....	2P
3 複数回献血者及び複数回献血クラブについて.....	3P
4 年代別・男女別・回数別実献血者数.....	4P・5P
5 実献血者数(年代別、総数).....	6P
6 複数回献血クラブの状況.....	7P
7 複数回献血クラブ 会員・非会員別献血協力状況(年代別平均献血回数).....	8P
8 年代別平均献血回数.....	9P
9 年代別実献血者数(構成比).....	10P
10 献血セミナー実施状況について.....	11P



※ 赤血球製剤及び血漿製剤は容量(mL)表記、血小板製剤は単位表記としている。
 (血小板製剤は、濃度の異なる複数の規格が同一容量であることから、単位表記としている。)



平成30年度の献血率は全体で5.5%と、29年度からほぼ横ばいである。
 10代については、前年度の5.3%から5.4%と0.1%上昇している。

複数回献血者及び複数回献血クラブについて

- ・複数回献血者とは、年間2回以上献血する献血者であること。
- ・複数回献血クラブ会員とは、複数回献血に協力する意思があり、複数回献血クラブへ登録を希望した献血者であること。（電子メールアドレスを所有し、血液センターが検査履歴データを保有していること）

男女別・献血回数別実献血者数の推移(平成29年度～平成30年度)

平成29年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1回	比率	2回	比率	3回	比率	4回	比率	5回以上 ～10回以下	比率	11回以上 ～20回以下	比率	21回以上	比率	【再掲】 2回以上 (複数回)	比率	
男性	1,138,620	61.4%	434,619	23.5%	171,050	9.2%	21,657	1.2%	54,789	3.0%	31,047	1.7%	1,321	0.1%	714,483	38.6%	1,853,103
女性	621,336	72.9%	165,663	19.4%	24,299	2.9%	12,857	1.5%	22,471	2.6%	4,978	0.6%	211	0.0%	230,479	27.1%	851,815
小計	1,759,956	65.1%	600,282	22.2%	195,349	7.2%	34,514	1.3%	77,260	2.9%	36,025	1.3%	1,532	0.1%	944,962	34.9%	2,704,918

平成30年度

(単位:人)

性別	献 血 回 数																合計
	1回	比率	2回	比率	3回	比率	4回	比率	5回以上 ～10回以下	比率	11回以上 ～20回以下	比率	21回以上	比率	【再掲】 2回以上 (複数回)	比率	
男性	1,103,753	60.7%	426,440	23.5%	178,190	9.8%	21,741	1.2%	53,786	3.0%	32,531	1.8%	1,683	0.1%	714,371	39.3%	1,818,124
女性	609,916	72.2%	169,349	20.0%	24,028	2.8%	12,791	1.5%	22,838	2.7%	5,472	0.6%	291	0.0%	234,769	27.8%	844,685
小計	1,713,669	64.4%	595,789	22.4%	202,218	7.6%	34,532	1.3%	76,624	2.9%	38,003	1.4%	1,974	0.1%	949,140	35.6%	2,662,809

献血回数において年1回の献血者が減少し、複数回の献血者比率が男女とも増加となった。このことから、複数回献血の推進が図れたと考える。

平成29年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

年代	性別	献 血 回 数																合計	構成比率
		1回		2回		3回		4回		5回以上 ~10回以下		11回以上 ~20回以下		21回以上		【再掲】 2回以上 (複数回)			
		回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率		
10代	男性	97,173	79.8%	17,889	14.7%	4,656	3.8%	762	0.6%	1,039	0.9%	203	0.2%	0	0.0%	24,549	20.2%	121,722	
	女性	65,408	79.2%	12,293	14.9%	2,673	3.2%	1,246	1.5%	868	1.1%	98	0.1%	1	0.0%	17,179	20.8%		
	小計	162,581	79.6%	30,182	14.8%	7,329	3.6%	2,008	1.0%	1,907	0.9%	301	0.1%	1	0.0%	41,728	20.4%	204,309	7.6%
20代	男性	214,670	71.1%	57,032	18.9%	18,602	6.2%	3,060	1.0%	5,941	2.0%	2,381	0.8%	52	0.0%	87,068	28.9%	301,738	
	女性	136,131	74.4%	32,033	17.5%	6,168	3.4%	3,117	1.7%	4,883	2.7%	652	0.4%	6	0.0%	46,859	25.6%		
	小計	350,801	72.4%	89,065	18.4%	24,770	5.1%	6,177	1.3%	10,824	2.2%	3,033	0.6%	58	0.0%	133,927	27.6%	484,728	17.9%
30代	男性	221,797	63.8%	77,718	22.4%	28,299	8.1%	4,234	1.2%	10,080	2.9%	5,095	1.5%	152	0.0%	125,578	36.2%	347,375	
	女性	106,784	73.1%	26,320	18.0%	4,582	3.1%	2,568	1.8%	4,769	3.3%	944	0.6%	30	0.0%	39,213	26.9%		
	小計	328,581	66.6%	104,038	21.1%	32,881	6.7%	6,802	1.4%	14,849	3.0%	6,039	1.2%	182	0.0%	164,791	33.4%	493,372	18.2%
40代	男性	304,633	57.6%	133,981	25.3%	54,462	10.3%	6,877	1.3%	18,364	3.5%	10,610	2.0%	355	0.1%	224,649	42.4%	529,282	
	女性	153,303	72.8%	40,661	19.3%	5,788	2.7%	3,193	1.5%	6,159	2.9%	1,485	0.7%	44	0.0%	57,330	27.2%		
	小計	457,936	61.9%	174,642	23.6%	60,250	8.1%	10,070	1.4%	24,523	3.3%	12,095	1.6%	399	0.1%	281,979	38.1%	739,915	27.4%
50代	男性	221,283	54.8%	107,776	26.7%	45,701	11.3%	4,919	1.2%	14,154	3.5%	9,216	2.3%	503	0.1%	182,269	45.2%	403,552	
	女性	117,721	70.2%	38,244	22.8%	3,847	2.3%	2,077	1.2%	4,471	2.7%	1,307	0.8%	69	0.0%	50,015	29.8%		
	小計	339,004	59.3%	146,020	25.6%	49,548	8.7%	6,996	1.2%	18,625	3.3%	10,523	1.8%	572	0.1%	232,284	40.7%	571,288	21.1%
60代	男性	79,064	52.9%	40,223	26.9%	19,330	12.9%	1,805	1.2%	5,211	3.5%	3,542	2.4%	259	0.2%	70,370	47.1%	149,434	
	女性	41,989	67.9%	16,112	26.0%	1,241	2.0%	656	1.1%	1,321	2.1%	492	0.8%	61	0.1%	19,883	32.1%		
	小計	121,053	57.3%	56,335	26.7%	20,571	9.7%	2,461	1.2%	6,532	3.1%	4,034	1.9%	320	0.2%	90,253	42.7%	211,306	7.8%
合計		1,759,956		600,282		195,349		34,514		77,260		36,025		1,532		944,962		2,704,918	
構成比		65.1%		22.2%		7.2%		1.3%		2.9%		1.3%		0.06%		34.9%		100.0%	

※複数回献血者数:2017/4/1~2018/3/31までの実献血者

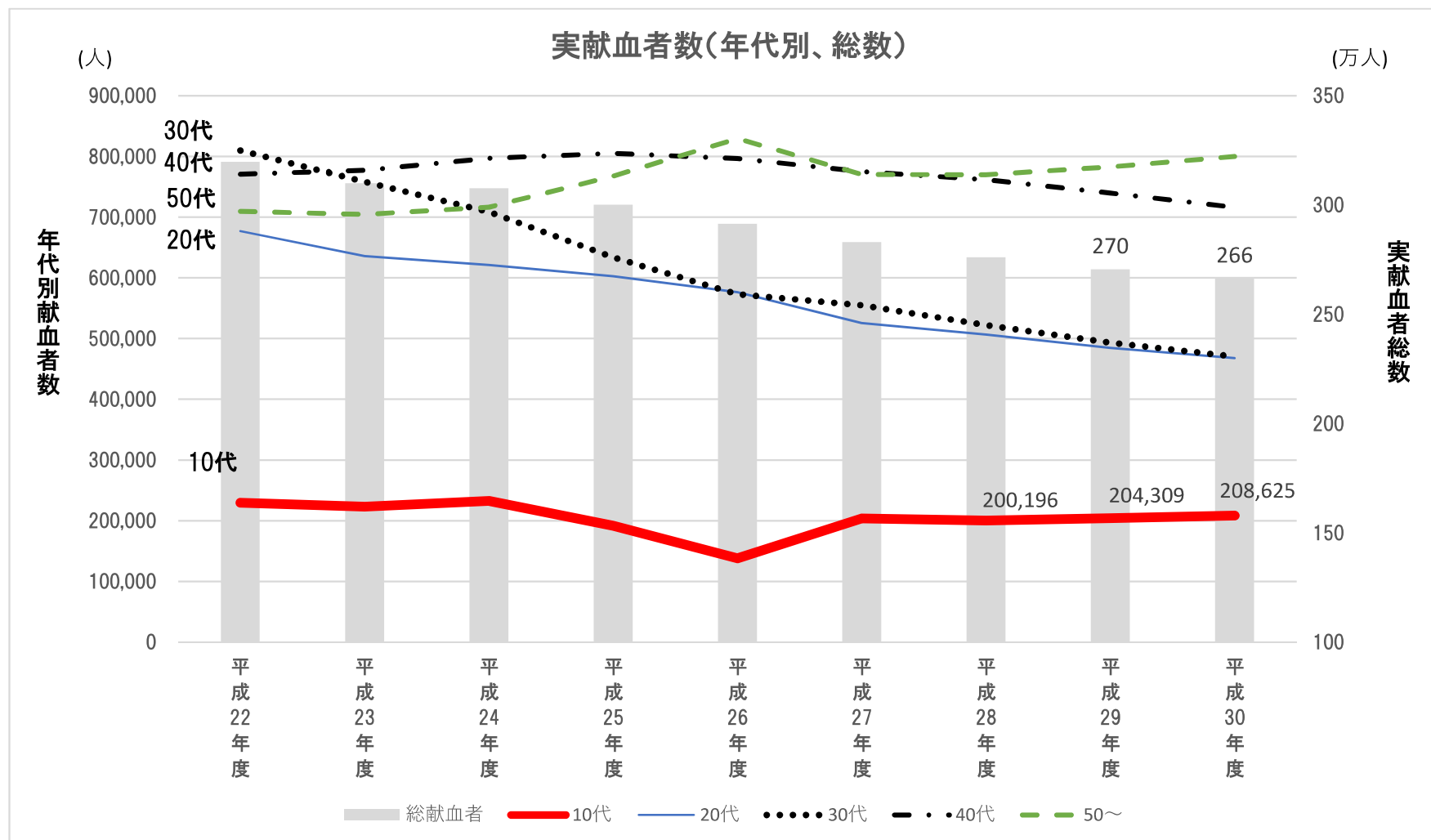
平成30年度 年代別・男女別・回数別実献血者数

(単位:人)

年代	性別	献 血 回 数														合計	構成比率	
		1回		2回		3回		4回		5回以上 ~10回以下		11回以上 ~20回以下		21回以上				【再掲】 2回以上 (複数回)
		回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	
10代	男性	96,785	79.1%	18,370	15.0%	4,920	4.0%	914	0.7%	1,157	0.9%	218	0.2%	2	0.0%	25,581	20.9%	
	女性	68,039	78.9%	12,967	15.0%	2,862	3.3%	1,375	1.6%	917	1.1%	97	0.1%	2	0.0%	18,220	21.1%	
	小計	164,824	79.0%	31,337	15.0%	7,782	3.7%	2,289	1.1%	2,074	1.0%	315	0.2%	4	0.0%	43,801	21.0%	
20代	男性	204,994	70.8%	54,865	18.9%	18,717	6.5%	2,978	1.0%	5,665	2.0%	2,345	0.8%	70	0.0%	84,640	29.2%	
	女性	132,230	74.2%	31,784	17.8%	5,791	3.3%	2,925	1.6%	4,752	2.7%	691	0.4%	5	0.0%	45,948	25.8%	
	小計	337,224	72.1%	86,649	18.5%	24,508	5.2%	5,903	1.3%	10,417	2.2%	3,036	0.6%	75	0.0%	130,588	27.9%	
30代	男性	210,612	63.6%	73,911	22.3%	27,876	8.4%	4,028	1.2%	9,434	2.8%	4,978	1.5%	185	0.1%	120,412	36.4%	
	女性	100,916	72.4%	25,886	18.6%	4,439	3.2%	2,464	1.8%	4,591	3.3%	994	0.7%	30	0.0%	38,404	27.6%	
	小計	311,528	66.2%	99,797	21.2%	32,315	6.9%	6,492	1.4%	14,025	3.0%	5,972	1.3%	215	0.0%	158,816	33.8%	
40代	男性	290,769	57.0%	128,059	25.1%	55,397	10.9%	6,855	1.3%	17,655	3.5%	10,859	2.1%	468	0.1%	219,293	43.0%	
	女性	148,414	72.0%	40,825	19.8%	5,655	2.7%	3,173	1.5%	6,343	3.1%	1,599	0.8%	70	0.0%	57,665	28.0%	
	小計	439,183	61.3%	168,884	23.6%	61,052	8.5%	10,028	1.4%	23,998	3.4%	12,458	1.7%	538	0.1%	276,958	38.7%	
50代	男性	221,759	53.7%	110,830	26.8%	50,094	12.1%	5,087	1.2%	14,489	3.5%	10,210	2.5%	643	0.2%	191,353	46.3%	
	女性	119,453	69.0%	41,049	23.7%	4,058	2.3%	2,234	1.3%	4,781	2.8%	1,535	0.9%	115	0.1%	53,772	31.0%	
	小計	341,212	58.2%	151,879	25.9%	54,152	9.2%	7,321	1.2%	19,270	3.3%	11,745	2.0%	758	0.1%	245,125	41.8%	
60代	男性	78,834	51.9%	40,405	26.6%	21,186	13.9%	1,879	1.2%	5,386	3.5%	3,921	2.6%	315	0.2%	73,092	48.1%	
	女性	40,864	66.3%	16,838	27.3%	1,223	2.0%	620	1.0%	1,454	2.4%	556	0.9%	69	0.1%	20,760	33.7%	
	小計	119,698	56.1%	57,243	26.8%	22,409	10.5%	2,499	1.2%	6,840	3.2%	4,477	2.1%	384	0.2%	93,852	43.9%	
合計		1,713,669		595,789		202,218		34,532		76,624		38,003		1,974		949,140		
構成比		64.4%		22.4%		7.6%		1.3%		2.9%		1.4%		0.07%		35.6%		100.0%

※複数回献血者数:2018/4/1~2019/3/31までの実献血者

献血回数2回以上の比率は、全世代において対昨年度の数値を上回っている。10代~30代の若年層では10代の比率の差(伸び)がもっとも大きく、その中でも特に男性の複数回献血者数が顕著に増えている。



複数回献血クラブの状況

複数回献血クラブ会員 年代構成(平成30年3月末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	44,819	347,216	309,735	433,598	307,488	86,140	1,528,996
対前年 増減数	7,423	48,247	32,753	45,099	55,938	16,722	206,182
構成比	2.9%	22.7%	20.3%	28.4%	20.1%	5.6%	100.0%

複数回献血クラブ会員 年代構成(平成31年3月末時点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
合計	49,824	388,662	329,907	458,519	357,114	104,026	1,688,052
対前年 増減数	5,005	41,446	20,172	24,921	49,626	17,886	159,056
構成比	3.0%	23.0%	19.5%	27.2%	21.2%	6.2%	100.0%

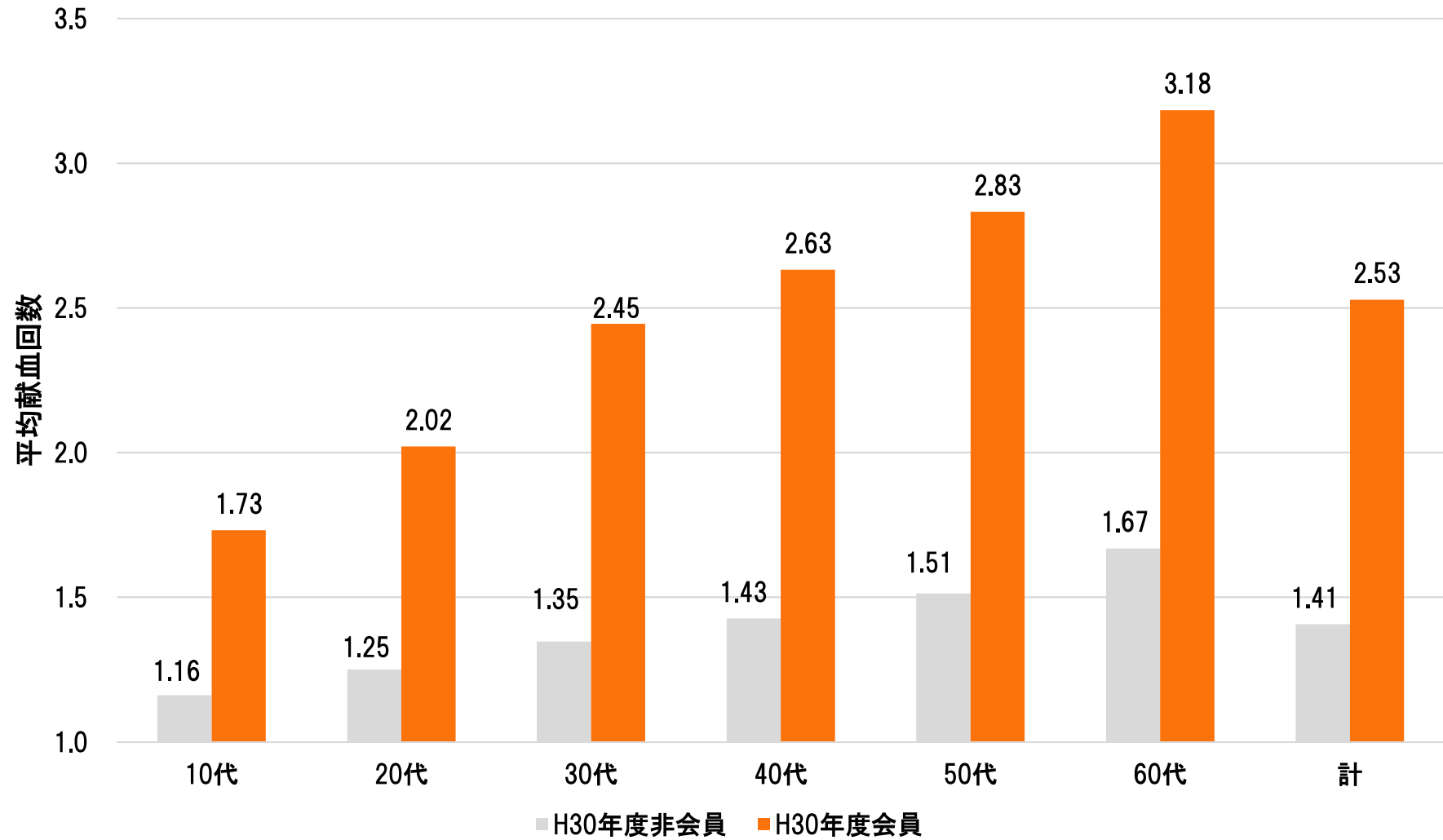
平成29年度 複数回献血クラブ会員 献血回数別実献血者数

	献血回数								合計
	1回	2回	3回	4回	5回以上 ~10回以下	11回以上 ~20回以下	21回以上	2回以上 【再掲】	
会員数(人)	383,533	219,024	101,011	22,056	54,226	26,870	1,116	424,303	807,836
対前年 増減数	46,218	22,642	9,877	778	648	204	90	34,239	80,457
構成比	47.5%	27.1%	12.5%	2.7%	6.7%	3.3%	0.1%	52.5%	

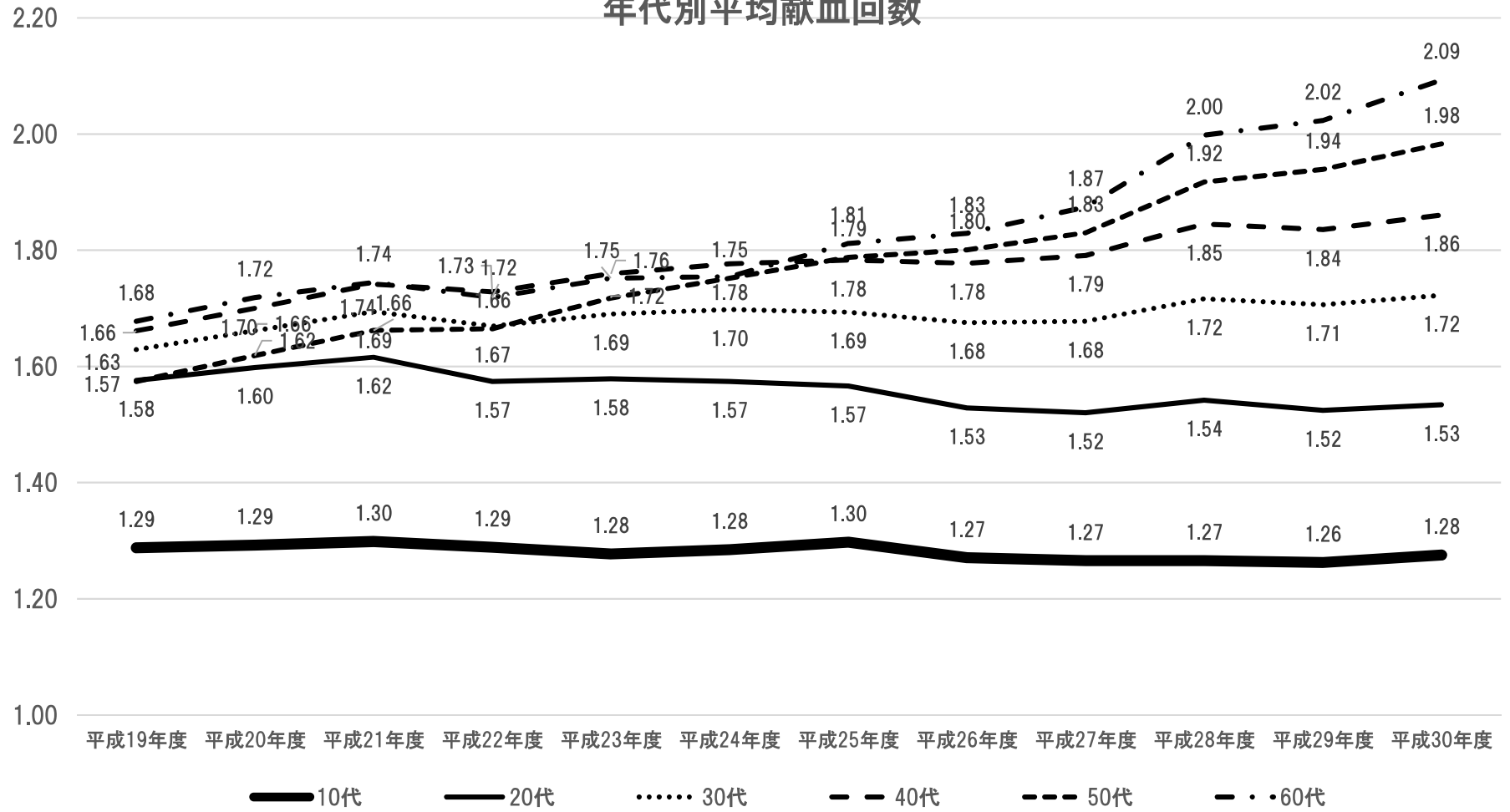
平成30年度 複数回献血クラブ会員 献血回数別実献血者数

	献血回数								合計
	1回	2回	3回	4回	5回以上 ~10回以下	11回以上 ~20回以下	21回以上	2回以上 【再掲】	
会員数(人)	404,838	240,993	117,841	25,135	61,155	31,936	1,634	478,694	883,532
対前年 増減数	21,305	21,969	16,830	3,079	6,929	5,066	518	54,391	75,696
構成比	45.8%	27.3%	13.3%	2.8%	6.9%	3.6%	0.2%	59.3%	

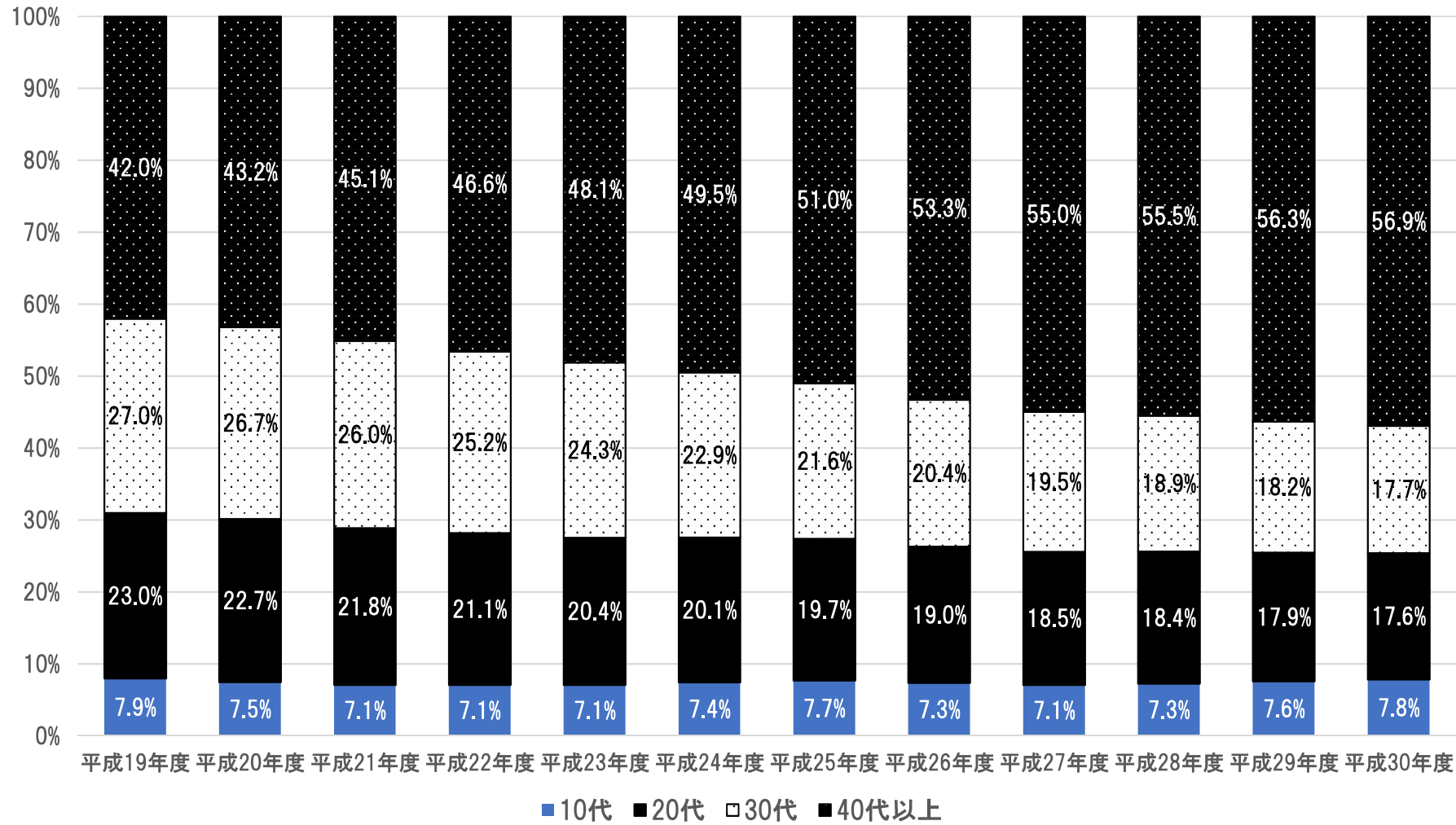
複数回献血クラブ 会員・非会員別献血協力状況(年代別平均献血回数)



年代別平均献血回数



年代別実献血者数(構成比)



献血セミナー実施状況について(平成28年度から平成30年度)

平成28年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
小学生	152	152.0%	10,615	119.8%	128	122.3%	6,319	136.4%	280	136.8%	16,934	125.5%
中学生	209	127.9%	27,523	129.0%	54	113.1%	395	104.5%	263	124.5%	27,918	128.6%
高校生	636	123.6%	122,678	117.0%	107	232.6%	2,144	170.0%	743	132.6%	124,822	117.6%
専門学生	91	135.8%	9,242	137.7%	70	175.0%	1,482	141.8%	161	150.5%	10,724	138.3%
大学生	212	128.5%	15,647	89.6%	217	293.2%	2,450	220.7%	429	179.5%	18,097	97.4%
その他	473	234.2%	19,977	178.9%	105	219.4%	2,445	259.0%	578	231.3%	22,422	185.1%
合計	1,772	146.3%	205,682	120.7%	682	188.9%	15,235	162.6%	2,454	156.1%	220,917	122.9%

平成29年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
小学生	113	74.3%	8,912	84.0%	145	112.9%	5,562	88.0%	258	92.0%	14,474	85.5%
中学生	178	85.4%	23,215	84.3%	83	152.9%	449	113.7%	261	99.3%	23,664	84.8%
高校生	801	126.0%	167,675	136.7%	138	129.0%	2,098	97.9%	939	126.5%	169,773	136.0%
専門学生	102	112.1%	10,142	109.7%	70	100.0%	1,481	99.9%	172	106.8%	11,623	108.4%
大学生	302	142.5%	17,992	115.0%	242	111.5%	2,816	114.9%	544	126.8%	20,808	115.0%
その他	598	126.4%	26,247	131.4%	153	145.3%	4,182	171.0%	751	129.9%	30,429	135.7%
合計	2,094	118.2%	254,183	123.6%	831	121.8%	16,588	108.9%	2,925	119.2%	270,771	122.6%

平成30年度「献血セミナー」実施状況について

対象者	学校等での開催実績				血液センター等での開催実績				合 計			
	実施回数		受講者数		実施回数		受講者数		実施回数		受講者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
小学生	111	98.2%	7,422	83.3%	189	130.3%	5,219	93.8%	300	116.3%	12,641	87.3%
中学生	191	107.3%	21,555	92.8%	106	127.7%	682	151.9%	297	113.8%	22,237	94.0%
高校生	834	104.1%	169,107	100.9%	127	92.0%	2,323	110.7%	961	102.3%	171,430	101.0%
専門学生	127	124.5%	10,474	103.3%	52	74.3%	1,454	98.2%	179	104.1%	11,928	102.6%
大学生	293	97.0%	18,007	100.1%	255	105.4%	2,763	98.1%	548	100.7%	20,770	99.8%
その他	594	99.3%	24,875	94.8%	207	135.3%	4,134	98.9%	801	106.7%	29,009	95.3%
合計	2,150	102.7%	251,440	98.9%	936	112.6%	16,575	99.9%	3,086	105.5%	268,015	99.0%

令和元年8月8日
日本赤十字社 血液事業本部

若年層の献血者について

1 平成30年度における高校生献血の現状について.....	1P・2P
2 16歳～18歳 初回献血者実績について.....	3P
3 職業別・採血種類別延べ献血者数(10～30代).....	4P・5P・6P

平成30年度における高校生献血の現状について

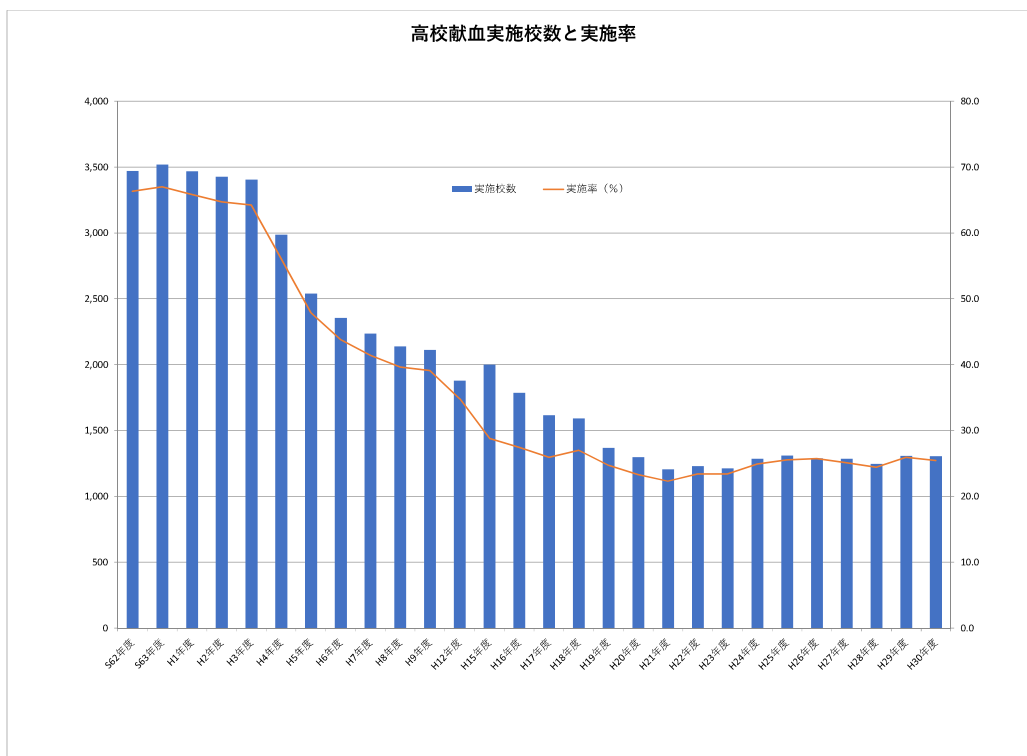
(1) 献血実績について

平成30年度における高校生の献血者数は、121,466人(前年度比105.3%)であった。また、献血場所別の献血者数については、献血バス・出張採血が66,859人(前年度比103.8%)、献血ルーム・血液センターが54,607人(前年度比107.2%)であった。

(表1) 高校生の献血場所別の献血者数 (単位:人)

	献血バス 出張採血	献血ルーム 血液センター	合計
平成24年度	74,523	61,680	136,203
平成25年度	73,374	64,815	138,189
平成26年度	68,578	55,896	124,474
平成27年度	63,720	49,477	113,197
平成28年度	61,899	48,546	110,445
平成29年度	64,404	50,930	115,334
平成30年度	66,859	54,607	121,466

(グラフ1) 高等学校での献血実施状況について



※平成30年度の高等学校設置数は全国で5,134校中、献血実施校数は1,306校(前年度比99.9%)であった。
 ※厚生労働省を通じて全日本教職員組合養護教員部からの調査依頼に基づいて調査・報告していたため、平成4年度、平成11年度、平成13年度、平成14年度は、調査未実施である。

(2) 高校生の初回献血者数について

ア 献血実施について

血液製剤の医療機関の需要の観点から、献血を推進するうえで400mL全血献血を基本とする。また、将来の献血推進の基盤となる若年層に対する献血推進が重要であることから、若年層の献血推進を実施している。

(表2) 初回献血者の実績(単位:人)

	200mL献血			400mL献血			合計
	16歳男女	17歳女性	計	17歳男性	18歳男女	計	
平成24年度	27,188	13,837	41,025	13,994	16,255	30,249	71,274
平成25年度	27,337	13,983	41,320	13,609	15,736	29,345	70,665
平成26年度	22,285	10,798	33,083	14,062	15,787	29,849	62,932
平成27年度	19,485	9,272	28,757	14,608	16,088	30,696	59,453
平成28年度	17,709	8,972	26,681	14,917	17,179	32,096	58,777
平成29年度	19,104	10,126	29,230	15,924	18,368	34,292	63,522
平成30年度	20,425	10,297	30,722	15,837	18,735	34,572	65,294

※17歳男性の400mL献血は、平成23年度より採血基準変更での導入となる。

※高校生の各受入施設の献血者数及び初回献血者数ともに、平成30年度は平成29年度に引き続き増加した。

イ 献血セミナーの実施について

平成24年から「学校における献血に触れ合う機会の受け入れについて(現:「高等学校等における献血に触れ合う機会の受け入れについて」)」を厚生労働省から文部科学省に通知し、学校関係者等に対して、日本赤十字社が実施している献血セミナー等を積極的に受け入れてもらえるよう、文部科学省を通じ、各都道府県あての依頼を平成30年度も行った。横断的な依頼は、学校教育の中で献血思想を普及啓発する上で重要となる。更に文部科学省、都道府県、教育委員会及び献血推進協議会等の関係機関との連携協力が献血セミナーを推進する上で極めて重要である。

また、同通知により献血セミナー全体の参加人数が飛躍的に増加している。ただし「高校での献血セミナー」に焦点を当てると平成27年度に参加人数が減少したが、平成28年度からは大幅に増加している。高校内での献血実施の推進はもとより、行動の契機となるよう「献血セミナー」の学校教育へ働きかける体制作りが必要である。

平成28年度からは、学生献血推進ボランティア(学生献血推進協議会等)による献血セミナーを開始した。

(表3) 献血セミナー参加者数

全体	参加人数	前年度比	高校生	参加人数	前年度比
平成24年度	123,159	146.9%	平成24年度	70,903	233.2%
平成25年度	151,037	122.6%	平成25年度	91,285	128.7%
平成26年度	158,197	104.7%	平成26年度	107,823	117.4%
平成27年度	179,785	113.6%	平成27年度	106,135	98.4%
平成28年度	205,682	114.4%	平成28年度	122,678	115.6%
平成29年度	254,183	123.6%	平成29年度	167,675	136.7%
平成30年度	251,440	98.9%	平成30年度	169,107	100.9%

16歳～18歳 初回献血者実績について

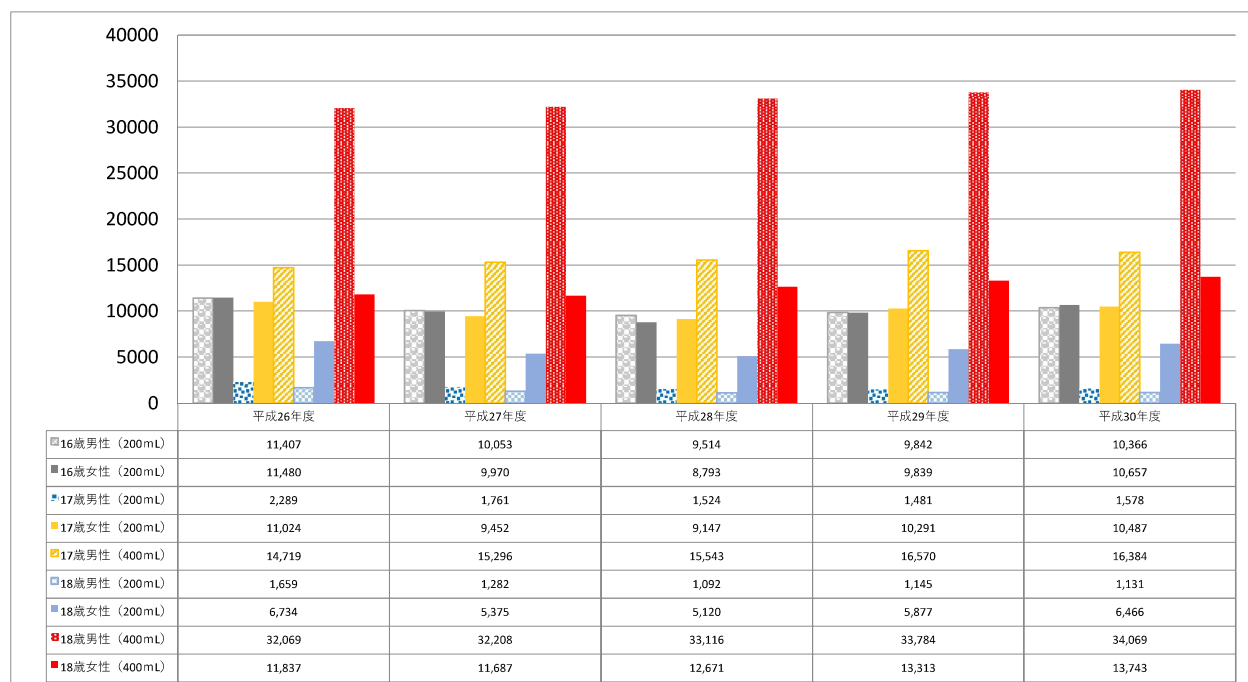
(表4)200mL初回献血者(単位:人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
16歳男性	14,697	12,754	12,019	12,536	13,762	109.8%
初回	11,407	10,053	9,514	9,842	10,366	105.3%
初回割合	77.6%	78.8%	79.2%	78.5%	75.3%	
16歳女性	15,783	13,673	12,041	13,485	15,038	111.5%
初回	11,480	9,970	8,793	9,839	10,657	108.3%
初回割合	72.7%	72.9%	73.0%	73.0%	70.9%	
17歳男性	3,656	2,688	2,353	2,252	2,410	107.0%
初回	2,289	1,761	1,524	1,481	1,578	106.5%
初回割合	62.6%	65.5%	64.8%	65.8%	65.5%	
17歳女性	23,174	19,351	18,320	19,643	21,097	107.4%
初回	11,024	9,452	9,147	10,291	10,487	101.9%
初回割合	47.6%	48.8%	49.9%	52.4%	49.7%	
18歳男性	2,424	1,789	1,513	1,593	1,583	99.4%
初回	1,659	1,282	1,092	1,145	1,131	98.8%
初回割合	68.4%	71.7%	72.2%	71.9%	71.4%	
18歳女性	13,252	9,805	8,777	9,941	10,967	110.3%
初回	6,734	5,375	5,120	5,877	6,466	110.0%
初回割合	50.8%	54.8%	58.3%	59.1%	59.0%	

(表5)400mL初回献血者(単位:人)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	前年度比
17歳男性	23,421	23,426	23,489	24,323	24,788	101.9%
初回	14,719	15,296	15,543	16,570	16,384	98.9%
初回割合	62.8%	65.3%	66.2%	68.1%	66.1%	
18歳男性	50,568	51,089	51,728	52,076	53,274	102.3%
初回	32,069	32,208	33,116	33,784	34,069	100.8%
初回割合	63.4%	63.0%	64.0%	64.9%	64.0%	
18歳女性	20,977	21,218	21,365	22,037	22,550	102.3%
初回	11,837	11,687	12,671	13,313	13,743	103.2%
初回割合	56.4%	55.1%	59.3%	60.4%	60.9%	

(グラフ2)男女別・採血種類別初回献血者数



職業別・採血種類別延べ献血者数(10～30代)

(表6)10代 職業別・採血種類別延べ献血者数(単位:人)

高校生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	92,509	86,634	84,772	90,847	73,470	77,578	79,693	64,861	54,003	49,483	53,644	57,882
400mL	26,140	24,352	24,557	26,733	45,611	51,078	51,542	53,449	53,641	54,152	56,258	57,704
PPP	4,080	4,934	4,464	3,189	2,987	3,524	3,098	2,298	2,444	3,153	2,740	3,198
PC+PPP	3,273	2,914	2,796	2,707	2,234	2,512	2,491	2,311	1,750	1,491	1,257	1,161
合計	126,002	118,834	116,589	123,476	124,302	134,692	136,824	122,919	111,838	108,279	113,899	119,945

大学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	14,791	13,157	13,029	13,656	12,203	12,605	14,214	10,363	7,586	6,623	7,393	9,046
400mL	58,945	59,088	58,822	61,017	59,210	60,911	62,385	60,499	59,190	60,875	61,771	63,476
PPP	9,837	12,210	11,684	8,106	6,997	7,430	6,954	5,431	6,035	7,428	6,166	6,965
PC+PPP	9,675	9,103	7,975	7,623	6,415	6,346	6,340	5,724	4,700	3,734	3,252	2,908
合計	93,248	93,558	91,510	90,402	84,825	87,292	89,893	82,017	77,511	78,660	78,582	82,395

その他学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	10,897	8,477	7,746	8,265	7,684	7,830	7,951	5,433	3,631	3,095	3,479	3,730
400mL	36,039	31,839	28,765	30,407	29,036	29,709	30,372	28,980	28,048	27,062	26,753	25,463
PPP	5,611	6,492	5,607	3,841	3,233	3,277	3,224	2,379	2,506	2,902	2,587	2,957
PC+PPP	5,164	4,306	3,391	3,234	2,561	2,699	2,784	2,275	1,859	1,568	1,277	996
合計	57,711	51,114	45,509	45,747	42,514	43,515	44,331	39,067	36,044	34,627	34,096	33,146

その他	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	6,966	6,175	6,093	5,381	4,750	4,673	4,403	3,366	2,420	2,181	2,240	2,494
400mL	29,889	30,041	29,054	26,893	25,397	25,338	25,921	26,530	27,376	26,647	26,729	25,816
PPP	2,352	2,922	2,733	1,830	1,589	1,691	1,605	1,217	1,250	1,775	1,466	1,468
PC+PPP	2,691	2,375	2,208	2,046	1,644	1,722	1,843	1,697	1,368	1,224	946	857
合計	41,898	41,513	40,088	36,150	33,380	33,424	33,772	32,810	32,414	31,827	31,381	30,635

合計	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	125,163	114,443	111,640	118,149	98,107	102,686	106,261	84,023	67,640	61,382	66,756	73,152
400mL	151,013	145,320	141,198	145,050	159,254	167,036	170,220	169,458	168,255	168,736	171,511	172,459
PPP	21,880	26,558	24,488	16,966	14,806	15,922	14,881	11,325	12,235	15,258	12,959	14,588
PC+PPP	20,803	18,698	16,370	15,610	12,854	13,279	13,458	12,007	9,677	8,017	6,732	5,922
合計	318,859	305,019	293,696	295,775	285,021	298,923	304,820	276,813	257,807	253,393	257,958	266,121

(表7)20代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	8,333	6,964	6,808	6,376	6,323	6,457	6,460	4,583	3,023	2,268	1,951	1,843
400mL	73,530	72,402	72,030	73,083	73,978	76,306	77,663	77,964	78,825	79,136	80,101	77,829
PPP	15,033	16,827	15,813	12,257	12,298	11,516	10,227	8,003	8,819	10,469	9,444	10,147
PC+PPP	19,755	18,134	16,832	16,538	14,335	14,020	13,654	12,356	10,021	8,751	7,495	6,267
合計	116,651	114,327	111,483	108,254	106,934	108,299	108,004	102,906	100,688	100,624	98,991	96,086

会社員	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	62,314	55,487	50,102	48,053	44,618	41,643	39,038	28,339	18,550	13,631	12,004	11,179
400mL	314,807	325,446	326,086	327,947	318,902	312,905	300,872	296,385	292,842	285,824	276,394	267,217
PPP	78,981	98,053	98,648	75,448	71,709	69,116	59,851	46,858	49,938	58,066	51,223	55,029
PC+PPP	87,831	85,745	84,004	83,542	73,027	70,089	67,044	60,114	50,265	41,137	35,398	30,432
合計	543,933	564,731	558,840	534,990	508,256	493,753	466,805	431,696	411,595	398,658	375,019	363,857

高校生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	246	237	270	270	190	246	169	151	102	78	100	91
400mL	1,029	1,006	1,070	1,213	1,026	969	893	1,142	1,006	1,017	1,115	1,155
PPP	211	290	307	219	165	149	143	63	49	68	74	90
PC+PPP	190	232	232	190	130	94	93	56	53	46	21	28
合計	1,676	1,765	1,879	1,892	1,511	1,458	1,298	1,412	1,210	1,209	1,310	1,364

大学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	19,785	17,753	17,408	17,908	16,801	16,862	17,141	12,531	9,019	7,143	7,497	8,162
400mL	103,735	107,910	110,508	116,526	114,195	116,323	115,658	110,079	105,144	102,997	103,822	103,629
PPP	33,684	42,409	41,770	31,403	28,542	27,719	24,409	18,282	18,960	22,009	19,166	20,558
PC+PPP	40,989	39,579	37,207	36,813	31,123	29,840	27,929	24,228	19,558	15,765	13,550	12,174
合計	198,193	207,651	206,893	202,650	190,661	190,744	185,137	165,120	152,681	147,914	144,035	144,523

その他学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	9,644	7,820	6,997	6,651	5,738	5,853	5,757	4,019	2,739	2,042	2,093	2,179
400mL	42,994	39,045	36,775	36,608	34,337	33,641	32,472	31,356	29,925	28,574	27,521	26,385
PPP	15,258	16,327	14,306	9,980	8,261	7,743	6,428	4,738	4,531	5,019	4,348	4,634
PC+PPP	16,741	13,063	11,438	10,560	8,030	7,392	6,791	5,761	4,237	3,227	2,621	2,353
合計	84,637	76,255	69,516	63,799	56,366	54,629	51,448	45,874	41,432	38,862	36,583	35,551

主婦	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	4,081	3,553	3,410	3,171	3,001	2,660	2,387	1,604	930	593	437	434
400mL	6,629	6,521	6,508	6,509	6,216	5,684	5,068	4,683	4,423	3,874	3,495	3,251
PPP	3,214	3,731	3,791	2,773	2,410	2,298	1,985	1,485	1,360	1,489	1,086	960
PC+PPP	2,042	1,795	1,739	1,638	1,410	1,303	1,225	900	693	508	390	327
合計	15,966	15,600	15,448	14,091	13,037	11,945	10,665	8,672	7,406	6,464	5,408	4,972

自営業	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	499	405	410	429	377	377	372	246	178	93	84	94
400mL	6,331	6,142	6,112	6,094	5,700	5,587	4,987	4,791	4,676	4,511	4,111	3,788
PPP	1,016	1,160	1,166	886	1,025	1,000	866	630	752	914	717	713
PC+PPP	1,622	1,587	1,475	1,556	1,499	1,436	1,274	1,095	939	705	552	492
合計	9,468	9,294	9,163	8,965	8,601	8,400	7,499	6,762	6,545	6,223	5,464	5,087

その他	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	19,257	16,322	15,250	14,608	12,874	11,715	10,586	7,141	4,117	2,769	2,445	2,140
400mL	71,345	68,866	69,446	71,150	68,541	64,129	59,461	56,656	54,196	49,705	46,278	42,338
PPP	33,054	37,931	36,843	27,900	24,868	22,562	19,255	14,432	14,746	16,142	13,361	13,332
PC+PPP	36,561	33,969	32,171	32,515	26,585	25,145	22,886	19,990	16,080	12,756	10,043	8,323
合計	160,217	157,088	153,710	146,173	132,868	123,551	112,188	98,219	89,139	81,372	72,127	66,133

合計	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	124,159	108,541	100,655	97,466	89,922	85,813	81,910	58,614	38,658	28,617	26,611	26,122
400mL	620,400	627,338	628,535	639,130	622,895	615,544	597,074	583,056	571,037	555,638	542,837	525,592
PPP	180,451	216,728	212,644	160,866	149,278	142,103	123,164	94,491	99,155	114,176	99,419	105,463
PC+PPP	205,731	194,104	185,098	183,352	156,139	149,319	140,896	124,500	101,846	82,895	70,070	60,396
合計	1,130,741	1,146,711	1,126,932	1,080,814	1,018,234	992,779	943,044	860,661	810,696	781,326	738,937	717,573

(表8)30代 職業別・採血種別延べ献血者数(単位:人)

公務員	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	10,866	9,146	8,242	8,007	7,170	6,418	5,600	3,671	2,088	1,321	1,082	854
400mL	130,376	129,020	125,246	124,250	119,727	115,366	108,966	103,795	99,752	96,626	96,902	96,520
PPP	21,327	23,314	23,288	18,980	18,564	17,020	14,668	11,220	11,996	14,230	12,916	14,484
PC+PPP	38,203	36,883	34,496	33,683	30,158	28,830	26,546	24,486	20,240	17,243	15,923	14,239
合計	200,772	198,363	191,272	184,920	175,619	167,634	155,780	143,172	134,076	129,420	126,823	126,097

会社員	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	63,368	56,016	51,508	49,584	44,835	40,705	36,297	25,297	15,910	10,927	8,785	7,112
400mL	542,319	556,596	559,588	559,386	539,821	510,620	475,327	455,685	433,393	413,119	397,503	380,819
PPP	97,636	118,819	123,469	100,586	102,656	97,188	84,906	67,148	72,196	84,908	76,528	83,322
PC+PPP	160,026	163,772	168,481	170,592	153,759	146,034	135,722	123,640	103,650	88,716	78,437	67,938
合計	863,349	895,203	903,046	880,148	841,071	794,547	732,252	671,770	625,149	597,670	561,253	539,191

高校生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	6	7	5	13	4	6	4	6	6	7	3	4
400mL	28	44	52	53	45	40	43	115	115	82	104	113
PPP	11	17	20	10	4	3	2	2	2	1	1	7
PC+PPP	7	4	11	5	1	1	2	2	5	2	3	2
合計	52	72	88	81	54	50	51	125	128	92	111	126

大学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	117	95	89	76	66	61	77	51	22	18	23	22
400mL	764	743	757	797	752	819	837	842	887	904	920	860
PPP	308	305	343	256	314	296	279	243	235	261	199	227
PC+PPP	437	399	457	468	396	382	418	398	352	282	255	208
合計	1,626	1,542	1,646	1,597	1,528	1,558	1,611	1,534	1,496	1,465	1,397	1,317

その他学生	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	643	572	597	608	565	495	474	356	241	166	169	144
400mL	3,421	3,384	3,615	3,955	3,768	3,494	3,164	3,020	2,762	2,658	2,514	2,331
PPP	1,236	1,508	1,497	1,098	1,001	1,068	931	584	527	599	505	506
PC+PPP	1,552	1,492	1,358	1,426	1,319	1,174	1,001	825	620	515	338	360
合計	6,852	6,956	7,067	7,087	6,653	6,231	5,570	4,785	4,150	3,938	3,526	3,341

主婦	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	20,170	17,298	16,724	15,670	13,882	12,157	10,452	6,808	3,785	2,277	1,713	1,287
400mL	39,249	40,292	39,650	40,195	37,723	33,235	29,339	26,282	23,468	21,017	19,548	17,778
PPP	15,733	18,965	19,865	16,467	15,040	13,820	11,460	8,405	7,806	6,696	7,288	7,529
PC+PPP	12,206	11,803	11,277	11,938	10,400	9,465	8,357	7,269	5,756	4,510	3,677	2,900
合計	87,358	88,358	87,516	84,270	77,045	68,677	59,608	48,764	40,815	36,500	32,226	29,494

自営業	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	1,535	1,262	1,185	1,118	1,008	998	933	561	310	209	190	155
400mL	26,024	26,120	26,533	26,573	25,441	23,232	20,749	19,293	17,821	16,388	15,117	14,045
PPP	3,793	4,475	4,548	3,835	3,856	3,448	2,859	2,118	2,285	2,794	2,387	2,686
PC+PPP	7,681	7,550	8,117	8,360	7,173	6,623	6,003	5,224	4,127	3,487	2,960	2,640
合計	39,033	39,407	40,383	39,886	37,478	34,301	30,544	27,196	24,543	22,878	20,654	19,526

その他	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成30年 2018
200mL	18,785	16,410	15,469	14,794	13,143	11,455	10,115	6,601	3,727	2,341	1,737	1,336
400mL	74,782	74,893	77,370	78,178	75,437	69,859	64,377	62,112	59,182	55,460	53,373	49,999
PPP	33,766	39,049	40,396	32,933	30,650	28,620	24,999	19,102	19,809	23,205	20,602	21,992
PC+PPP	43,465	42,463	43,398	44,741	39,614	36,996	34,544	31,938	27,067	23,077	20,167	17,703
合計	170,798	172,815	176,633	170,646	158,844	146,930	134,035	119,753	109,785	104,083	95,879	91,030

合計	平成19年 2007	平成20年 2008	平成21年 2009	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	平成25年 2013	平成26年 2014	平成27年 2015	平成28年 2016	平成29年 2017	平成29年 2017
200mL	115,490	100,806	93,819	89,870	80,673	72,295	63,952	43,351	26,089	4,993	13,702	10,914
400mL	816,963	831,092	832,811	833,387	802,714	756,665	702,802	671,144	637,380	95,523	585,981	562,465
PPP	173,810	206,452	213,426	174,165	172,085	161,463	140,104	108,822	114,856	35,294	120,426	130,753
PC+PPP	263,577	264,366	267,595	271,213	242,820	229,505	212,593	193,782	161,817	31,589	121,760	105,990
合計	1,369,840	1,402,716	1,402,651	1,368,635	1,298,292	1,219,928	1,119,451	1,017,099	940,142	167,399	841,869	810,122

令和元年度

第1回青少年意見募集事業結果

テーマ

若い世代に対する献血推進活動について

(提案元：厚生労働省)

意見受付期間

令和元年6月3日(月)～6月23日(日)

令和元年7月

主に自由回答形式の質問に対する回答を、回答の要点ごとに分析して集計し、分類ごとに主な意見を掲載している。意見の掲載に当たっては、必要に応じ、要約している。

第1回 若い世代に対する献血推進活動について（厚生労働省）

1. 設問

- 質問1-1 献血を知っていますか。
- 質問1-2 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 知ったきっかけは何ですか。
- 質問1-3 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 献血は16歳からできることを知っていますか。
- 質問1-4 (質問1-3で「いいえ」を選んだ方) 献血できると思っていた年齢を教えてください。
- 質問2 「はたちの献血」キャンペーンを知っていますか。
- 質問3 若い世代の献血を推進するために、国はどのような取組を行うことが効果的だと思いますか。
- 質問4 あなたは16歳以上ですか。
- 質問5① 質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方
- 質問5①-1 献血をしたことはありますか。
- 質問5①-2 (質問5①-1で「はい」を選んだ方) 初めて献血をしたきっかけと場所を教えてください。
- 質問5①-3 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 献血をしたことがない理由を教えてください。
- 質問5①-4 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 今後献血をしてみたいと思いますか。
- 質問5② 質問4で「いいえ(16歳未満)」と回答した方
- 質問5②-1 16歳になったら献血をしてみたいと思いますか。
- 質問5②-2 上記を選んだ理由を教えてください。

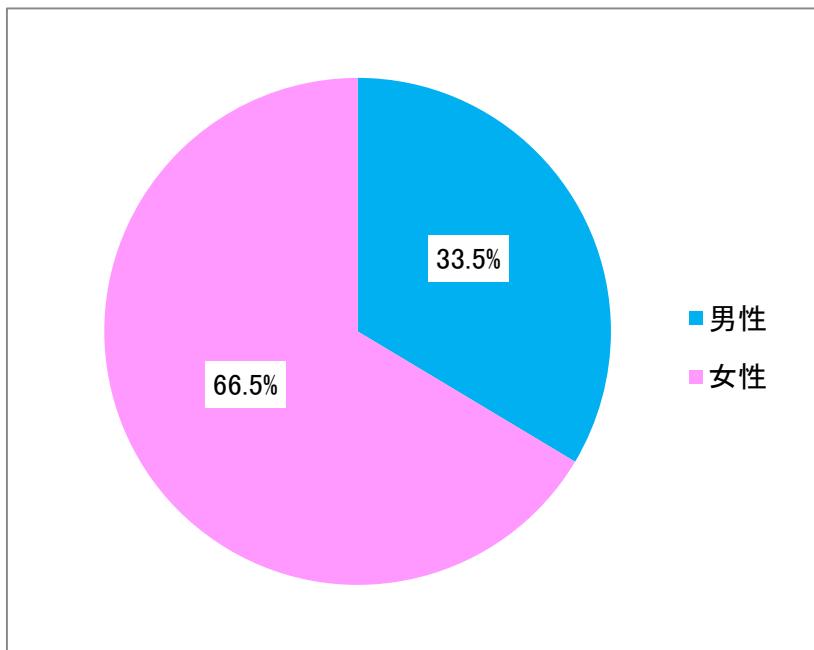
2. 意見受付期間

6月3日（月）～6月23日（日）

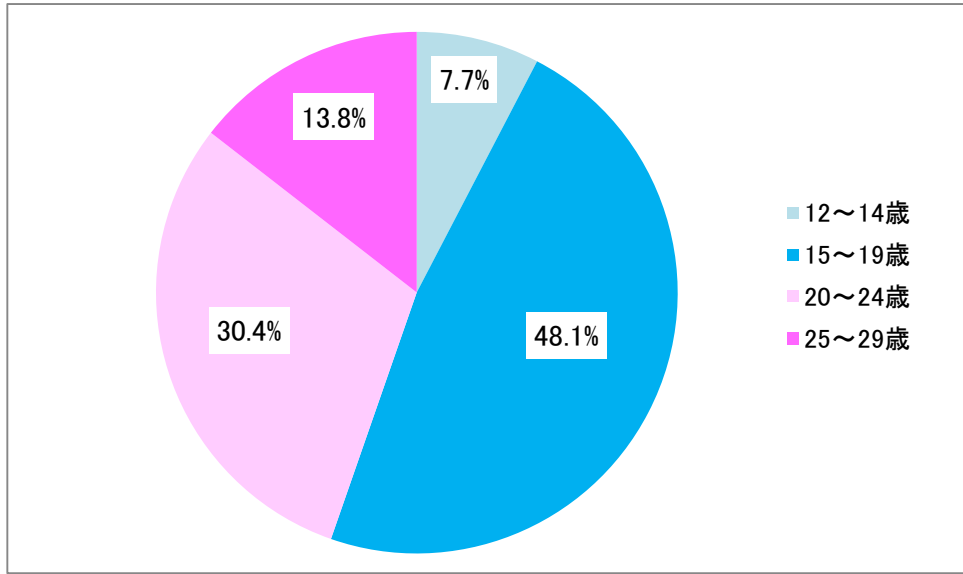
3. 回答者数・回答属性

【回答者数】 男性：87名 女性：173名 合計：260名 （配信数：336名、回答率：77.4%）

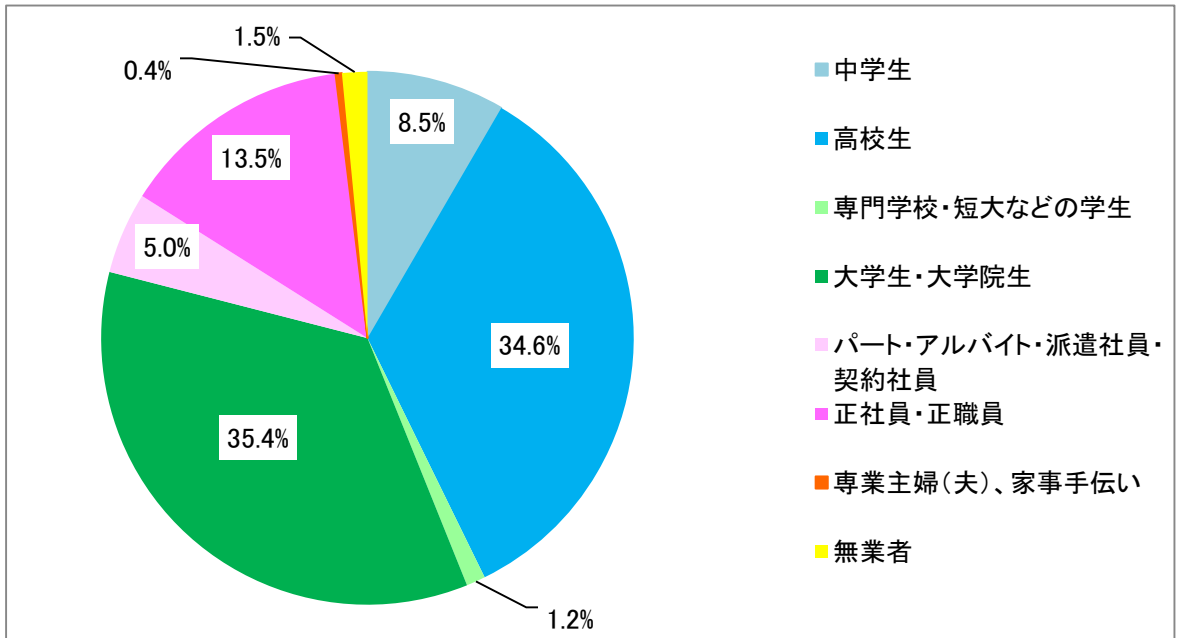
【性別】 男性が33.5%、女性が66.5%であった。



【年齢】 12～14歳が7.7%、15～19歳が48.1%、20～24歳が30.4%、25～29歳が13.8%であった。

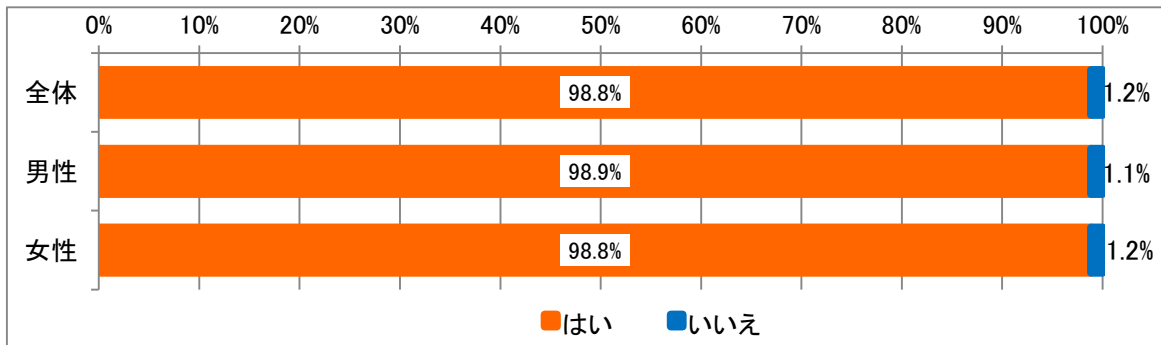


【職業】 中学生が8.5%、高校生が34.6%、専門学校・短大などの学生が1.2%、
大学生・大学院生が35.4%、パート・アルバイト・派遣社員・契約社員が5.0%、
正社員・正職員が13.5%、専業主婦(夫)・家事手伝いが0.4%、無業者が1.5%であった。



4. 集計結果

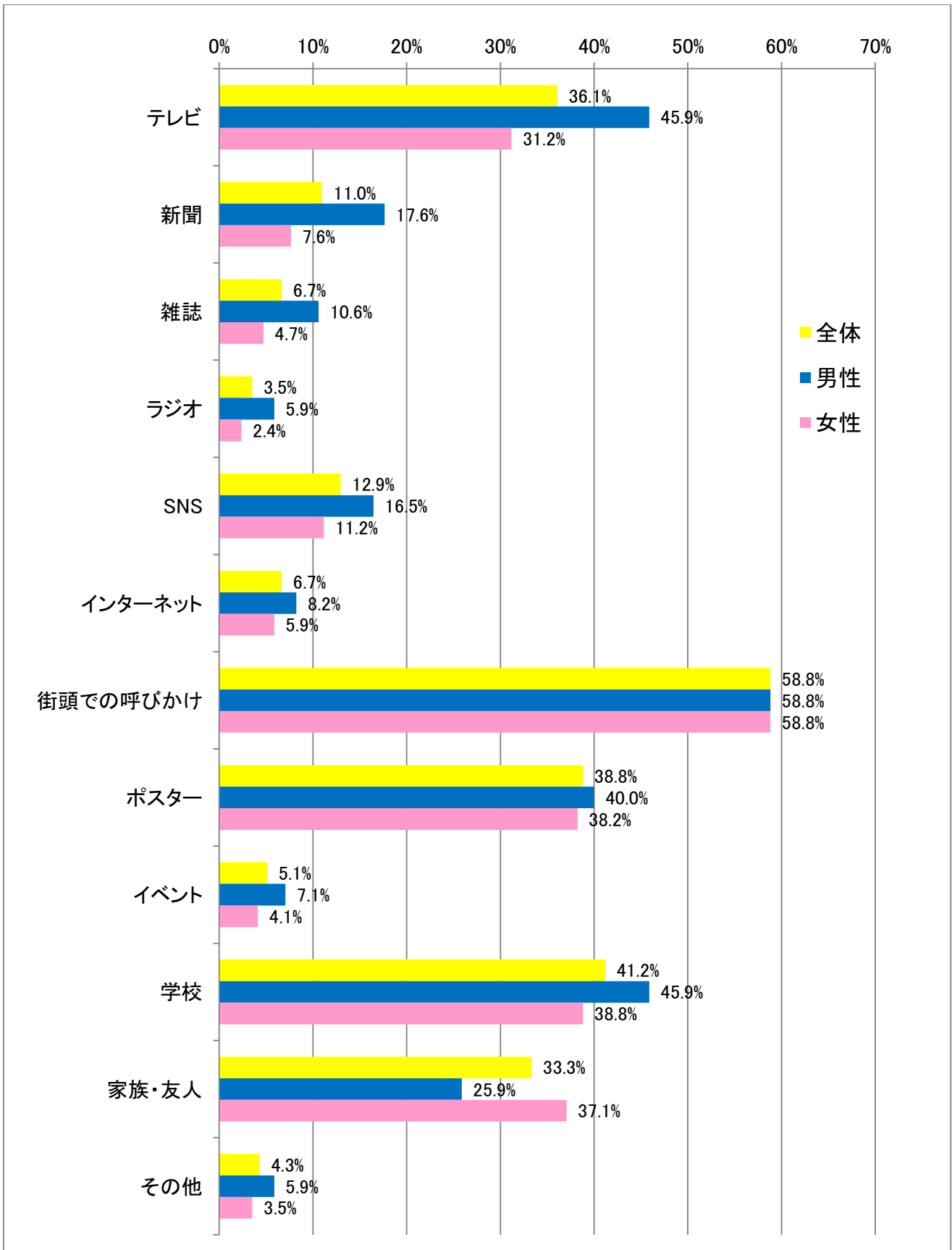
質問1-1 献血を知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		260	257	3
		100.0%	98.8%	1.2%
性別	男性	87	86	1
		100.0%	98.9%	1.1%
性別	女性	173	171	2
		100.0%	98.8%	1.2%
年代	12~14歳	20	20	0
		100.0%	100.0%	0%
	15~19歳	125	125	0
		100.0%	100.0%	0%
年代	20~24歳	79	78	1
		100.0%	98.7%	1.3%
年代	25~29歳	36	34	2
		100.0%	94.4%	5.6%
性別×年代	男性 12~14歳	4	4	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 15~19歳	44	44	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 20~24歳	19	19	0
		100.0%	100.0%	0%
	男性 25~29歳	20	19	1
		100.0%	95.0%	5.0%
性別×年代	女性 12~14歳	16	16	0
		100.0%	100.0%	0%
	女性 15~19歳	81	81	0
		100.0%	100.0%	0%
性別×年代	女性 20~24歳	60	59	1
		100.0%	98.3%	1.7%
性別×年代	女性 25~29歳	16	15	1
		100.0%	93.8%	6.3%
属性	中学生	22	22	0
		100.0%	100.0%	0%
	高校生	90	90	0
		100.0%	100.0%	0%
	専門学校・短大などの学生	3	3	0
		100.0%	100.0%	0%
	大学生・大学院生	92	92	0
		100.0%	100.0%	0%
属性	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13	11	2
		100.0%	84.6%	15.4%
属性	正社員・正職員	35	34	1
		100.0%	97.1%	2.9%
属性	専業主婦(夫)・家事手伝い	1	1	0
		100.0%	100.0%	0%
属性	無業者	4	4	0
		100.0%	100.0%	0%

- 全体で見ると、98.8%が「はい（献血を知っている）」と回答した。
- 年代別で見ると、「いいえ（献血を知らない）」と回答した人は20歳以上であった。

質問1-2 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 知ったきっかけは何ですか (複数回答可)。



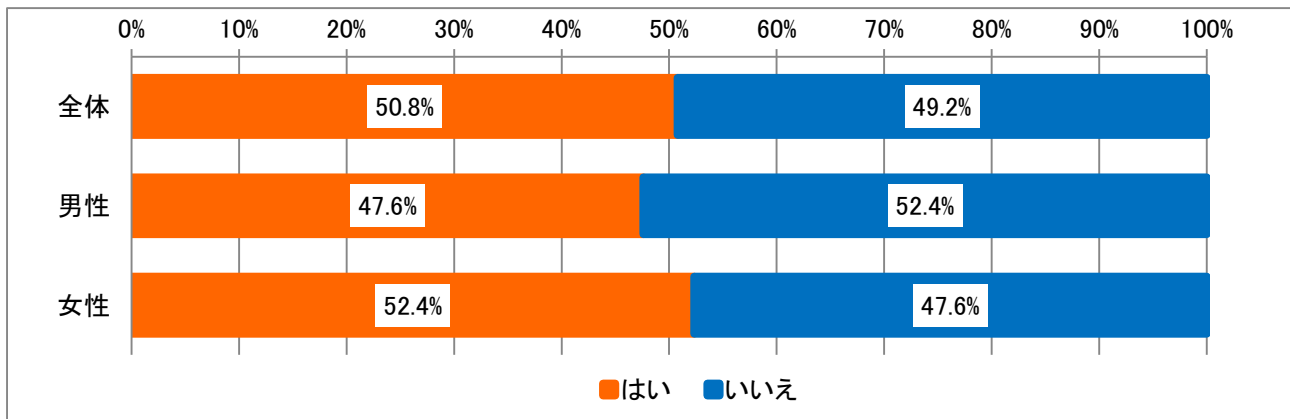
7 令和元年度 第1回青少年意見募集事業結果

上段:人数 下段:(%)		全体	テレビ	新聞	雑誌	ラジオ	SNS	インター ネット	街頭での 呼びかけ	ポスター	イベント	学校	家族・友人	その他
全体		255	92	28	17	9	33	17	150	99	13	105	85	11
		100.0%	36.1%	11.0%	6.7%	3.5%	12.9%	6.7%	58.8%	38.8%	5.1%	41.2%	33.3%	4.3%
性別	男性	85	39	15	9	5	14	7	50	34	6	39	22	5
		100.0%	45.9%	17.6%	10.6%	5.9%	16.5%	8.2%	58.8%	40.0%	7.1%	45.9%	25.9%	5.9%
	女性	170	53	13	8	4	19	10	100	65	7	66	63	6
		100.0%	31.2%	7.6%	4.7%	2.4%	11.2%	5.9%	58.8%	38.2%	4.1%	38.8%	37.1%	3.5%
年代	12~14歳	20	3	0	2	1	2	2	9	7	0	3	9	1
		100.0%	15.0%	0.0%	10.0%	5.0%	10.0%	10.0%	45.0%	35.0%	0.0%	15.0%	45.0%	5.0%
	15~19歳	125	50	16	8	5	21	8	71	51	5	47	48	6
		100.0%	40.0%	12.8%	6.4%	4.0%	16.8%	6.4%	56.8%	40.8%	4.0%	37.6%	38.4%	4.8%
	20~24歳	76	28	7	5	1	9	5	45	26	6	43	19	4
		100.0%	36.8%	9.2%	6.6%	1.3%	11.8%	6.6%	59.2%	34.2%	7.9%	56.6%	25.0%	5.3%
	25~29歳	34	11	5	2	2	1	2	25	15	2	12	9	0
		100.0%	32.4%	14.7%	5.9%	5.9%	2.9%	5.9%	73.5%	44.1%	5.9%	35.3%	26.5%	0.0%

※複数回答有り：回答数 659

- 全体で見ると、「街頭での呼びかけ」をきっかけとした割合が最も高かった。
- 男女別に見ても、「街頭での呼びかけ」をきっかけとした割合が最も高く、男女とも50%以上が回答した。
- 年代別に見ると、20~24歳では「学校」が献血を知るきっかけになった人も多かった。

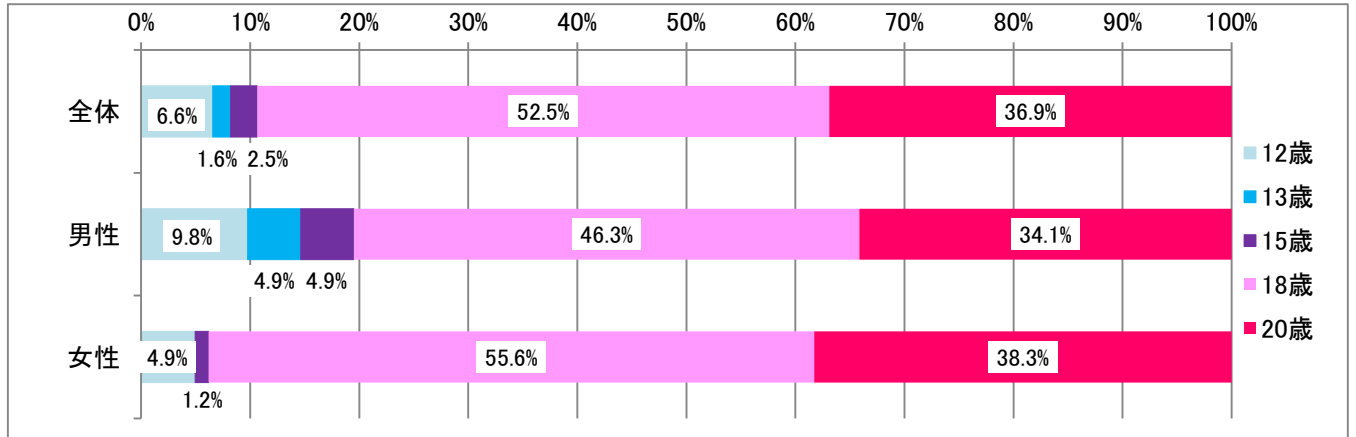
質問1-3 (質問1-1で「はい」を選んだ方) 献血は16歳からできることを知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		254 100.0%	129 50.8%	125 49.2%
性別	男性	84 100.0%	40 47.6%	44 52.4%
	女性	170 100.0%	89 52.4%	81 47.6%
年代	12~14歳	20 100.0%	7 35.0%	13 65.0%
	15~19歳	125 100.0%	74 59.2%	51 40.8%
	20~24歳	75 100.0%	34 45.3%	41 54.7%
	25~29歳	34 100.0%	14 41.2%	20 58.8%
性別×年代	男性 12~14歳	4 100.0%	2 50.0%	2 50.0%
	男性 15~19歳	44 100.0%	26 59.1%	18 40.9%
	男性 20~24歳	17 100.0%	6 35.3%	11 64.7%
	男性 25~29歳	19 100.0%	6 31.6%	13 68.4%
	女性 12~14歳	16 100.0%	5 31.3%	11 68.8%
	女性 15~19歳	81 100.0%	48 59.3%	33 40.7%
	女性 20~24歳	58 100.0%	28 48.3%	30 51.7%
	女性 25~29歳	15 100.0%	8 53.3%	7 46.7%
属性	中学生	22 100.0%	9 40.9%	13 59.1%
	高校生	90 100.0%	52 57.8%	38 42.2%
	専門学校・短大などの学生	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	90 100.0%	44 48.9%	46 51.1%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	11 100.0%	5 45.5%	6 54.5%
	正社員・正職員	33 100.0%	15 45.5%	18 54.5%
	専業主婦(夫)・家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	無業者	4 100.0%	1 25.0%	3 75.0%

- 全体で見ると、50.8%が「はい(献血は16歳からできることを知っている。)」と回答した。
- 年代別で見ると、15~19歳のグループのみ「はい」が「いいえ」を上回っていた。
- 属性別に見ると、中学生では「はい」が約4割、「いいえ」が約6割であったが、大学生・大学院生では16歳から献血できることを知っている人と知らない人の割合は同程度となった。

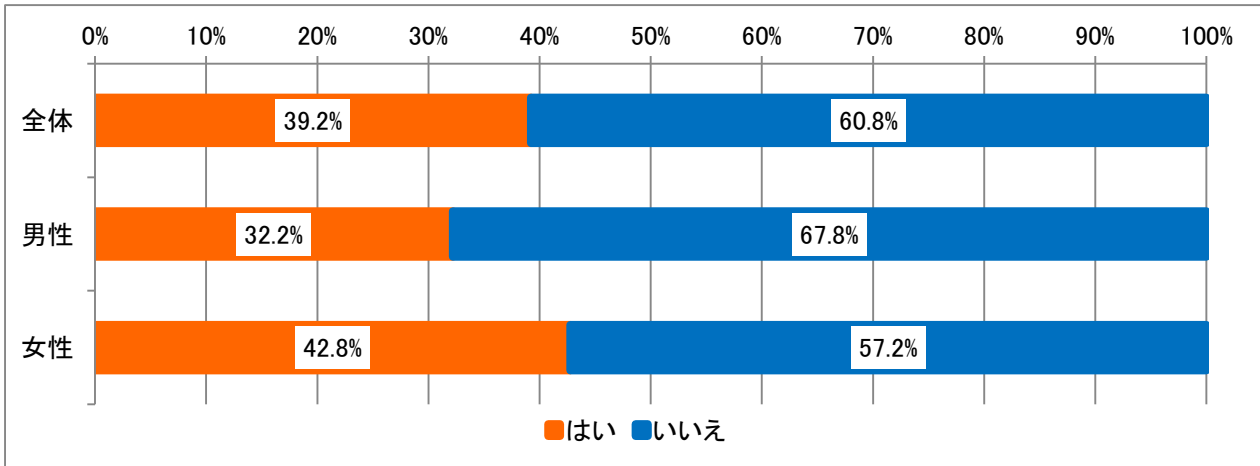
質問1-4 (質問1-3で「いいえ」を選んだ方) 献血できると思っていた年齢を教えてください



		上段:人数	下段:(%)									
		全体	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
全体		122	8	2	0	3	0	0	64	0	45	
		100.0%	6.6%	1.6%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	52.5%	0.0%	36.9%	
性別	男性	41	4	2	—	2	—	—	19	—	14	
		100.0%	9.8%	4.9%	—	4.9%	—	—	46.3%	—	34.1%	
性別	女性	81	4	—	—	1	—	—	45	—	31	
		100.0%	4.9%	—	—	1.2%	—	—	55.6%	—	38.3%	
年代	12~14歳	13	1	—	—	—	—	—	4	—	8	
		100.0%	7.7%	—	—	—	—	—	30.8%	—	61.5%	
	15~19歳	49	2	2	—	1	—	—	28	—	16	
		100.0%	4.1%	4.1%	—	2.0%	—	—	57.1%	—	32.7%	
年代	20~24歳	41	4	—	—	2	—	—	21	—	14	
		100.0%	9.8%	—	—	4.9%	—	—	51.2%	—	34.1%	
年代	25~29歳	19	1	—	—	—	—	—	11	—	7	
		100.0%	5.3%	—	—	—	—	—	57.9%	—	36.8%	
性別×年代	男性 12~14歳	2	—	—	—	—	—	—	1	—	1	
		100.0%	—	—	—	—	—	—	50.0%	—	50.0%	
	男性 15~19歳	16	—	2	—	1	—	—	9	—	4	
		100.0%	—	12.5%	—	6.3%	—	—	56.3%	—	25.0%	
	男性 20~24歳	11	3	—	—	1	—	—	3	—	4	
		100.0%	27.3%	—	—	9.1%	—	—	27.3%	—	36.4%	
	男性 25~29歳	12	1	—	—	—	—	—	6	—	5	
		100.0%	8.3%	—	—	—	—	—	50.0%	—	41.7%	
女性 12~14歳	11	1	—	—	—	—	—	3	—	7		
	100.0%	9.1%	—	—	—	—	—	27.3%	—	63.6%		
女性 15~19歳	33	2	—	—	—	—	—	19	—	12		
	100.0%	6.1%	—	—	—	—	—	57.6%	—	36.4%		
女性 20~24歳	30	1	—	—	1	—	—	18	—	10		
	100.0%	3.3%	—	—	3.3%	—	—	60.0%	—	33.3%		
女性 25~29歳	7	—	—	—	—	—	—	5	—	2		
	100.0%	—	—	—	—	—	—	71.4%	—	28.6%		
属性	中学生	13	1	—	—	—	—	—	4	—	8	
		100.0%	7.7%	—	—	—	—	—	30.8%	—	61.5%	
	高校生	37	1	2	—	—	—	—	20	—	14	
		100.0%	2.7%	5.4%	—	—	—	—	54.1%	—	37.8%	
	専門学校・短大などの学生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	大学生・大学院生	45	4	—	—	3	—	—	26	—	12	
		100.0%	8.9%	—	—	6.7%	—	—	57.8%	—	26.7%	
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	6	—	—	—	—	—	—	2	—	4	
	100.0%	—	—	—	—	—	—	33.3%	—	66.7%		
正社員・正職員	17	2	—	—	—	—	—	9	—	6		
	100.0%	11.8%	—	—	—	—	—	52.9%	—	35.3%		
専業主婦(夫)・家事手伝い	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—		
	100.0%	—	—	—	—	—	—	100.0%	—	—		
無業者	3	—	—	—	—	—	—	2	—	1		
	100.0%	—	—	—	—	—	—	66.7%	—	33.3%		

全体で見ると、「18歳」と回答した割合が52.5%と最も高く、次いで36.9%が「20歳」と回答とした。

質問2 「はたちの献血」キャンペーンを知っていますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		260 100.0%	102 39.2%	158 60.8%
性別	男性	87 100.0%	28 32.2%	59 67.8%
	女性	173 100.0%	74 42.8%	99 57.2%
年代	12~14歳	20 100.0%	6 30.0%	14 70.0%
	15~19歳	125 100.0%	46 36.8%	79 63.2%
	20~24歳	79 100.0%	37 46.8%	42 53.2%
	25~29歳	36 100.0%	13 36.1%	23 63.9%
性別×年代	男性 12~14歳	4 100.0%	0 0.0%	4 100.0%
	男性 15~19歳	44 100.0%	13 29.5%	31 70.5%
	男性 20~24歳	19 100.0%	10 52.6%	9 47.4%
	男性 25~29歳	20 100.0%	5 25.0%	15 75.0%
	女性 12~14歳	16 100.0%	6 37.5%	10 62.5%
	女性 15~19歳	81 100.0%	33 40.7%	48 59.3%
	女性 20~24歳	60 100.0%	27 45.0%	33 55.0%
	女性 25~29歳	16 100.0%	8 50.0%	8 50.0%
属性	中学生	22 100.0%	8 36.4%	14 63.6%
	高校生	90 100.0%	32 35.6%	58 64.4%
	専門学校・短大などの学生	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	大学生・大学院生	92 100.0%	39 42.4%	53 57.6%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13 100.0%	3 23.1%	10 76.9%
	正社員・正職員	35 100.0%	16 45.7%	19 54.3%
	専業主婦(夫)、家事手伝い	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
	無業者	4 100.0%	1 25.0%	3 75.0%

- 全体で見ると、39.2%の人が「はたちの献血」キャンペーンを知っていた。
- 男女別で見ると、男性では32.2%が「はい」と回答したのに対し、女性は42.8%の人が「はい」と回答した。
- 年代別では、12~14歳は知っている人が30%であったが、15~19歳と25~29歳では37%近くまで上がり、20~24歳では47%近くの人が知っていた。

質問3 若い世代の献血を促進するために、国はどのような取組を行うことが効果的だと思いますか。

■学校での教育

- ・中学、高校などの保健の授業で献血についての項目を取り入れるのが効果的だと思います。私は献血についてのことをよく知りません。なので、血を抜くということに対して少し抵抗があります。このようなことはきっと私以外にも多くの方が思っていることだと思います。1人でも多くの人を助けられるように、多くの方が献血について10代の頃から、詳しく知れるような機会をつくるべきだと思います。
(女性/18歳/高校生)
- ・保健など学校の授業で取り扱う。でも、なぜ若い世代の献血が推進されるのかがわかるようにすべきと思う。献血される側のメリットなのか、献血する側のメリットなのか、それとも献血が国の役に立つのか、わかりやすく教えてほしい。(男性/17歳/高校生)
- ・献血に行くのとどのように社会貢献ができるか、メリットを若い世代にもっと広めていくべきだと思う。献血に行きたくなるようなメリットを知ると献血に興味を持つ人が増えるのではないかと思う。また、私はついこの前に高校の生物の授業で献血が16歳からできることを知った。その前までは18歳からしか献血に行くことができないのだと思っていたので、若い世代で献血が可能になる年齢を知らない人もまだ多いと思う。さらに、そのことを知っていたとしてもどのような手順で献血をするのかは私もまだよくわからない。学校の授業で献血の意義や方法に触れるための機会を設けることで、献血に対する不安が解消されるのではないかと思う。(女性/16歳/高校生)
- ・小中学生に対する取組として、①献血を呼び掛けるポスターや作文のコンクールを行い、優秀な作品は表彰したり、実際に使用したりする。②今回のアンケートのように、若い世代の献血を推進するために、国はどのような取組を行うことが効果的かを考えてもらう授業をする。
高校生に対する取組として、①全国の高校に献血車が訪れ、生徒の献血を促す。その際、車両内に参考書や携帯電話を持ち込めることをアピールする。②高校1・2年生を対象に、自分も献血を通して社会に貢献できる年齢になったことや、血液がどのようにして患者さんのもとに届くさんのもとに届くのかを知ってもらえるよう、講師を派遣し、授業を行う。(女性/12歳/中学生)
- ・義務教育の保健授業において献血を科目に加え、奨励すること。(女性/18歳/高校生)
- ・交通安全教室みたいにみんなで献血について考える授業(ワークショップ)を実施する。(女性/13歳/中学生)
- ・義務教育など学校教育の中で献血について扱う時間を増やすこと(小学校課程の社会科や保健体育から)が効果的だと思う。その際には、献血に参加することで得られるメリット(簡易の血液検査結果がわかる、まれな血液型であることがわかるなど)についても教えるべきだと感じる。その上で、高等学校・専門学校・大学に献血カーを派遣すると、より深く献血について知った上で気軽に献血を受けられると思う。(女性/22歳/正社員・正職員)
- ・献血の歴史、体内の血液の必要量、献血で助かった命の事例、どんな病気にどれだけの献血を必要としているのかなど、わかりやすく中学の保健の教科書で説明してほしい。高校生は学校で先生と一緒に献血体験を試してみたらいいのかもしれない。駅や電車で献血のポスターを見かけることがないので貼った

らいいと思う。(女性/13歳/中学生)

- ・幼少期からの意識改革が効果があるのではないかと思ったりする。保育園や幼稚園、小学校、中学校などで赤十字の方々が定期的に身近な事例を挙げたり、必要性を伝える機会を作る事で、その子供達が献血できる年齢に達した時、進んで行くようになるのではないだろうか。(男性/17歳/高校生)
- ・学校で献血に関する啓発活動を活発に行うべきだと思います。(男性/26歳/無業者)
- ・献血の推進が進んでいない理由としては、献血の知識が若い世代に十分になく、身近でないことがあげられると思います。私自身も、献血自体は知っていましたが、献血方法などを知ったのは高校に入ってからでした。献血可能年齢未満の世代から献血の理解を促進することは献血をより身近に感じられるようにすることができ、未来の献血者を増やすことにつながるでしょう。従って、小学校にも教材やポスターの配布、説明会の実施等などの取り組みを行うことが効果的だと思います。さらに、可能であれば小学校や中学校に献血所や献血バスの見学を行う授業を取り入れることも、献血を身近に感じることに繋がると思います。(女性/17歳/高校生)

■知識の普及・重要性の周知

- ・献血への正しい理解の推進。例えばどのような病気の人、怪我の人が献血を必要としているのか、数字などを用いて説明する。どのくらいの量を献血しなければいけなくて、それが体にどのように影響するのか。特に女子の場合は生理などがあるので、どの時期にするべきなのか気になる。血液が汚かったら(ドロドロだったら?)献血しても意味がないと聞いたことがある。何がどの程度真実かは知らないが、自分が献血したのにも関わらずそのまま捨てられたら悲しい。献血できるのかそうでないのか、という検査だけでも先に受けられたら嬉しいと思う。(女性/23歳/大学生・大学院生)
- ・命の大切さと、医療の現場での血液の不足の現状、血液の不足からくる命と医療の危機を小さいうちから、学校で教えるのと、ポスターやテレビ、新聞、ネットで訴える。また、子育て世代にも注目して、検血の大切さを家庭で認識してもらえば、自然と子供も献血を考えるようになるのでは?(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・私は、学校に時々、献血車が来ていたり、学校で教材が配られたりして「献血」というもの自体は知っていたけど、献血の方法や、かかる時間、献血不足などの問題点などは知らなかったので、今回の「3分でわかる献血のはなし」のビデオを観て、改めて知りました。自分は昨年、全身麻酔の手術を行い、その時は自分の血液をあらかじめ数回取っておくだけで済んだのですが、その時に初めて献血は大事なのだなと思いました。ただ、一般の大きな手術などを行ったことのない若い人たちは、献血の大事さや、献血はどんな役に立っているのかなどをあまり身近には「献血」を感じられていないのではないかと思います。なので、このような献血を行うことの重要性や、ビデオでも言っていた将来の献血不足などの問題点などを示し、「献血」という行為をもっと身近に感じてもらう取り組みをするべきだと思います。また、実際に献血によって助かった人や、現在献血を必要とする人のメッセージなどを載せ、献血をする必要性などをわかってもらうことも大切だと思います。(男性/16歳/高校生)
- ・若い世代が献血をしない理由として、多い理由の一つに、「関心がない」ということがあると考える。献血をすることで自分にどのようなメリットがあるのかという、損得勘定で考えることが多いと思われるからだ。若い世代が献血をすることで、どれだけの人が助かるのかということを啓発する必要がある。しかし、その重要性を理解しても、すぐに献血のために外出をしようという人は多くはないだろ

う。そこで、医療機関の健康診査や健康診断を受診する際に、受診者に対して献血を行うよう指導してみてもどうか。外出した際に、目的地に献血ができる場所がないと、なかなか献血をしようとはならない。もちろん献血が不可能な人も中にはいるので、医療機関内の連携が必要だが、少なからず効果はあると思われる。(男性/25歳/正社員・正職員)

- ・若い人の献血を推進するためには、まずは若者が正しい献血の知識を得ることが大切だと考えます。特に16歳から出来るといいながらも、学校で献血に対する啓発や教育といったものがほとんど無いように感じます。自分の高校にも献血バスが来ていましたが、周知活動などはポスター程度だったと思います。また、高校生が正しい献血の知識を得ることが必要だと思うので、保健指導の一環として、授業内で献血について取り上げるべきだと考えます。献血のイメージとしては、「痛そう」というのがあり、抵抗が大きいと考えます。正しい知識を持って自発的に献血を行える姿勢を養う必要があると考えます。また献血がある種のトレンドのような物になればいいと考えますし、やることに対して、もっとメリットがあることを提示できればいいと考えます。(男性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血がどのようなことをするのか、痛みはどれぐらいなのか、救える人はどのくらいいるのかをしっかりと広めることが大切であり、どのような人は献血できないのかも同時に広める必要がある。(女性/20歳/大学生・大学院生)

■イメージの転換（メリット・デメリットの周知）

- ・献血は手軽にできるものだということをアピール。母が献血ボランティアに積極的で、私も勧められますが、血を取られることが正直怖くてなかなか足を運ばません。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・痛そうなイメージを払拭。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・献血は痛くて、怖いという印象があるので、実際に学校などを年に何回か回って、どのようなものなのか説明すれば良いと思う。毎月献血に関する、広報誌を全国の学校に配布すれば良いと思う。(男性/16歳/高校生)
- ・献血するとどんな良いことがあるかを世に知らしめることだと思います。個人的には、時間がかかりそう、血を抜いたら栄養が細胞に行き届きにくくなりそう、というイメージがあります。しかし、献血するとお菓子がもらえたり飲み物を飲めたりすると聞いたので、近々ぜひ献血したいと思っています。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・主に宣伝という面に特化して意見を出させていただきます。まず献血の宣伝は血液が足りてないという訴えのイメージが強すぎると思います。たしかにそれは事実だと思うのですが、それでは献血をする側にとってのメリットが明確ではありません。そこでそのイメージだけにならないためにも、より献血する側のメリットを推した広告を出すべきではないかと思います。そのようにすれば時間を割いてまで献血をしたいと思える人が増えると思います。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・腕に刺す痛みが一つのハードルとなっていると思うので、思ったほど痛くない、鋭いというより鈍い、というような実践した感覚を有名人の体験記などで伝えられれば、躊躇する人の背中を押せると思います。(男性/24歳/大学生・大学院生)

■広報活動

- ・献血アイドルでどのくらい効果が現れたのでしょうか？大勢が来場する大きいイベント(コンサート、

ライブ、プロ野球、Jリーグ、Bリーグ等)の会場に献血ブースを設けて、呼びかけを実施し、興味を持ってもらう。毎年行われる国体、来年の東京五輪でも可能ならばそこでもやると効果があるのでは。

(男性/28歳/正社員・正職員)

- ・現在、乃木坂46をイメージモデルとしているように、芸能人を宣伝に起用するというのは印象も残る上にとっつきやすいからとてもいいなと感じた。今の若い世代はあまりテレビを利用せず、情報をほぼSNSなどから得ているため、インスタグラムなどもっとSNS(YouTubeなどの広告)を活用した方が良かったと思った。他にも、YouTuberなどをお願いをして実際に献血をした感想などの動画をアップしてもらうなども活用した方がいいと思う。また、小さい子供たちは電車の広告など(スクリーン・ポスター共に)をよく見ている光景を目にするため、小さい頃からもっと献血を身近に感じてもらえるように電車広告などを活用することも効果的であると感じる。(女性/18歳/高校生)
- ・私は今まで献血はただ血を抜く場所だと思っていました。でも最近献血ルームには献血をした人が飲み物やお菓子を食べながら休憩できる場所があることを知りました。私の友達も、献血に行ったことがあるみたいで、そこでアイスを買ったということを知って私も行ってみたいと思うようになりました。最近Twitterなどでも友達と「献血デート」に行ってきたというツイートを目にするようになり、そのツイートを見て、ほかの友達も真似して献血に行ってみたりしていました。このことから、私は、若い世代の人は献血ルームは血を抜くだけの場所という意識が強く、休憩所ではお菓子などを食べることができるということを知らないのかもしれないと思いました。なので、献血を広める為にもまずそのきっかけとして献血をした人へのささやかなお礼としてお菓子などがあることを広めてみるのはどうでしょうか。また、献血をした若い世代の人にTwitter等で「献血をして人助けをすることが出来るし、お礼としてお菓子なども無料で食べられる」などをツイートしてもらい、それを見てその人の知人などが献血に行くように促すなどをすれば、献血が若い世代にも広がると思います。(女性/16歳/高校生)
- ・献血についてのCMを作って放映し、若い世代への献血に対する認知度を高める。また、そのCMは若い世代がよく見るような時間帯やよく見る番組の間に使用し、人気の俳優などをモデルとすれば良いと思う。また、テレビだけではなく、InstagramやYouTube、Twitterなど若い世代の人達がよく使うようなアプリの広告にも取り入れるべきだと思う。認知度を高めるだけでなく、行動に移しやすいようにするため、祭りや有名な観光地などに献血ブースをつくる。また、「献血なんて行きにくい。」と思う人のために、献血ブースをデコレーションしたり、今流行りの「インスタ映え」するようにつくると良いのではないかな。(女性/15歳/高校生)
- ・アニメとのコラボレーションは効果があると思う。(女性/25歳/正社員・正職員)
- ・YouTubeなど若者が使う頻度が高いサイトにCMを流すことや歌手やK-POPとのコラボなどをすると注目が集まると思う。また献血をするとポスターなどのグッズを貰えるとやる人も増えると思う。(女性/13歳/中学生)
- ・ユーチューバーとタイアップする。献血アプリをつかって、ポイント貯めたり献血スケジュール分かったり今まで献血した血の総量が見れるようにする。献血のマスコットキャラをハロウィンに出没させる。(女性/17歳/高校生)
- ・CM、InstagramやTwitterなどで若者の情報収集の場での広告活動をし、イメージモデルとして、人気のモデルやアイドルを起用する。(女性/17歳/高校生)

- ・私の住んでいる茨城県では大洗を舞台としたアニメーション作品である「ガールズ&パンツァー」とのコラボレーションを積極的に行っており、献血をするとグッズがもらえるようになっている。これがかなり人気で、大学の友人や教室などでそのようなグッズを持っているのをよく見かける。私自身も行くと思ったきっかけなのでアニメ作品とのコラボは非常に効果的だと思う。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・献血に関するパンフレットを駅、図書館、学校で配布する。中学校、高校で献血について授業で学ぶ機会を増やす。若い世代向けに献血ルーム、献血バスの見学会を開く。(女性/15歳/中学生)
- ・まずは、目にすることが第一歩だと思うので SNS を使った周知。あとはいかに簡単な手順でできるかをわかってもらうこと。(男性/26歳/正社員・正職員)
- ・献血がどうして行われているのか、そのメリットは何か、ということをもっと若い世代に発信する必要を感じています。たとえば献血をするという少しの手間で救われる命があるかもしれないということ(行為の社会貢献性)の認知拡大や、献血協力者への特典(短期的な利点)等の提供があれば、献血に協力する人が増えるのではないかと思います。国の取組としては、これまで以上に医療機関等と連携して、街頭での広報活動を行うことなどを提案します。(男性/20歳/大学生・大学院生)
- ・若年層で献血が進まない理由として、若者にとって「血を抜く」ことに強い抵抗がある点が挙げられると思う。新宿や渋谷など若者の集まる場所へ行けば必ず献血の呼びかけをされている方がおり、SNS 等においても芸能人など多くのインフルエンサーが献血を呼び掛けている。そもそも献血の存在自体、大半の人が小中学校で学習するので知らないわけがない。ではなぜ普及しないのかというと、時間的に余裕がないなどといった理由もあるが、根本的には「血を抜く」ことへの抵抗、一種の恐怖感があるのだと思う。このような潜在的な献血へのマイナスイメージを払拭するには、献血が安全で親近感を感じられるような PR をすべきである。特に思うのが献血の PR に「赤」が多すぎることだ。献血なので仕方のない面もあるが、あからさまに血を連想させるのは決してプラスではない。ピンクやオレンジといった他の暖色系の色を用いたり、あえて心理的に安心感を与える寒色系の色を用いるのも効果的ではないかと感じる。長年にわたり献血の PR に使用してきたデザインを大幅に変更することは大胆な改革であるが、思い切ったイメージ革新を図れば間違いなく結果が出るのではないだろうか。(男性/19歳/大学生・大学院生)

■インセンティブの付与

- ・献血をした人にサービスや限定品などを提供するのが効果的だと思います。人助けやボランティア精神頼みでは限界があります。献血をする人、受ける人、両方にメリットがあると献血者数が増加すると考えます。(男性/29歳/正社員・正職員)
- ・あまりよくないとは思いますが、献血をしたら何か割引になるといったチケットを発行する。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・ショッピングモールや映画館、駅など暇な待ち時間で出来るような場所に献血ルームを設置すること。その上で、キャンペーンをそのショッピングモールや映画館、駅などで割引サービスやポイントカード制などにして、何回でも行きたいようにする。また、そのキャンペーンなどをツイッターや Instagram などの SNS でも広報し、認知度を高めていく必要がある。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・スタバのチケットなどくれるのもうれしい。(女性/20歳/大学生・大学院生)

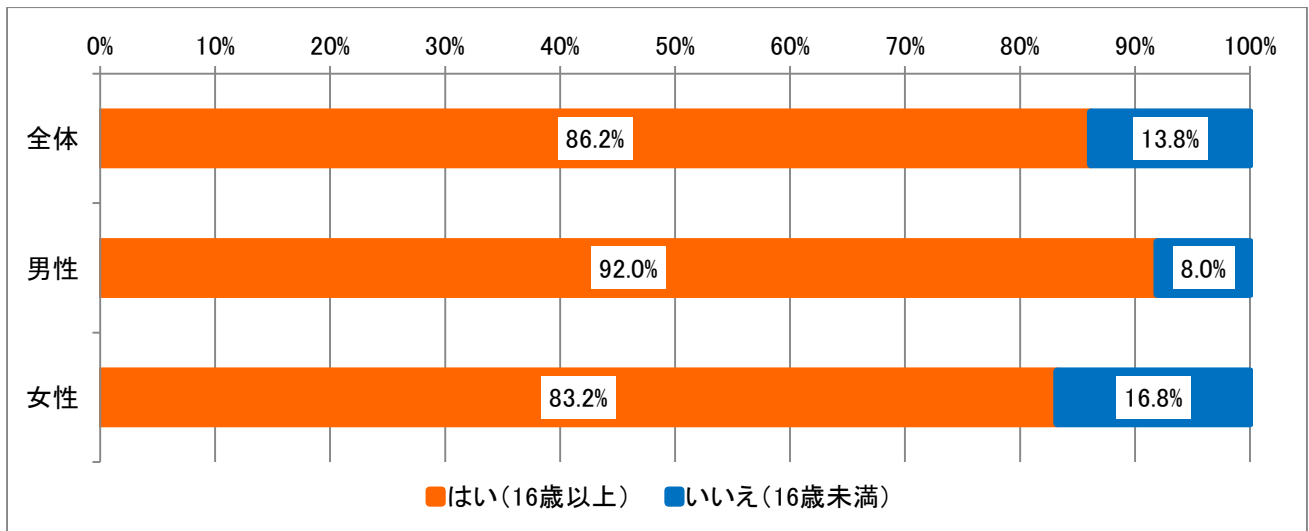
- ・一年間で一定の回数献血をしたら、映画鑑賞の一回無料などの特典をあげるのはいかがでしょうか。映画鑑賞は例えて他にはスポーツの観戦チケットや、特定の施設への入場無料券などを貰えると、ポスターを使って宣伝してみるのはいかがでしょうか。そうすると若い人は行ってみようと思い、1回献血をしに来ると思います。その時に献血の大切さを知ってもらうための動画を流して、献血の大切さを知ってもらうべきだと思います。しかし、それだけでは不十分だと思います。だから、学校からの呼びかけも合わせてするとさらに効果があると思います。もし、このような取組をしたら自分だったら献血に行くと思います。(男性/13歳/中学生)
- ・献血は血液を提供するボランティアだと、参考ウェブサイトから分かりました。ただ無償で集まらないのなら有償にしたら集まるのではないかと思います。献血の理念とはかけ離れてしまうかもしれませんが、理念を貫き通すより血液量を確保することの方が優先順位が高いように感じました。具体的な取り組みについてですが、献血することで税金の支払いなどが優遇される、あるいは多くの人にとって有用なサービスが受けられるという特典をつけるのはいかがでしょうか。例えば、献血をすることで保険料が低くなれば、保険料を払っている世代にとってはお得に感じられる人も出てくると思います。また宣伝方法としては明細書が入っている封筒に「献血すると保険料が安くなる！あなたの血液で助かる人がいます、詳しくはこちらから→(QRコードから詳細な情報検索可能にする)」等と印刷すれば一石二鳥ではないかと思います。または献血をすることで公共交通機関にお得に乗れるようにするという案もあります。宣伝方法は中吊り広告や車内の電子広告を使えば多くの人に知らせることができると思います。資金は今宣伝に使っている方々を減らすあるいは変えることで作れると思います。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・地域商品券の配布。昔、血をお金で買い取っていたと聞いたことがある。現金で血液を購入するのが時代に即していないのなら、現金の給付を復活させるのは、そもそもの解決策にならないだろう。しかしながら、現在のお菓子や飲み物と言った現物、献血後の休憩といったサービスでは、献血する魅力がない。地域のみで使用できる商品券を対価として付与することで、地域は若い世代の顧客を獲得でき、若い世代は金銭的メリットを得られる。(男性/28歳/正社員・正職員)
- ・ポイントカード制でいろんな商品と交換できるようにする。(女性/21歳/大学生・大学院生)

■行政や公的機関からの働き

- ・SNSアカウントの開設。例えば、首相官邸公式 Instagram のように、ポップで若者に親しみやすい媒体で献血の協力を呼びかける。初心者は、行きたくてもどんな雰囲気なのか分からず、怖くて行けない方もいらっしゃると思います。そこで、公式アカウントを使って、「献血協力者にとってのメリット」「献血バス、ルームの中の様子」を明確に伝える必要があると思います。(男性/17歳/高校生)
- ・全国の高等学校と連携し、学校に献血カーを呼び、集団で献血を行う取り組み。(女性/17歳/高校生)
- ・高校で献血できる血液かを検査して提供できる血液であるならば献血を義務化すればいいと思う。(女性/17歳/高校生)
- ・行政機関を通して、献血の必要性が呼びかけられた記憶がないので、政府公認としてキャンペーンなどをすると良いと思う。献血の必要性や、献血の仕方、方法などが知れ渡っていないように感じるので、その詳細を発信する機会があれば良いと思う。(女性/15歳/高校生)
- ・一定期間献血に協力してもらった代わりに、その者には安定した生活が約束されるというシステムを作

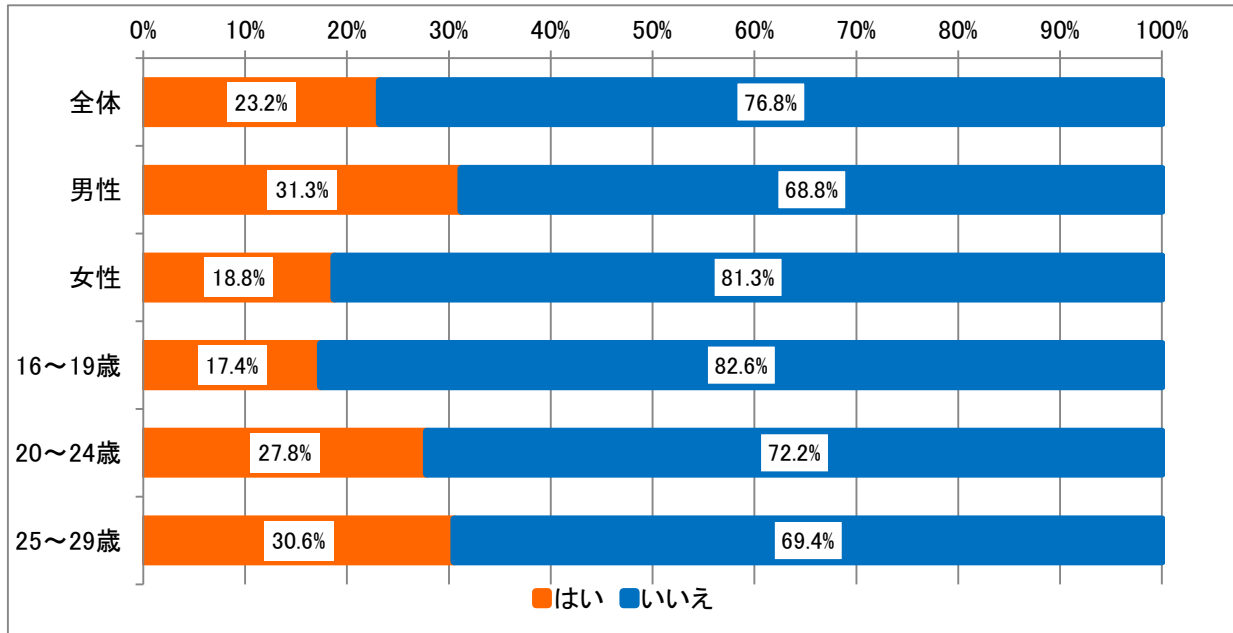
ったり、抗体を持たない黄金の血液と呼ばれているものを持つ者が受ける特別な待遇みたいな献血のアルバイトを作ったりする。(男性/16歳/高校生)

質問4 あなたは16歳以上ですか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい (16歳以上)	いいえ (16歳未満)
全体		260	224	36
		100.0%	86.2%	13.8%
性別	男性	87	80	7
		100.0%	92.0%	8.0%
性別	女性	173	144	29
		100.0%	83.2%	16.8%

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)
 質問5①-1 献血をしたことはありますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		224	52	172
		100.0%	23.2%	76.8%
性別	男性	80	25	55
		100.0%	31.3%	68.8%
性別	女性	144	27	117
		100.0%	18.8%	81.3%
年代	16~19歳	109	19	90
		100.0%	17.4%	82.6%
	20~24歳	79	22	57
	100.0%	27.8%	72.2%	
	25~29歳	36	11	25
	100.0%	30.6%	69.4%	
性別×年代	男性 16~19歳	41	11	30
		100.0%	26.8%	73.2%
	男性 20~24歳	19	6	13
		100.0%	31.6%	68.4%
	男性 25~29歳	20	8	12
		100.0%	40.0%	60.0%
女性 16~19歳	68	8	60	
	100.0%	11.8%	88.2%	
女性 20~24歳	60	16	44	
	100.0%	26.7%	73.3%	
女性 25~29歳	16	3	13	
	100.0%	18.8%	81.3%	
属性	高校生	76	11	65
		100.0%	14.5%	85.5%
	専門学校・短大などの学生	3	1	2
		100.0%	33.3%	66.7%
	大学生・大学院生	92	25	67
		100.0%	27.2%	72.8%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	13	5	8
	100.0%	38.5%	61.5%	
正社員・正職員	35	10	25	
	100.0%	28.6%	71.4%	
専業主婦(夫)、家事手伝い	1	0	1	
	100.0%	0.0%	100.0%	
無業者	4	0	4	
	100.0%	0.0%	100.0%	

- 全体で見ると、献血をしたことがある人は52人(23.2%)であった。
- 男女別で見ると、献血をしたことがある男性は31.3%(男性全体80人中25人)、女性は18.8%(女性全体144人中27人)であり、男性の方が献血をしたことがあると回答した割合が高かった。
- 年代別に見ると、高い年代ほど献血をしたことのある人が多い傾向が見られた。

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-2 (質問5①-1で「はい」を選んだ方)

初めて献血をしたきっかけと場所を教えてください。

□ 初めて献血をしたきっかけ

■ 学校内での機会

- ・大学に献血の車が来ていたから。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・文化祭に献血車が来ていて、お菓子を配っていたため。(女性/17歳/高校生)
- ・大学の献血実行委員会が呼びかけをしていた事。(男性/17歳/大学生・大学院生)
- ・高校で献血の時間があつた。(女性/23歳/大学生・大学院生)
- ・大学に献血カーが来ているのを見て、母がRhマイナスだったこともあり、自分も献血してみようかなと思ったから。(女性/22歳/正社員・正職員)
- ・授業の空きコマを有意義に活用したく、社会貢献もかねて献血に協力した。同期や後輩とも集って参加したので、終始リラックスして過ごせた。駅近の献血ルームへはなかなか足が延びなかったが、大学への出張サービスは集団で行けるので効率的かもしれない。(男性/25歳/大学生・大学院生)
- ・学校開催でのイベント。(男性/17歳/高校生)
- ・大学のボランティアサークルで献血の呼びかけをする機会があり、まず自分が献血をしようと思ったため。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・大学の敷地内に献血カーが来ていたこと。(女性/18歳/大学生・大学院生)
- ・医療・福祉系の大学に通っていたため、献血車が定期的に大学に来ており、休憩や空き時間に大学の同級生が当然のように行っていた(大学の性質上、一定数必ず、献血に行く人がいた)ことが理由だった。そして、飲み物やカレンダーやお菓子がもらえることも大学生としては、非常に嬉しかった記憶がある。(男性/24歳/正社員・正職員)

■ 献血に対する興味や貢献

- ・興味があつたため。友人と共に。(男性/18歳/高校生)
- ・献血がどういったものか気になつたから。(女性/20歳/大学生・大学院生)
- ・AB型ということもあり、献血に貢献したいという誤解混じりの意識と、興味からでした。(男性/24歳/大学生・大学院生)
- ・人の役に立つから。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・20歳になったらやろうと思つていた。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血できるのを楽しみにしていて、16歳になつたから。(女性/17歳/高校生)
- ・久々に休日ができ、ネットで「休日 有意義 過ごし方」と検索したら、項目の中に献血があつたため。それ以外にも、母の影響で幼少期から興味があつたため。(男性/25歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)

■ 家族や友人による紹介

- ・高校2年の時に友人から献血の体験を語られ紹介されたことがきっかけである。献血センターの職員の方々が大変丁寧に優しく、是非あなたも体験してほしいという趣旨だった。(男性/23歳/大学生・大学院生)
- ・前から興味があって、ちょうど友達がしてみたいと言っていたので一緒に行くことにしました。(女性/17歳/高校生)
- ・友人から話を聞いたことがあり、後日違う友達といたときに一緒に行こうという流れになった。(女性/22歳/大学生・大学院生)
- ・友達が献血をしたことを聞いて、私でも出来るんだ/お菓子がもらえるらしいから行こうと思った。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・私が小さいころから、一緒に買い物にいくと母がよく献血に行っていたから。(女性/26歳/正社員・正職員)
- ・親に勧められて。(女性/17歳/高校生)
- ・友達に誘われて。(女性/17歳/高校生)
- ・両親がしているため年齢が来たらやろうと思っていた。(女性/25歳/正社員・正職員)

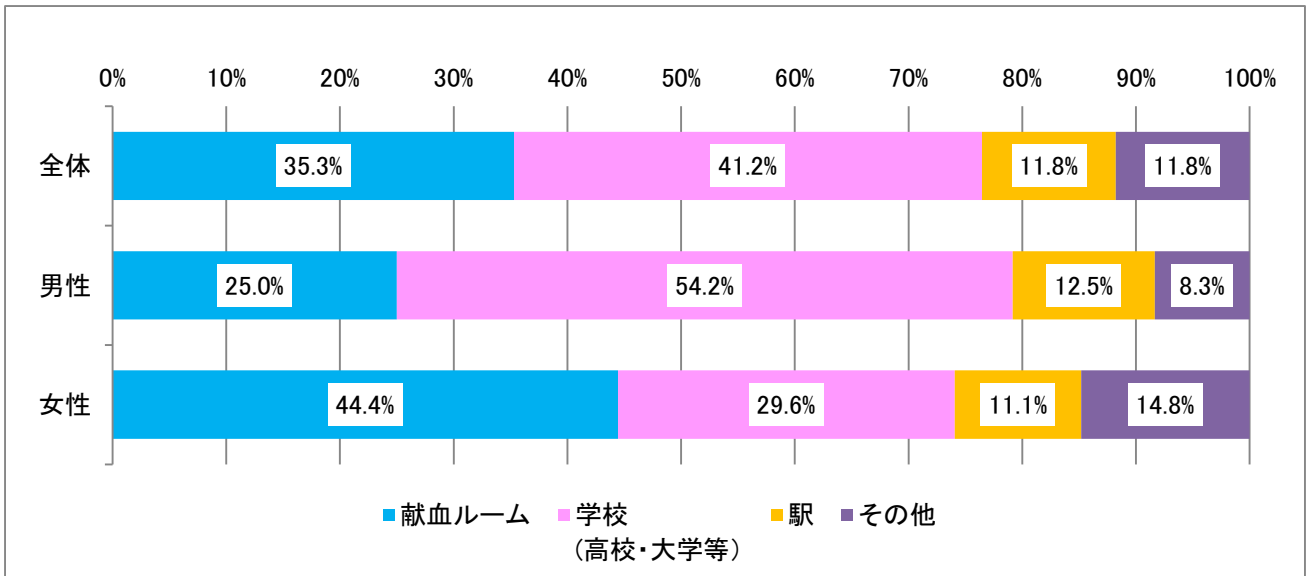
■ 献血関連のイベント・キャンペーン等の広報活動

- ・献血できるようになったので。コミックマーケットコラボのポスターが欲しかったので。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・自分が好きなアニメとのコラボキャンペーン。(男性/17歳/高校生)
- ・はたちの献血というキャンペーンを聞いて。(女性/23歳/正社員・正職員)
- ・けんけつちゃんが好きだから。(女性/21歳/大学生・大学院生)
- ・献血のホームページ。16歳の誕生日に献血しようと昔から決めていたから。(女性/16歳/高校生)。

■ その他

- ・血液型の証明書が必要だった。(女性/24歳/大学生・大学院生)
- ・この青少年意見募集事業がきっかけで行こうと決めた。その前にも大学に献血カーがよく来るので関心があったが、なかなか勇気を出せずにいた。(男性/18歳/大学生・大学院生)
- ・自分の血液型を調べるため。(男性/19歳/専門学校・短大などの学生)
- ・ユース特命報告員の報告で献血が取り上げられていたから。(女性/16歳/高校生)
- ・青年海外協力隊への応募を考えており、貧血の有無が重要視されると聞いたので、自分の状態を知りたいと思い、参加した。(女性/24歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・偶然、献血のバスを見かけて時間があつたから入ってみた。(男性/27歳/正社員・正職員)
- ・献血ルームはお菓子が食べ放題だと聞いたから。(女性/20歳/大学生・大学院生)

□ 初めて献血をした場所



上段: 人数 下段: (%)		全体	献血 ルーム	学校 (高校・大学 等)	駅	その他
全体		51	18	21	6	6
		100.0%	35.3%	41.2%	11.8%	11.8%
性別	男性	24	6	13	3	2
		100.0%	25.0%	54.2%	12.5%	8.3%
	女性	27	12	8	3	4
		100.0%	44.4%	29.6%	11.1%	14.8%
年代	16～19歳	19	9	6	3	1
		100.0%	47.4%	31.6%	15.8%	5.3%
	20～24歳	22	7	10	2	3
		100.0%	31.8%	45.5%	9.1%	13.6%
	25～29歳	11	2	5	1	3
		100.0%	18.2%	45.5%	9.1%	27.3%

- 全体で見ると、41.2%が「学校（高校・大学等）」、35.3%が「献血ルーム」と回答した。
- 男女別で見ると、男性の場合は54.2%が「学校（高校・大学等）」、次いで25.0%が「献血ルーム」と回答したのに対し、女性の場合は44.4%が「献血ルーム」、29.6%が「学校（高校・大学等）」と回答し、男性よりも女性の方が「献血ルーム」と回答する割合が高かった。

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-3 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方)

献血をしたことがない理由を教えてください。

■献血への不安や恐怖(衛生面も含む)

- ・献血をよく知らず、危険性や不安だけが私の中で先行してあったから。(女性/18歳/高校生)
- ・すごく怖いイメージがあります。(女性/19歳/大学生・大学院生)
- ・親に献血の針で病気が感染した人がいるとの話を聞いて本当かどうかは分からないが、その影響で献血の安全面が不安だから。(女性/24歳/正社員・正職員)
- ・注射が痛くて怖いからです。(女性/24歳/大学生・大学院生)

■献血への知識不足

- ・どこで献血をしているかわからないから。(女性/27歳/パート・アルバイト・派遣社員・契約社員)
- ・16歳からできると知らなかったから。(女性/16歳/高校生)
- ・年齢的に献血はまだ出来ないと思っていたから。また、献血ルームには大人が多い様子で、近寄り難いイメージがあったから。(女性/17歳/高校生)
- ・献血に対しての知識が薄く、少し怖いイメージがあるから。(女性/17歳/高校生)

■きっかけ、興味不足

- ・特に行こうと思う動機がなく、あまり血液をただ抜かれるということに良い印象がないから。(男性/17歳/高校生)
- ・献血を促す機会に巡り合えなかったため。(男性/22歳/正社員・正職員)
- ・わざわざ行く必要を感じなくて、どんな場所にあるのか、どんな雰囲気なのかもわからないから。
(女性/20歳/大学生・大学院生)

■健康面の理由

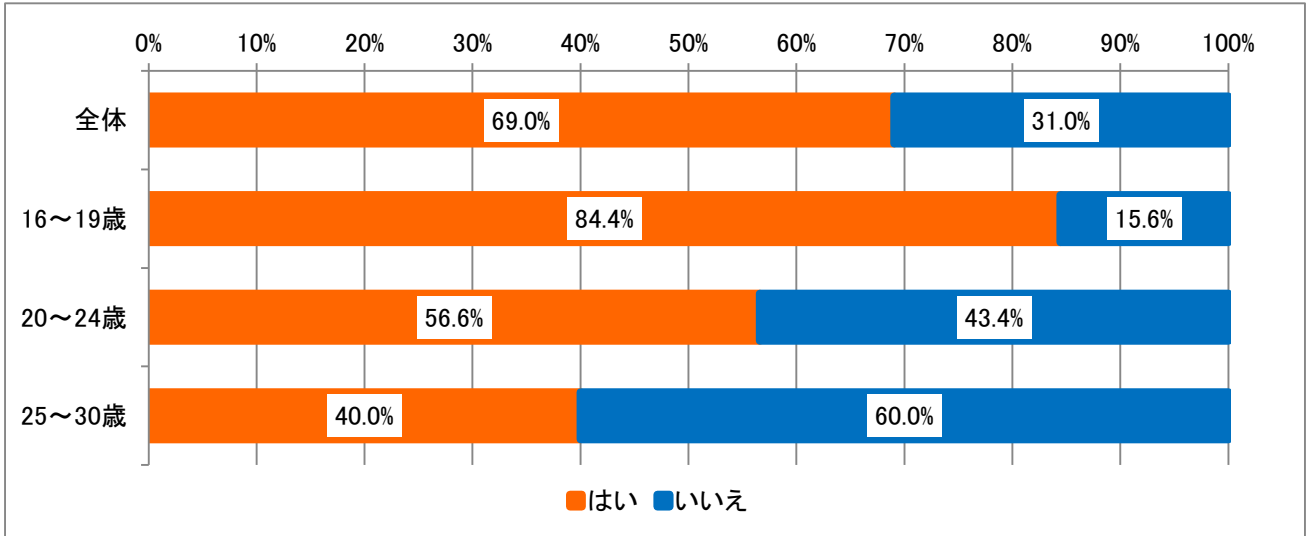
- ・献血をしたいとずっと思っているが、普段から貧血であり、献血できるほどの血液を保持していないから。(女性/16歳/高校生)
- ・検診の採血でも体調が悪くなるため。(男性/26歳/正社員・正職員)
- ・以前最寄り駅の公民館で献血を行っており、献血カードまで作成したのですが、血液濃度が足りず行えませんでした。(女性/17歳/高校生)
- ・薬を服用している期間が一年の大半を占めるため。また、注射がとても苦手なため。健康診断での採血ですら終わるとくらくらするので、献血ほどの大量の血液をとることに耐えられなさそうだから。(女性/24歳/大学生・大学院生)

■その他

- ・親が以前慢性の貧血が原因で献血をしないようにと勧告され、自分も献血しないほうがいいのではと考えていました。また献血センターまでの距離が遠いこともわざわざ電車に乗ってまで献血しに行こうという気持ちになれないのも要因です。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・私は、駅前やデパートの前などで献血をすることの出来る車を何度か見かけていました。その度に、何人もの人が献血しており、他人がやってるなら、自分はやらなくていいと思ひ献血を避けており献血はしたことはありませんでした。(男性/19歳/大学生・大学院生)
- ・わざわざする時間がない。(女性/19歳/大学生・大学院生)

(質問4で「はい(16歳以上)」と回答した方)

質問5①-4 (質問5①-1で「いいえ」を選んだ方) 今後献血をしてみたいと思いますか。

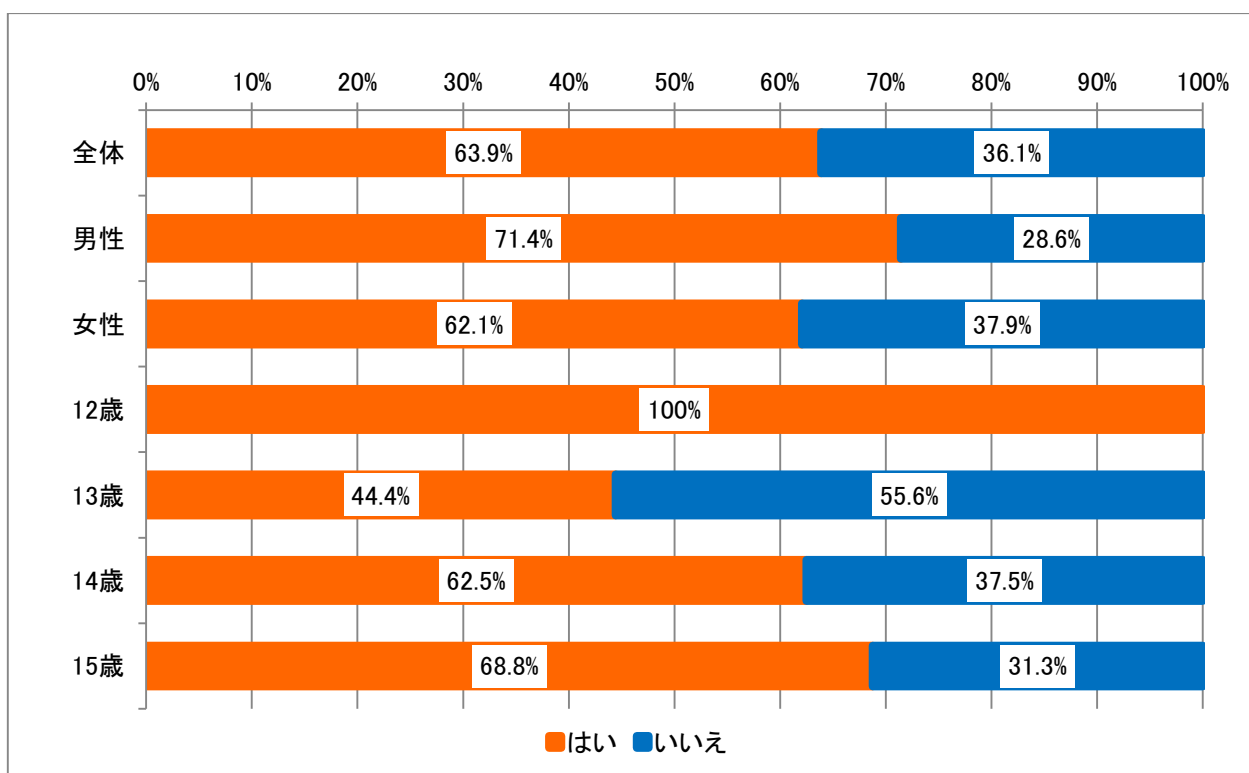


上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		168	116	52
		100.0%	69.0%	31.0%
性別	男性	54	36	18
		100.0%	66.7%	33.3%
性別	女性	114	80	34
		100.0%	70.2%	29.8%
年代	16～19歳	90	76	14
		100.0%	84.4%	15.6%
	20～24歳	53	30	23
	100.0%	56.6%	43.4%	
	25～29歳	25	10	15
		100.0%	40.0%	60.0%
性別×年代	男性 16～19歳	30	24	6
		100.0%	80.0%	20.0%
	男性 20～24歳	12	8	4
		100.0%	66.7%	33.3%
	男性 25～29歳	12	4	8
		100.0%	33.3%	66.7%
女性 16～19歳	60	52	8	
	100.0%	86.7%	13.3%	
女性 20～24歳	41	22	19	
	100.0%	53.7%	46.3%	
女性 25～29歳	13	6	7	
	100.0%	46.2%	53.8%	
属性	高校生	65	56	9
		100.0%	86.2%	13.8%
	専門学校・短大などの学生	2	1	1
		100.0%	50.0%	50.0%
	大学生・大学院生	63	41	22
		100.0%	65.1%	34.9%
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	8	5	3
	100.0%	62.5%	37.5%	
正社員・正職員	25	11	14	
	100.0%	44.0%	56.0%	
専業主婦(夫)、家事手伝い	1	0	1	
	100.0%	0.0%	100.0%	
無業者	4	2	2	
	100.0%	50.0%	50.0%	

- 献血をしたことがない人でも、全体の69.0%が「はい(今後献血をしてみたい)」と回答した。
- 年代別で見ると、低年齢であるほど今後献血をしてみたいと回答する人が多かった。
- 属性別に見ると、高校生の86.2%が「はい」と回答し、今後の献血への興味が高い傾向がみられた。

(質問4で「いいえ(16歳未満)」と回答した方)

質問5②-1 16歳になったら献血をしてみたいと思いますか。



上段:人数 下段:(%)		全体	はい	いいえ
全体		36 100.0%	23 63.9%	13 36.1%
性別	男性	7 100.0%	5 71.4%	2 28.6%
	女性	29 100.0%	18 62.1%	11 37.9%
年齢	12歳	3 100.0%	3 100.0%	0 0.0%
	13歳	9 100.0%	4 44.4%	5 55.6%
	14歳	8 100.0%	5 62.5%	3 37.5%
	15歳	16 100.0%	11 68.8%	5 31.3%

○ 全体で見ると、「はい(今後献血をしてみたい)」と回答する人は63.9%と高い傾向がみられた。

(質問4で「16歳未満」と回答した方)
質問5-2 上記を選んだ理由を教えてください。

「はい」と回答した方の主な意見

■社会貢献

- ・よく、街頭などで、O型の血液が不足しているなどのお知らせをよく目にします。私自身協力したい気持ちは山々なのですが、年齢が達していないことや、体が弱く、貧血になってしまうのではないかとという不安から見て見ぬふりをしてきました。今年16の誕生日を迎えるのを期に、社会貢献の第一歩として、献血をやってみたいと思いました。(女性/15歳/高校生)
- ・輸血が必要な時はどのような時なのか調べてみると、病気や薬の影響で十分に血液をつくることができなくなったり、事故や手術、お産などで大量出血した時に必要になるそうだ。これらの事柄は意外と自分たちの身の回りに起こりうる可能性の高いものばかりだと思う。交通事故などは特にそうだ。自分にも輸血が必要な時がある可能性があるならば、今、血液を必要とする人のために献血をすることは大切なことだと思う。だから、僕は16歳になったら、献血に行ってみたいと思った。(男性/15歳/高校生)
- ・人の役に立てるし、大切な人の健康を守りたいからです。(女性/14歳/中学生)

■知識面

- ・はたちの献血のページを見て、平均約3000人ほどが輸血を必要としていることに驚いた。また、献血の所要時間は15分ほどと思っていたより短いことを知ったことなどが理由だ。(男性/14歳/中学生)
- ・献血がどのようなものか知りたいからです。それだけではなく、自分が献血をすることによって、一人でも多くの人を救いたいからです。(女性/12歳/中学生)
- ・以前は献血についてあまり知識がなく、献血によって多くの人を助かることは知っていたが、「献血をすることで病気に感染したり、体調が悪くなるのでは」という漠然とした不安があった。しかし、今回はたちの献血のホームページなどで献血ルームや献血バスでは献血をする人が安全、快適に献血をできるように知られていることを知り、16歳になったら家族や友人と一緒に訪れたいと思った。(男性/15歳/高校生)

■その他

- ・16歳の誕生日に、記念としてやってみたい。(女性/12歳/中学生)
- ・自分たちの学校は献血するとたくさんお菓子がもらえるから。(女性/15歳/高校生)

「いいえ」と回答した方々の主な意見

■知識面

- ・怖いし献血をしても自分の利益にならないと思うし、その血がどのようにして使われるのかわからないから。(男性/13歳/中学生)
- ・痛そう。どのような用途で自分の血液が使われるかわからないから。どのような手順で献血をするのか

わからないから。お金がかかるのか？（女性/15歳/高校生）

- ・16歳で献血をしても体の健康に影響がないのか、という知識が乏しく、まだ献血をするという決断に至れないから。（女性/15歳/高校生）

■恐怖

- ・何となくこわいと思う。（女性/15歳/高校生）
- ・献血ルームで多くの人を見かけたので、たぶん大丈夫だと思うけど、詳しく教えてもらっていないので、何となくこわい。（女性/13歳/中学生）

■健康面

- ・体が小さく、献血したいが貧血になっては困るから。（男性/15歳/高校生）